

第2章 統計

第1節 実績の概要

第1項 産科部門診療実績

産科部門については、県内全ての分娩取扱医療機関（病院、診療所、助産所）に周産期情報の提供を依頼し、県内周産期医療の現状を把握できるようにしている。

本年の対象医療機関は、10 病院、14 診療所、7 助産所となっている。

本調査による本年の総分娩数は7,771 例であった。うち病院が3,132 例で40,3%、診療所が4,454 例で57.3%、助産所が185 例で2.4%となっている。全国の傾向と同様に県内でも分娩数は減少している。

早産と定義される37 週未満の分娩は398 例で全体の5.1%となっている。また低出生体重児は662 例で8.5%となっている。診療所でも207 例（全低出生体重児のうちの31,2%）の低出生体重児を扱っている。高年出産とされる35 歳以上での出産は2,321 例あり、全体の29.8%となっている。

合併症妊娠では、糖尿病（含GDM）が最も多く271 例となっている。産科合併症は弛緩出血が680 例で最も多い（表34）。

表 34 2023 年産科部門診療実績

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数(例)	800	634	62	307	1,329	4,454	185	7,771
	経膈分娩	475	366	34	242	961	3,575	185	5,838
	帝王切開	325	268	28	65	368	879	-	1,933
	うち予定	143	155	16	35	208	471	-	1,028
	うち緊急	182	113	12	30	160	408	-	905
	帝王切開率(%)	41.0%	42.3%	45.2%	21.2%	27.7%	19.7%	-	24.9%
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	74	44	-	-	1	2	-	121
	35週	34	27	-	5	5	6	-	77
	36週	45	33	2	6	47	64	3	200
	37週	126	104	3	26	156	361	6	782
	38週	208	185	19	81	301	1,082	29	1,905
	39週	180	119	14	84	347	1,387	71	2,202
	40週	138	117	16	79	378	1,223	67	2,018
	41週	36	42	8	27	95	317	9	534
	42週以上	-	-	-	1	-	3	-	4
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	
出生体重 (死産児は除く)	1,500g未満	38	8	-	-	-	-	-	46
	1,500-1,999g	42	37	-	2	7	4	-	92
	2,000-2,499g	103	104	4	23	81	203	6	524
	2,500g以上	658	522	58	284	1,242	4,238	179	7,181
出産時年齢	35歳未満	479	353	24	196	939	3,336	123	5,450
	35-39歳	223	197	27	90	307	918	54	1,816
	40-44歳	94	77	11	20	81	192	7	482
	45歳以上	4	7	-	1	2	8	1	23

(例)

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	病院 (左4病院除く)	診療所	助産所	合計
合併症妊娠	子宮筋腫	64	43	3	11	25	91	-	237
	子宮筋腫（核出術後）	15	18	-	6	8	8	-	55
	卵巣嚢腫（腫瘍）	14	12	-	4	14	21	2	67
	子宮頸癌（含円錐切除後）	7	11	2	-	8	10	-	38
	子宮形態異常	2	5	-	1	1	3	-	12
	甲状腺機能亢進症	16	11	-	6	7	8	-	48
	甲状腺機能低下症	28	45	6	10	20	42	-	151
	糖尿病（含GDM）	85	54	8	38	39	47	-	271
	喘息	23	14	-	8	17	134	-	196
	慢性腎炎	1	6	-	1	-	-	-	8
	本態性高血圧	9	10	1	1	4	-	-	25
	特発性血小板減少性紫斑病（ITP）	-	1	-	-	-	-	-	1
	自己免疫疾患	6	4	1	2	4	1	-	18
	循環器疾患	14	3	1	4	9	1	-	32
	精神科疾患（含てんかん）	30	40	-	7	11	12	-	100
	ウイルス性肝炎（※1）	-	4	1	1	1	1	-	8
	消化器疾患（※2）	2	6	-	1	8	7	-	24
その他	103	33	-	-	16	5	-	157	
産科合併症 (重複あり)	切迫早産（※3）・前期破水（※4）	194	82	1	7	100	138	-	522
	妊娠高血圧症候群	92	53	2	15	40	75	-	277
	胎児発育不全	46	44	2	1	6	18	-	117
	多胎妊娠	46	42	-	2	4	5	-	99
	前置胎盤	9	18	-	1	1	-	-	29
	子癇	1	-	-	-	-	-	-	1
	弛緩出血（※5）	75	78	6	72	95	351	3	680
	常位胎盤早期剥離	5	4	-	1	4	4	-	18
	HELLP症候群	1	2	-	-	1	-	-	4
	低置胎盤	16	10	2	3	7	1	-	39
	血液型不適合	15	17	-	1	4	7	-	44
	羊水過多	8	5	-	1	-	10	-	24
	羊水過少	13	7	-	1	9	42	-	72
	先天異常	61	17	-	-	1	2	1	82
その他	29	33	-	-	1	-	-	63	
産科手術他	子宮頸管縫縮術	22	9	-	-	6	5	-	42
	卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	5	-	-	10	1	-	21
	産道血腫除去術	3	-	-	2	1	2	-	8
	子宮動脈塞栓術	6	3	-	1	2	-	-	12
	子宮摘出術	-	-	-	-	-	-	-	-
	胎児胸腹水穿刺	-	-	-	-	-	-	-	-
	羊水除去	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	2	-	-	3	16	-	21	
輸血治療症例	16	16	3	5	4	3	-	47	

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など／※3 入院のみ／※4 早産期／※5 羊水を含む出血量800ml以上、帝王切開1500ml以上

※ 参考

1 医療機関別特定妊婦数および未受診妊婦数

各医療機関において分娩を取り扱った患者のうち、市町村が認定した特定妊婦の数について集計を行った。また未受診妊婦についても集計した。

医療機関等において特定妊婦と思われる者を把握したときには、支援につなげるため、市町村に情報提供することが児童福祉法において努力義務として求められている。県内医療機関においても関係機関との連携に努めているところである。

特定妊婦は147名であり、2022年より増加した。未受診妊婦は13名であり、前年とほぼ同程度である。なお、未受診妊婦は、①全妊娠期間を通じての妊婦健診受診回数が3回以下あるいは②最終受診日から3か月以上の受診がない、のいずれかに該当する場合とした（表35）。

表 35 医療機関別特定妊婦および未受診妊婦数報告内訳

(例)

		奈良 医大	県総合	近大 奈良	天理 よろづ	市立 奈良	大和 郡山	大和 高田	高井	桜井	生駒 市立	診療所	助産所	計
2023年	特定妊婦数	34	37	-	2	4	5	17	1	5	-	42	-	147
	未受診妊婦数	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	13
	計	34	49	-	2	4	5	17	1	5	-	43	-	160
2022年	特定妊婦数	22	25	-	5	9	4	-	-	1	-	39	-	105
	未受診妊婦数	2	9	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	12
	計	24	34	-	5	10	4	-	-	1	-	39	-	117
2021年	特定妊婦数	36	21	-	1	7	2	17	-	1	8	38	-	131
	未受診妊婦数	3	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	7
	計	39	24	-	2	7	2	17	-	1	8	38	-	138

※各医療機関において分娩を取り扱った患者が対象

<妊娠の届出（母子健康手帳の交付）等の状況>

市町村への妊娠届出数のうち保健師が面談、アセスメント等を行い支援が必要となった妊婦の数および特定妊婦数について県内市町村分をとりまとめて集計している。妊娠届出数は減少しているが支援が必要となった妊婦数は増加傾向である（表 36）。

表 36 令和 5 年度妊娠の届出状況

(件)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総数	妊娠届出数	8,901	8,411	8,160	7,748	7,339	6,969
	支援が必要となった妊婦の数	1,803	1,817	1,808	1,768	1,854	1,974
	特定妊婦数	209	218	177	174	184	187
満11週以内 (3ヶ月以内)	妊娠届出数	8,526	8,032	7,891	7,521	7,075	6,699
	支援が必要となった妊婦の数	1,650	1,634	1,673	1,638	1,710	1,812
	特定妊婦数	155	157	138	137	146	139
満12週～19週以内 (第4月～第5月以内)	妊娠届出数	268	275	188	173	181	208
	支援が必要となった妊婦の数	101	115	81	90	76	113
	特定妊婦数	32	31	19	25	11	25
満20週～27週以内 (第6月～第7月以内)	妊娠届出数	44	50	32	32	41	35
	支援が必要となった妊婦の数	29	33	27	25	36	29
	特定妊婦数	10	12	8	6	14	11
満28週～分娩まで (第8月～分娩まで)	妊娠届出数	17	21	18	10	22	12
	支援が必要となった妊婦の数	17	20	16	9	19	9
	特定妊婦数	9	13	9	4	11	6
分娩後	妊娠届出数	2	5	1	5	8	7
	支援が必要となった妊婦の数	2	5	1	4	7	6
	特定妊婦数	1	2	-	2	2	4
不詳	妊娠届出数	44	28	30	7	12	8
	支援が必要となった妊婦の数	4	10	10	2	6	5
	特定妊婦数	2	3	3	-	-	2

※支援が必要な妊婦：各市町村がアセスメントにより支援が必要と認められる妊婦

(県健康推進課調べ)

※特定妊婦：出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦

第2項 新生児部門診療実績

新生児部門については、奈良医大、県総合、近大奈良および天理よろづからデータ集計を行った。

本調査による本年の新生児入院数は、979例で、うち院内出生が842例、院外出生が137例であった。入院時疾患は、呼吸器疾患が最も多く、253例であった。人工呼吸器管理症例数は228例で全体の23.2%であった。早期新生児死亡は1例、後期新生児死亡は1例、乳児死亡例は5例であった。死亡症例の詳細は、重症新生児仮死1例、超低出生体重児1例、接合部型先天性表皮水疱症1例、18トリソミー1例、先天性横隔膜ヘルニア・虚血性低酸素性脳症1例、低出生体重児・ミトコンドリア病1例、重症新生児仮死・無気肺・慢性肺疾患1例である。新生児搬送収容数は128例で、搬送疾患は呼吸器疾患が59例と最も多い（表37）。

表 37 2023年新生児部門診療実績

(例)

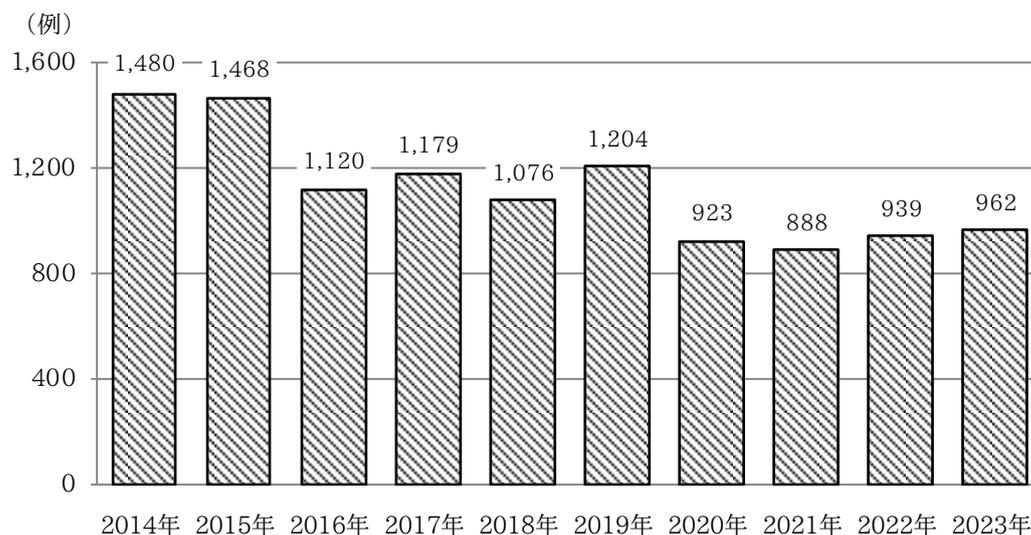
施設名		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	合計
入院数	院内出生	299	441	-	102	842
	院外出生	49	87	-	1	137
主病名	呼吸器疾患	58	161	-	34	253
	心・循環器疾患	26	12	-	-	38
	消化管疾患	19	22	-	4	45
	脳・神経疾患	16	21	-	-	37
	染色体異常 形態異常症候群	19	15	-	1	35
	感染症	19	24	-	20	63
	代謝内分泌	14	12	-	13	39
	その他	234	330	-	25	589
人工呼吸器管理症例	入院数	348	528	-	103	979
	人工呼吸器管理症例数	126	78	-	24	228
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）		-	1	-	-	1
後期新生児死亡数（日齢7日以上28日未満の死亡）		-	1	-	-	1
乳児死亡数（日齢28日以降の死亡）		4	1	-	-	5
新生児搬送収容数		46	82	-	-	128
新生児搬送疾患名 （重複あり）	呼吸器疾患	11	48	-	-	59
	心・循環器疾患	7	5	-	-	12
	消化管疾患	5	12	-	-	17
	脳・神経疾患	9	9	-	-	18
	染色体異常 形態異常症候群	6	8	-	1	15
	感染症	4	5	-	-	9
	その他	4	9	-	2	15

第2節 奈良県立医科大学附属病院

第1項 産科部門診療実績

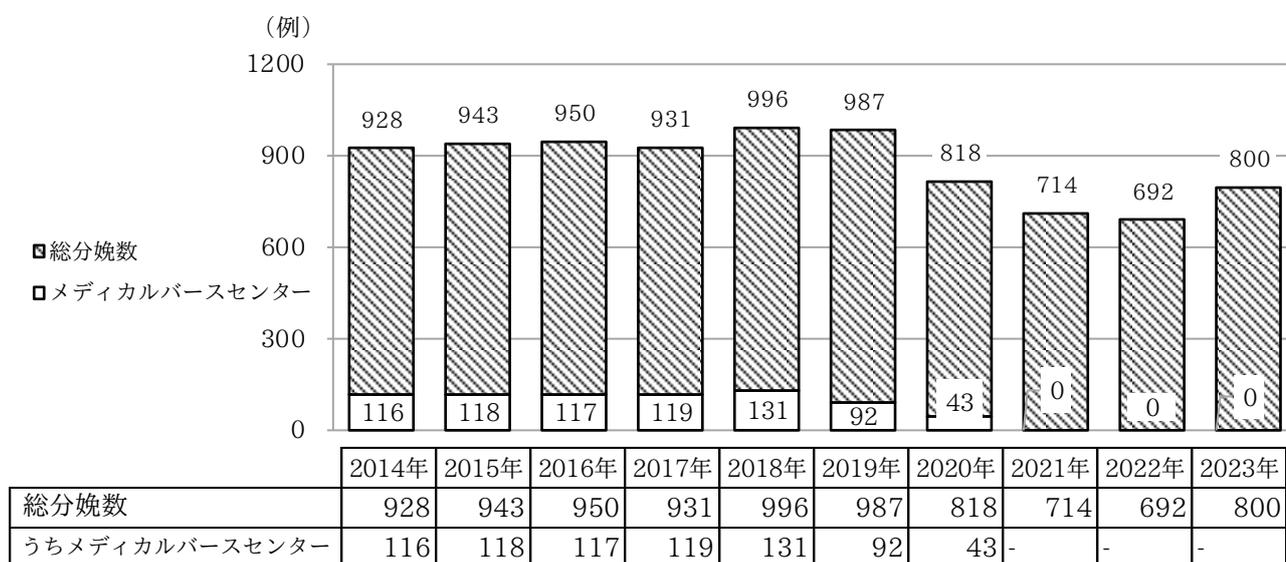
1 入院数

2021年以降、増加傾向が続いている。



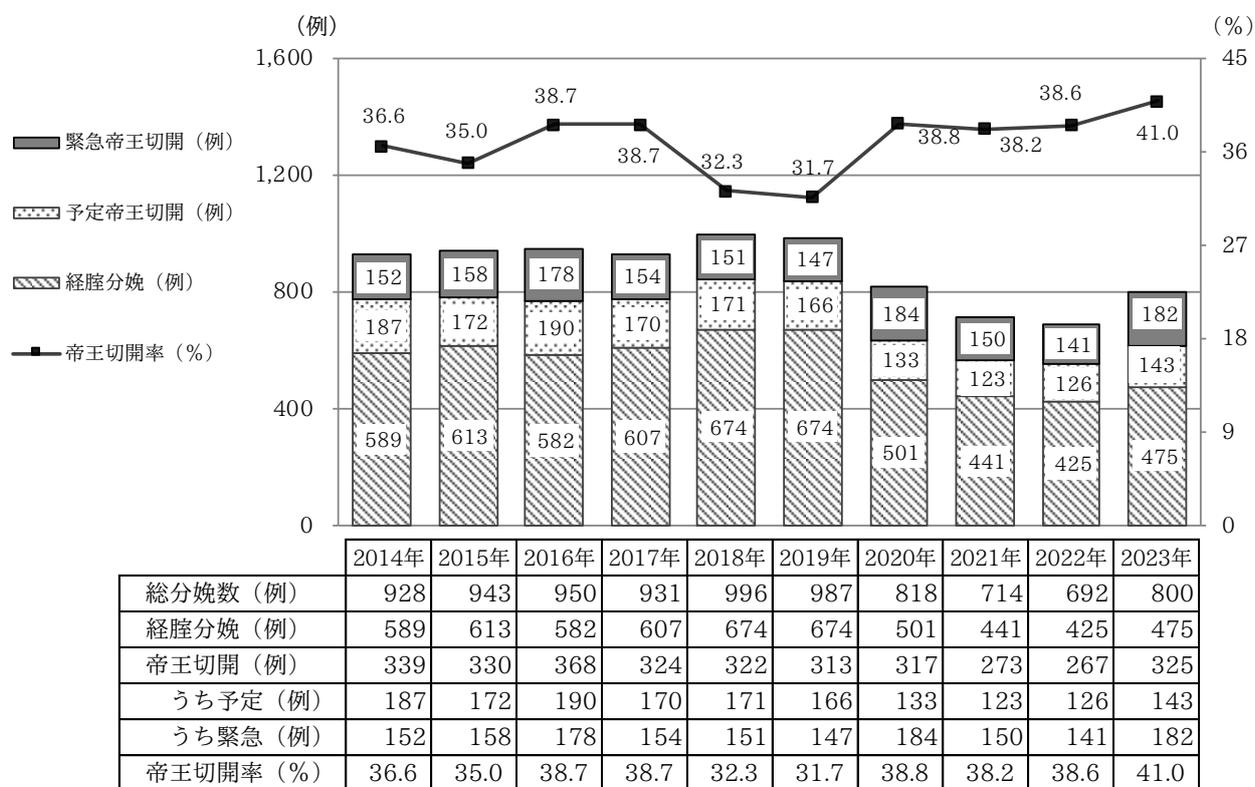
2 分娩数

分娩数は2018年以降減少傾向にあったが、本年は6年ぶりに増加に転じた。



3 分娩様式

帝王切開率は数年 38%台で推移していたが本年は 40%を超え、近年 10 年で最も高率となった。内訳として緊急帝王切開が増加していた。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

28 週未満の超早産の症例数は、前年増加し、本年も前年と同程度となっている。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
22週	2	3	1	2	1	1	-	-	1	-
23週	1	2	1	1	-	-	2	3	1	1
24週	3	5	2	4	2	1	-	1	5	1
25週	1	1	2	3	2	1	3	4	5	7
26週	5	2	3	4	4	1	2	1	2	6
27週	3	2	1	7	7	4	3	2	7	5
28週	4	8	4	1	3	-	5	3	5	4
29週	4	2	6	-	5	3	2	4	3	5
30週	3	4	3	5	9	7	8	4	4	5
31週	7	6	7	8	6	3	4	3	4	9
32週	7	9	8	11	8	8	13	11	3	8
33週	11	10	8	10	13	15	13	9	7	9
34週	8	10	21	20	17	32	25	13	20	14
35週	24	33	15	27	34	38	37	43	20	34
36週	41	77	62	46	56	62	43	41	25	45
37週	156	159	174	129	162	146	129	108	120	126
38週	208	209	225	221	243	246	209	205	195	208
39週	202	182	220	182	241	225	164	165	149	180
40週	168	203	177	182	175	181	133	96	118	138
41週	51	58	64	64	63	60	36	38	33	36
42週以上	-	4	1	2	-	-	-	3	-	-
不明	-	5	2	2	1	2	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

28週未満での出生症例が集積するため、500-900gにもピークのある二峰性分布となっている状態が数年持続している。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
500g未満	5	7	3	9	3	2	-	2	1	1
500-999g	15	19	15	9	18	13	15	15	26	22
1,000-1,499g	25	13	20	20	17	13	23	9	8	15
1,500-1,999g	45	48	40	48	56	52	42	46	27	42
2,000-2,499g	136	137	135	143	141	145	147	131	100	103
2,500g以上	748	770	763	753	817	811	603	554	565	658
不明	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

6 出産時年齢（例）

全国水準と同様に、妊婦の高齢化が進んでいる。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	644	610	636	614	671	647	514	493	426	479
35-39歳	225	250	240	249	257	246	224	163	186	223
40-44歳	56	79	72	103	89	93	72	56	76	94
45歳以上	4	4	2	2	5	1	8	2	4	4

7 合併症妊娠（例）

合併症妊娠の傾向は例年通りであった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	52	49	36	67	67	59	45	73	51	64
子宮筋腫（核出術後）	6	5	-	-	4	9	3	5	18	15
卵巣嚢腫（腫瘍）	22	25	25	20	4	22	13	23	28	14
子宮頸癌（含円錐切除後）	7	9	-	15	3	12	8	1	10	7
子宮形態異常	2	4	3	4	2	11	3	-	1	2
甲状腺機能亢進症	8	14	9	13	11	18	14	17	8	16
甲状腺機能低下症	17	14	17	35	31	41	23	34	32	28
糖尿病（含GDM）	45	54	62	67	62	87	74	72	63	85
喘息	19	25	28	19	14	25	17	15	30	23
慢性腎炎	1	12	4	1	1	3	4	1	2	1
本態性高血圧	12	12	13	13	10	15	8	13	12	9
I TP	-	-	-	-	5	9	3	-	2	-
自己免疫疾患	14	10	9	14	11	15	6	7	21	6
循環器疾患	17	14	-	-	16	16	11	11	12	14
精神科疾患（含てんかん）	47	49	43	25	47	44	34	48	53	30
ウイルス性肝炎（※1）	9	11	5	5	3	9	4	4	5	-
消化器疾患（※2）	13	12	20	8	78	14	5	9	7	2
その他	-	-	-	-	63	35	30	44	90	103

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

切迫早産・前期破水症例の増加傾向が例年と比較して多かった。分娩数増加を考慮しても、明らかな増加傾向を認めており、後述の切迫早産・前期破水を理由とする母体搬送収容数の増加が一因である。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	131	109	115	177	114	153	168	123	64	194
妊娠高血圧症候群	49	49	51	63	58	57	59	86	83	92
胎児発育不全	45	31	28	52	80	76	46	40	41	46
多胎妊娠	56	51	66	55	65	52	51	46	35	46
前置胎盤	14	21	16	21	10	15	9	14	11	9
産後出血（※3）	24	10	21	-	18	12	-	-	-	-
子癇	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1
弛緩出血（※4）	-	-	142	91	108	78	93	131	57	75
常位胎盤早期剥離	15	10	18	12	16	11	11	5	6	5
HELLP症候群	6	4	-	5	5	3	3	4	6	1
低置胎盤	12	6	13	19	5	13	3	12	3	16
血液型不適合	11	12	18	13	1	10	5	3	15	15
羊水過多	8	7	7	7	6	14	15	11	5	8
羊水過少	14	9	7	7	9	11	12	16	12	13
先天異常	28	-	36	20	35	55	47	33	45	61
その他	-	-	-	-	261	88	90	77	4	29

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

当院で分娩管理を行った症例に加えて、産後の母体搬送症例も含めた数で集計している。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸管縫縮術	8	14	12	12	26	24	19	14	8	22
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	1	3	-	-	-	-	8	6	3	5
産道血腫除去術	8	1	-	-	8	4	4	5	4	3
子宮動脈塞栓術	5	3	1	8	5	5	3	7	9	6
子宮摘出術	4	4	2	1	-	1	-	1	-	-
胎児胸腹水穿刺	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
羊水除去	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-

10 輸血治療症例（例）

自己血輸血のみの症例は含めていない。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	22	9	9	23	11	16	17	17	8	16

11 NICU 収容症例（例）

例年と同程度であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
NICU収容症例数	131	160	195	377	401	426	358	297	256	299

1 2 多胎妊娠（例）

多胎妊娠数は例年と同程度で推移している。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
双胎	56	50	66	55	64	50	51	44	35	46
うちMD（※1）	19	37	20	22	44	38	16	17	13	14
うちDD（※2）	37	11	45	33	20	12	33	26	22	32
うちMM（※3）	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-
うち不明	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
三胎	-	1	1	2	1	2	-	2	-	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎／※3 一絨毛膜一羊膜双胎

1 3 母体搬送収容数（例）

本年は例年と比較して母体搬送収容数が多かった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
母体搬送収容数	107	125	106	127	130	123	132	124	153	148

1 4 母体搬送疾患名（例、重複あり）

前年と同様に、本年も産後出血による母体搬送が多かった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	49	56	44	62	59	74	65	62	70	70
妊娠高血圧症候群	7	10	5	9	14	19	21	19	25	21
胎児発育不全	1	3	3	-	-	-	1	1	-	4
産後出血	16	12	12	20	16	10	14	13	24	22
胎児機能不全	2	1	4	3	4	4	7	6	8	6
常位胎盤早期剥離	8	8	7	3	4	6	11	5	4	1
前置胎盤	2	5	1	7	-	2	1	1	1	-
多胎	2	4	1	-	-	1	1	1	1	2
HELLP症候群	4	3	1	2	2	4	3	1	2	-
胎児形態異常	3	1	1	2	3	-	1	2	-	-
未受診	-	-	-	-	2	2	1	1	1	2
その他	13	22	30	17	25	22	11	8	28	19

※1 入院のみ／※2 早産期

15 先天異常（例、重複あり）

本年は前年までに比べ、胎内診断がなされていた割合が高かった。

疾患名	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年			
	症例数	胎内診断																				
21トリソミー	7	5	3	1	4	2	3	3	1		9	6	2	1	7	3	5	5	2	2		
18トリソミー			3	3	4	3	1	1	3	1	2	2	3	3	3	1	3	3	2	2		
13トリソミー											1		1	1	1							
先天異常症候群					1						2		1									
cystic hygroma	4	4	6	6	3	3	1	1	2	2	3	3	2	2								
胎児水腫		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2			3	3	1	1		
胸腹水	1	1							2	2			1	1								
髄膜瘤			3	2	1	1			1	1	1	1			1	1				1	1	
脳室拡大	6	6	2	2	2	2			3	3	1	1					1	1	5	5		
脳室内嚢胞																	5	1				
頭蓋内嚢胞									1	1			2	2	1	1			2	2		
脳梁欠損	1	1			1	1			1	1												
小脳低形成									1	1	1	1	2	2					1	1		
巨大大槽																	1	1				
脳出血	1								1													
硬膜下血腫	1										1											
頭皮欠損									1													
小眼球症																	1	1				
口唇裂・口蓋裂	1	1			5	5			8	8	4	4	5	2	9	7	3	3	4	4		
口輪筋欠損																	1					
鰓弓症候群											1											
副耳											2				3		2					
上顎腫瘍											1	1	1									
内臓錯位									1	1							1	1	2	2		
心室中隔欠損	2	1	2	1	5	2	1	1	4	4	5	3	14	14	7	3	6	4	11	11		
ファロー四徴症											2	2	2	2					2	2		
兩大血管右室起始					1	1			1	1	2	2	3	3	1	1			1	1		
Ebstein奇形									2	1					1	1	1		1	1		
肺動脈弁閉鎖											1	1	1	1								
大動脈縮窄	1	1							1	1					2	2			1	1		
血管輪																	2	2				
Kommerell憩室											1				1							
右側大動脈弓																	2	2	3	3		
左心低形成									2	2			3	3	1	1			2	2		
不整脈	1	1							2	2							3	1				
心不全									1	1			1	1								
動脈管瘤											1	1	1	1								
横隔膜ヘルニア	1	1	2	2			1	1			1	1			1	1			2	2		
食道閉鎖											1	1	1									
先天性膈門閉鎖											1	1										
十二指腸閉鎖											2	2	1	1	1							
小腸閉鎖			1	1	1	1	1	1	1	1	2	2			1	1	2	2				
胎便性腹膜炎									1	1	1	1			1	1						
ヒルシュスプルング病											1				1		2					
腹壁破裂	2	2			2	2							1	1								
body stalk anomaly											1	1			1	1						
腹腔内嚢胞・腫瘍																	3	3				
肝嚢胞											1	1										
卵巣嚢腫									1	1					1	1	2	2				
副腎嚢胞																	1	1				
腹部リンパ腫									1	1					1	1						
水腎症	1	1							1	1	2	1	1	1			3	3	8	8		
片腎欠損											1	1			1	1			1	1		
尿道下裂	3		1								1	1	1		1	1	3		1	1		
性分化疾患																	1	1				
鎖肛					1						1											
手指異常（合指／多指）	1		3		2				1		6		2	1	6		2		2			
内反足											2		1									
外反足																	1					
反跳膝																	1	1				
四肢拘縮																	1	1				
骨系統性疾患			1	1	1	1	1	1	1	1	2	2					2	1	3	3		
筋ジストロフィー													1	1								
神経線維腫症1型																	1					
脳腫瘍																				1	1	
左上肺静脈遺残																				2	2	
臍帯静脈瘤																				1	1	
腹腔内嚢胞																				1	1	
気管軟化症																					1	1

16 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数（例）

前年と同程度であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
院内症例	64	37	37	67	34	81	75	66	75	71
搬送症例	97	112	83	118	124	134	138	133	151	140
合計	161	149	120	185	158	215	213	199	226	211

17 MFICU 入院適応（例）

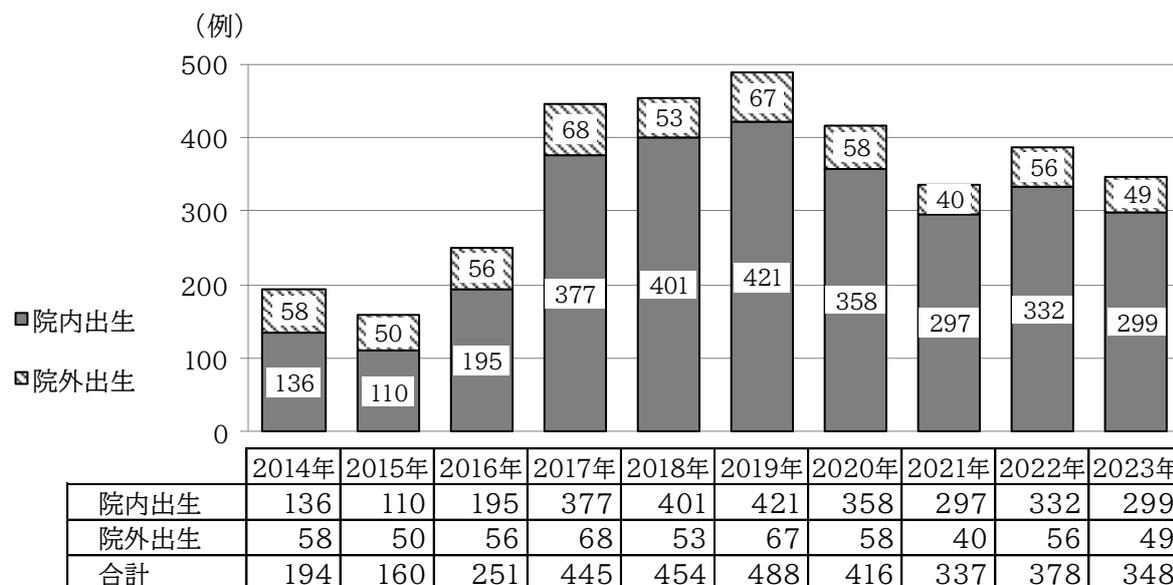
本年は切迫早産の入院症例数が近年で最も多かったが、実際に早産となった症例数は例年と同程度であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（入院のみ）	66	63	56	78	69	88	83	73	89	101
妊娠高血圧症候群	16	14	21	26	22	38	25	47	42	40
産後出血	25	11	18	28	18	12	20	15	25	24
常位胎盤早期剥離	13	11	9	6	12	6	8	6	6	4
胎児発育不全（胎内診断のみ）	2	8	10	5	9	1	5	1	3	7
前置胎盤	8	10	8	16	2	12	7	6	10	4
双胎	10	6	8	6	10	5	14	8	1	5
HELLP症候群	4	4	3	4	4	3	2	3	3	-
先天異常	6	2	3	1	8	4	2	1	4	1
肺水腫	-	-	2	1	-	1	1	1	-	-
合併症妊娠	5	6	5	7	20	29	25	9	13	4
その他	-	17	12	14	8	16	21	29	41	21

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

総入院数は348例（再入院10例を除く）で、院内出生は299例、院外出生は49例で、前年よりもやや減少している。



2 主病名 (例)

超低出生体重児、極低出生体重児、低出生体重児や外科疾患は横ばい、COVID-19 母体から出生した児は減少した。

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
消化管疾患	23	24	8	21	19
新生児嘔吐症	5	12	-	3	10
哺乳不良	6	1	1	2	2
腸回転異常症	1	-	-	-	2
鎖肛	-	3	2	2	1
腸管拡張	1	-	-	-	-
肝嚢胞	1	-	-	1	-
新生児メレナ	-	-	1	2	2
腹壁破裂	-	1	-	-	-
臍帯ヘルニア	-	-	1	1	-
胃軸捻転	1	-	-	-	-
急性胃粘膜病変	-	-	-	-	-
小腸十二指腸閉鎖	-	2	-	-	-
小腸閉鎖	2	-	-	4	-
十二指腸狭窄症	1	-	-	1	-
結腸閉鎖	-	-	-	-	-
小腸軸捻転	-	-	-	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	2	-	1	-	1
先天性胆道拡張症	-	-	-	-	-
先天性食道閉鎖	1	1	-	1	-
胃食道逆流	-	-	-	-	-
腸閉塞	-	1	-	-	-
肥厚性幽門狭窄症	-	1	-	1	-
壊死性腸炎	-	1	-	-	-
ヒルシュスブルング病	2	1	-	3	-
ミルクアレルギー	-	-	2	-	1
代謝内分泌	13	18	15	7	14
低血糖	11	11	4	3	4
先天性甲状腺機能低下症	-	-	-	-	-
新生児一過性甲状腺機能亢進症	1	6	9	4	8
ホモシチン尿症	-	-	-	-	-
プロピオン酸血症	-	-	1	-	1
遠位尿細管性アシドーシス	-	-	1	-	-
代謝性アシドーシス	-	1	-	-	-
Smith-Lemli-Opitz 症候群	1	-	-	-	-
先天性副腎低形成症	-	-	-	-	1
その他	324	321	259	213	234
低出生体重児 (1,500-2,499g)	128	166	142	86	118
極低出生体重児 (1,000-1,499g)	12	27	9	11	13
超低出生体重児(<1,000g)	15	15	18	27	24
早産児	6	6	5	3	3
新生児仮死	15	14	10	11	7
sleeping baby	3	-	-	-	-
新生児高ビリルビン血症	107	50	35	40	32
血友病A	-	-	1	-	-
多血症	1	5	2	2	6
ABO血液型不適合	2	1	2	2	-
Rh不適合	1	-	-	1	-
その他の血液型不適合	1	-	-	-	-
新生児薬物離脱症候群	27	29	27	24	27
墜落分娩	3	3	-	1	1
遺伝性球状赤血球症	-	-	1	-	-
卵巣出血	-	-	-	-	-
両下鼻甲粘膜腫脹	1	-	-	-	-
未熟網膜症	1	1	-	-	-
分娩麻痺疑い	1	-	-	-	-
母児間輸血症候群	-	2	-	1	-
胎児水腫	-	1	1	-	-
上腕骨折	-	1	-	-	-
未受診妊婦から出生した児	-	-	2	-	-
双胎児間輸血症候群	-	-	2	-	-
プロテインC欠乏症	-	-	1	-	-
Gilbert 症候群	-	-	1	-	-
新生児溶血性黄疸	-	-	-	1	-
ジルベール症候群	-	-	-	1	-
大腿骨骨折	-	-	-	1	-
左上肢麻痺・鎖骨骨折	-	-	-	1	-
卵巣嚢腫	-	-	-	-	-
新生児の易刺激性	-	-	-	-	1
新生児低体温症	-	-	-	-	1
鎖骨骨折	-	-	-	-	1

次ページへ続く

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
染色体異常 奇形症候群	12	27	37	28	19
ダウン症候群	3	9	7	7	4
18トリソミー	2	3	3	2	2
13トリソミー	1	-	2	-	-
口唇口蓋裂	2	1	6	5	4
上顎体	1	-	-	-	-
先天性魚鱗癬症候群	1	-	-	-	-
Beals症候群	1	-	-	-	-
ブラダーウィリ症候群	-	1	-	-	-
尿道下裂	-	1	1	4	-
タナトフォリック骨異形成症	-	-	-	1	-
反張膝	1	-	-	-	-
筋強直性ジストロフィー	-	2	-	-	-
先天性白内障	-	2	1	-	-
低ホスファターゼ血症	-	1	-	-	-
先天性ネフローゼ症候群	-	1	-	-	-
膀胱尿管移行部狭窄	-	1	-	-	-
顎下腺内嚢胞	-	1	-	-	-
舌根部腫瘍	-	1	-	-	-
膈前庭部腫瘍	-	1	-	-	-
重複腎盂	-	1	-	-	-
染色体異常	-	-	2	-	-
Body stalk anomaly	-	-	1	-	-
Goldenhar syndrome	-	-	1	-	-
VETER症候群	-	-	1	-	-
XXY症候群	-	-	1	-	-
コルネリア・デランゲ症候群	-	-	1	-	-
胸郭形成不全	-	-	1	-	-
結節性硬化症	-	-	1	-	-
内臓逆位	-	-	1	-	-
皮下リンパ管腫	-	-	1	-	-
多嚢胞性腎症	-	-	1	-	-
水腎症	-	-	1	2	1
卵巣のう腫	-	-	1	1	-
皮膚洞	-	-	1	-	-
腹腔内リンパ管腫	-	-	1	1	-
胎児水腫	-	1	1	1	-
先天性表皮水疱症	-	-	-	1	2
先天性内反足	-	-	-	1	-
耳介低位・耳孔欠損	-	-	-	1	-
副腎嚢胞	-	-	-	1	-
ミトコンドリア病	-	-	-	-	1
先天性嚢胞肺疾患	-	-	-	-	1
下顎腫瘍	-	-	-	-	1
多のう胞性異形成腎	-	-	-	-	1
骨系統疾患	-	-	-	-	1
先天性側弯症	-	-	-	-	1

内
訳

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
心・循環器疾患	18	37	36	25	26
左心低形成	-	2	2	-	1
不整脈	2	1	2	3	-
大動脈縮窄症	1	-	2	5	1
右大動脈弓	2	-	2	-	2
Fallot四徴症	2	2	2	1	6
心室中隔欠損症	2	14	8	4	5
先天性動脈管開存症	-	1	1	-	-
総肺静脈還流異常症	-	2	2	-	-
両大血管右室起始	-	1	2	-	1
完全大血管転位	1	-	3	2	1
Ebstein奇形	-	-	-	1	1
肺動脈閉鎖	1	3	-	-	1
肺動脈弁狭窄症	1	-	1	-	-
末梢性チアノーゼ	1	-	-	-	-
動脈管瘤	3	2	2	-	-
先天性心疾患の疑い	-	-	-	1	-
房室中隔欠損症	-	1	2	3	1
新生児遷延性肺高血圧	1	-	1	2	-
左肺動脈欠損	1	-	-	-	-
心房中隔欠損症	-	1	1	-	-
大動脈弓離断	-	1	-	-	2
動脈管蛇行	-	1	-	-	-
左室型単心室症	-	1	-	-	-
左上大静脈遺残	-	1	-	-	-
僧帽弁閉鎖症	-	1	-	-	-
三尖弁異形成	-	1	-	-	-
静脈管開存	-	1	-	-	-
三尖弁閉鎖	-	-	2	-	1
単心室症	-	-	1	-	-
ション複合	-	-	-	1	1
血管輪	-	-	-	1	-
急性循環不全	-	-	-	1	-
心室中隔欠損症・動脈管開存症・ 心房中隔欠損症	-	-	-	-	1
急性循環不全	-	-	-	1	-
心室中隔欠損症・動脈管開存症・ 心房中隔欠損症	-	-	-	-	1

内
訳

次ページへ続く

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
呼吸器疾患	74	55	52	56	58
新生児一過性多呼吸	49	26	28	38	44
呼吸窮迫症候群	1	-	1	-	-
胎便吸引症候群	11	8	5	7	7
新生児無呼吸発作	7	11	4	8	5
気胸	4	4	12	1	2
内訳					
喉頭軟化症	2	-	-	-	-
気管軟化症	-	3	-	-	-
横隔膜弛緩症	-	1	-	-	-
肺低形成	-	1	1	-	-
鼻腔狭窄	-	1	-	-	-
肺毛細管形成異常	-	-	1	-	-
慢性肺疾患	-	-	-	2	-
感染症	16	17	9	52	19
新生児感染症	13	14	8	5	4
新生児TSS様発疹症	1	-	-	2	-
先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	1	-
先天性トキソプラズマ感染症	1	-	1	-	-
GBS感染症	-	1	-	1	1
敗血症	-	1	-	-	-
左肩関節炎	-	1	-	-	-
水痘疑い	1	-	-	-	-
COVID-19感染母体より出生した児	-	-	-	42	12
先天梅毒	-	-	-	1	1
新生児リステリア敗血症	-	-	-	-	1

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
脳・神経疾患	8	11	5	8	16
脳梗塞	-	-	-	-	1
帽状腱膜下血腫	2	-	-	1	-
新生児痙攣	2	1	1	1	-
硬膜下血腫	-	2	-	1	1
脊髄脂肪腫	-	1	-	-	-
脳梁欠損症	-	2	-	-	-
脊髄髄膜瘤	1	-	1	-	1
頭蓋内出血（尾状核出血）	1	-	2	1	1
先天性水頭症	2	1	1	-	-
内訳					
仙骨部皮膚陥凹	-	1	-	-	-
頭蓋骨骨折	-	1	-	1	-
分娩時外傷性脳内出血	-	1	-	-	-
脳室拡大	-	-	-	2	2
頭血腫	-	-	-	1	2
巨大大槽	-	-	-	1	-
透明中隔のう胞	-	-	-	-	3
巨頭症	-	-	-	-	2
小脳低形成	-	-	-	-	2
頭蓋骨早期癒合症	-	1	-	-	1

3 出生週数（例）

※再入院 10 例は除く

出生時週数別の入院数は 28 週未満で出生した児は 20 例でほぼ横ばい、28 週以上 36 週未満は 87 例とやや増加した。36 週以上の児は大きく減少している。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
22週	2	1	3	1	1	1	-	-	1	-
23週	2	1	2	2	-	-	1	5	1	2
24週	4	6	3	3	2	3	1	1	5	1
25週	3	1	2	2	2	1	3	4	5	7
26週	5	1	3	6	4	1	2	1	4	6
27週	4	3	2	5	7	5	3	2	7	4
28週	6	7	5	1	3	-	5	3	8	4
29週	4	2	6	5	5	3	5	5	3	5
30週	3	4	5	5	10	7	10	4	4	5
31週	8	6	7	13	6	3	4	3	4	9
32週	8	8	10	16	8	8	13	9	3	6
33週	15	10	8	11	13	14	13	9	7	9
34週	8	11	22	24	19	32	26	13	20	14
35週	13	14	12	32	35	40	37	46	22	35
36週	15	13	20	39	38	46	34	29	23	30
37週以上	89	70	135	280	292	323	259	202	259	209
不明	-	-	-	-	3	1	-	1	2	2

(※2019年不明 1 例は、未受診妊婦のため週数不明)

4 出生時体重（例）

※再入院 10 例は除く

出生時体重別の入院数は、1,000g 未満の超低出生体重児は 24 例、1,500g 未満の極低出生体重児は 37 例、1,500-2,500g 未満の低出生体重児は 118 例でほぼ横ばいであった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
500g未満	5	1	3	3	3	2	-	2	-	1
500-749g	9	10	8	9	7	2	7	11	11	9
750-999g	8	9	9	6	11	13	8	5	16	14
1,000-1,249g	7	3	9	7	6	5	13	4	6	6
1,250-1,499g	16	10	15	15	13	8	14	5	7	7
1,500-1,749g	14	14	14	20	15	18	16	19	16	20
1,750-1,999g	14	18	26	34	42	35	31	29	15	24
2,000-2,249g	10	16	24	53	55	57	67	50	38	44
2,250-2,499g	21	15	31	53	53	50	52	44	48	30
2,500g以上	85	62	106	240	243	298	208	168	221	193

5 人工呼吸器管理（例）

人工呼吸器管理症例は前年より約 30 例増加し、重症例が増えている。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
入院数（例）	216	225	203	177	272	280	275	344	384	348
人工呼吸器管理症例数（例）	66	84	67	63	60	54	61	96	99	126
人工呼吸器管理症例率（%）	30.6	37.3	33.0	35.6	22.1	19.3	22.2	27.9	25.7	36.2

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科などを含む）

外科手術件数は 44 件とほぼ横ばい、心臓血管外科の手術件数が 18 件と多かった（1 症例に 2 件以上の手術の重複あり）。

出生体重	出生週数	疾患名	術式
500-749g	23週	超低出生体重児	動脈管閉存症手術
750-999g	25週	超低出生体重児	動脈管閉存症手術 網膜光凝固術
	26週	超低出生体重児	網膜光凝固術
	26週	超低出生体重児	網膜光凝固術
1,250-1,499g	29週	極低出生体重児	水頭症手術（脳室穿破術 穿頭脳室ドレナージ術 頭蓋内血腫除去） 中心静脈カテーテル埋込
1,750-1,999g	35週	早産児・低出生体重児・新生児一過性多呼吸	網膜光凝固術
2,500-2,749g	37週	18トリソミー	動脈管閉存症手術 気管切開術
	37週	脊髄髄膜瘤	脊椎破裂修復術 水頭症手術（脳室ドレナージ術 シャント手術）
	38週	ファロー四徴症	体・肺動脈短絡手術
	39週	急性硬膜下血腫	頭蓋内血腫除去術 穿頭脳室ドレナージ 創傷処理
2,750-2,999g	37週	大動脈離断複合	肺動脈絞扼術
	37週	純型肺動脈弁閉鎖症	体肺動脈短絡手術 試験開胸
	38週	低位鎖肛・心室中隔欠損症	鎖肛手術 肺動脈絞扼術
	38週	大動脈縮窄症・心室中隔欠損症・水腎症・角膜ヘルペス	両側肺動脈絞扼術 試験開胸術
	39週	房室中隔欠損症・ダウン症候群	肺動脈絞扼術
40週	心室中隔欠損症・動脈管閉存症・心房中隔欠損症	肺動脈絞扼術	
3,000-3,249g	39週	新生児頭蓋内出血	頭蓋内血腫除去術
3,250-3,499g	38週	左室低形成症	両側肺動脈絞扼術 気管切開術 左心低形成症候群手術（ノルウッド手術）
	39週	三尖弁閉鎖症	体・肺動脈短絡手術
	40週	腸回転異常症	腸回転異常症手術
3,500-3,749g	41週	先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下横隔膜縫合術
	41週	腸回転異常症・腸軸捻転	腸回転異常症手術

7 血液浄化症例

血液浄化症例は、黄疸による全血液交換輸血が 1 例、多血による部分交換輸血が 1 例であった。

出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
1,750-1,999g	32週	低出生体重児 黄疸	全血交換輸血
3,000-3,249g	39週	多血症	部分交換輸血

8 出生週数別の日齢28日以後の生存率（%）

	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）
22週未満	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
22週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	-（- / -）
23週	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）
24週	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）	100.0（5 / 5）	100.0（1 / 1）
25週	100.0（1 / 1）	66.7（2 / 3）	75.0（3 / 4）	100.0（5 / 5）	85.7（6 / 7）
26週	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）
27週	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）
28週	-（- / -）	80.0（4 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（8 / 8）	100.0（4 / 4）
29週	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）
30週	100.0（7 / 7）	90.0（9 / 10）	100.0（4 / 4）	75.0（3 / 4）	100.0（5 / 5）
31週	100.0（3 / 3）	75.0（3 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（9 / 9）
32週	100.0（8 / 8）	100.0（13 / 13）	100.0（9 / 9）	66.7（2 / 3）	100.0（6 / 6）
33週	100.0（14 / 14）	100.0（13 / 13）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（9 / 9）
34週	96.9（31 / 32）	100.0（26 / 26）	100.0（13 / 13）	95.0（19 / 20）	100.0（14 / 14）
35週	100.0（40 / 40）	100.0（37 / 37）	97.8（45 / 46）	100.0（22 / 22）	100.0（35 / 35）
36週	100.0（46 / 46）	100.0（34 / 34）	100.0（29 / 29）	95.7（22 / 23）	100.0（30 / 30）
37週以上	100.0（323 / 323）	99.6（258 / 259）	99.5（201 / 202）	99.6（258 / 259）	98.6（206 / 209）
不明	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）	100.0（2 / 2）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢28日以後の生存率（%）

	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）
500g未満	100.0（2 / 2）	-（- / -）	50.0（1 / 2）	-（- / -）	100.0（1 / 1）
500-749g	100.0（2 / 2）	100.0（7 / 7）	100.0（11 / 11）	100.0（11 / 11）	88.9（8 / 9）
750-999g	100.0（13 / 13）	75.0（6 / 8）	100.0（5 / 5）	100.0（16 / 16）	100.0（14 / 14）
1,000-1,249g	100.0（5 / 5）	100.0（13 / 13）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）	100.0（6 / 6）
1,250-1,499g	100.0（8 / 8）	100.0（14 / 14）	100.0（5 / 5）	85.7（6 / 7）	100.0（7 / 7）
1,500-1,749g	100.0（18 / 18）	93.8（15 / 16）	94.7（18 / 19）	87.5（14 / 16）	90.0（18 / 20）
1,750-1,999g	100.0（35 / 35）	100.0（31 / 31）	100.0（29 / 29）	93.3（14 / 15）	100.0（24 / 24）
2,000-2,249g	98.2（56 / 57）	100.0（67 / 67）	100.0（50 / 50）	100.0（38 / 38）	100.0（44 / 44）
2,250-2,499g	100.0（50 / 50）	100.0（52 / 52）	100.0（44 / 44）	100.0（48 / 48）	100.0（30 / 30）
2,500g以上	100.0（298 / 298）	99.0（206 / 208）	99.4（167 / 168）	99.5（220 / 221）	99.5（192 / 193）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	2	3	4	4	3	1	4	2	3	-
後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	1	1	1	-	-	-	1	1	2	-
乳児死亡数（日齢28日以降の死亡）	1	1	4	6	1	2	2	2	-	4

11 新生児搬送収容数（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
新生児搬送収容数	48	45	40	51	48	64	53	39	51	46

1 2 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

新生児搬送例の疾患は呼吸障害が最も多く、次いで循環器疾患が多かった。

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
呼吸器疾患		24	10	10	16	11
内 訳	呼吸障害	-	10	10	16	11
	新生児一過性多呼吸	22	-	-	-	-
	新生児無呼吸発作	2	-	-	-	-
	新生児気胸、新生児緊張性気胸	-	-	-	-	-
心・循環器疾患		6	8	10	7	7
内 訳	先天性心疾患	6	6	10	-	6
	心雑音	-	1	-	1	-
	不整脈	-	1	-	1	-
	動脈管開存症	-	-	-	-	-
	肺高血圧症	-	-	-	-	-
	上室性頻拍	-	-	-	-	-
	先天性心疾患の疑い	-	-	-	4	-
	チアノーゼ	-	-	-	1	1
消化管疾患		14	8	3	7	5
内 訳	新生児嘔吐症	7	2	2	-	-
	血便	-	-	1	1	-
	鎖肛	-	3	-	-	-
	腹部膨満	-	1	-	4	1
	哺乳不良	7	2	-	-	-
	吐血・血便	-	-	-	-	1
	嘔吐・哺乳不良	-	-	-	2	3
脳・神経疾患		2	3	-	-	9
内 訳	けいれん発作	2	2	-	-	-
	帽状腱膜下血腫	-	-	-	-	-
	脊椎脂肪腫	-	1	-	-	-
	痙攣・無呼吸	-	-	-	-	4
	頭蓋内出血	-	-	-	-	1
	新生児仮死	-	-	-	-	4
感染症		7	8	3	3	4
内 訳	感染症	7	8	3	3	4
	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	-	-
染色体異常 奇形症候群		1	1	6	4	6
内 訳	染色体異常	1	1	6	-	-
	先天異常・染色体異常の疑い	-	-	-	4	6

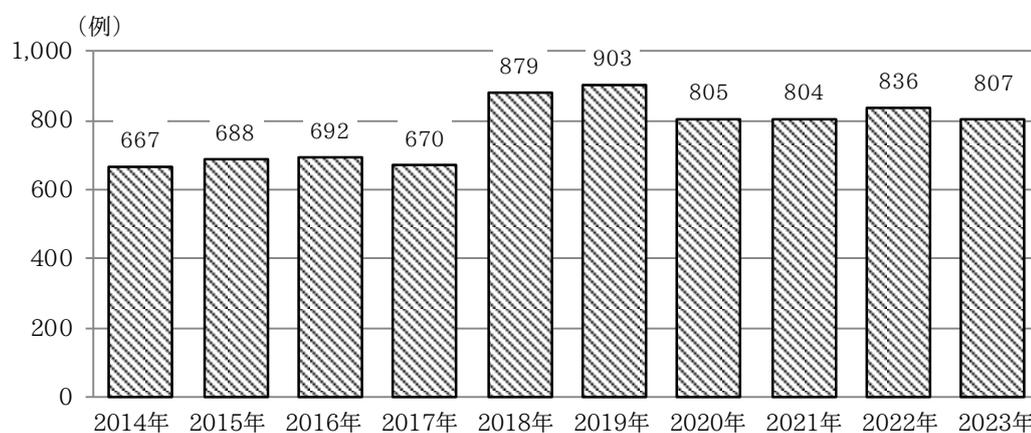
		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
その他		21	16	7	14	4
内 訳	低出生体重児	2	2	4	3	3
	超低出生体重児	1	1	-	-	-
	未熟児網膜症	1	1	-	-	-
	新生児仮死	4	3	1	3	-
	魚鱗癬	-	-	-	-	-
	黄疸	3	3	-	3	-
	甲状腺機能異常	-	-	-	-	-
	チアノーゼ	1	1	-	-	-
	インフルエンザ疑い	-	-	-	-	-
	多血	-	-	-	-	-
	下肢浮腫	-	-	-	-	-
	上腕骨折	-	-	-	-	-
	骨折	2	-	-	-	-
	関節拘縮	1	-	-	-	-
	帽状腱膜下血腫	1	-	-	-	-
	分娩麻痺の疑い	1	1	-	-	-
	耳出血	-	-	-	-	-
	吐血	-	-	-	-	-
	性分化異常	-	-	-	-	-
	臀部腫瘍	-	-	-	-	-
	皮疹	-	-	-	-	-
	墜落産	3	1	-	-	1
	反張膝	1	-	-	-	-
	臍帯ヘルニア疑い	-	-	-	-	-
	早産（出生体重2500g以上）	-	1	-	-	-
	頭蓋骨骨折	-	1	-	-	-
	低血糖	-	-	1	-	-
	口唇口蓋裂	-	-	1	-	-
陰部腫瘍	-	1	-	-	-	
分娩外傷	-	-	-	-	4	
母児感輸血症候群	-	-	-	1	-	

第3節 奈良県総合医療センター

第1項 産科部門診療実績

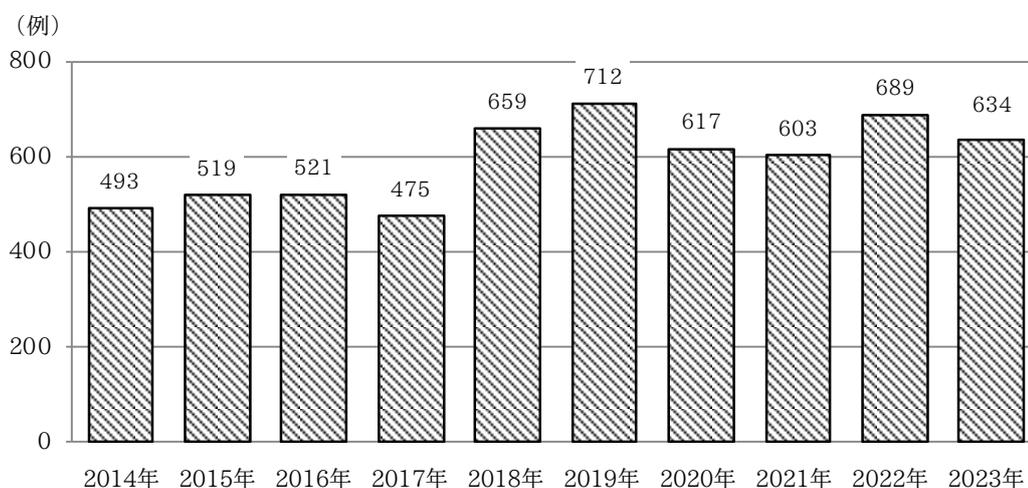
1 入院数

入院患者数は2018年5月の新センター移転後に急増した。2020年に入院数も分娩数も減少し、COVID-19の影響によるものと推測された。2020年以降はほぼ横ばいである。



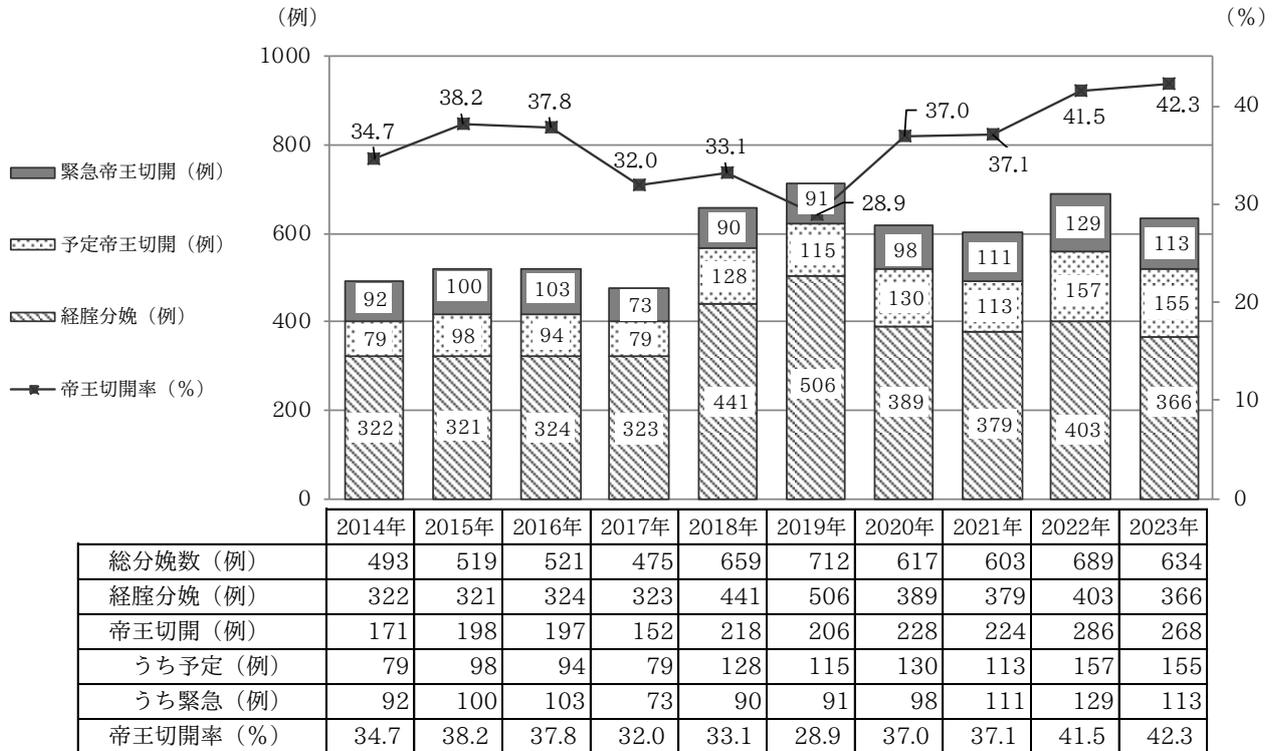
2 分娩数

分娩数も2018年5月の新センター移転後に急増したが、COVID-19の感染拡大に伴い、2020年には減少した。その後はほぼ横ばいで推移している。



3 分娩様式

当センターでは既往帝王切開例の分娩様式は反復帝王切開とし、経膈分娩(TOLAC)は実施していない。ハイリスク妊娠の受入に重点を置いてきたため帝王切開率は35%前後で経過していたが、2022年から40%を超えている。予定帝王切開が例年より高いことなどが影響した可能性がある。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

2011年から当センターでは妊娠28週以降(児推定体重1,000g以上)を、奈良医大ではそれ以前や胎児形態異常などを含めた重症症例を中心に受け入れることで、役割分担を行っている。奈良医大との適切な母体搬送の連携により、当センターで妊娠28週未満の分娩はほとんどない。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
24週	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
25週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-
28週	2	4	2	3	1	3	1	2	1	-
29週	2	1	1	-	3	4	1	-	-	-
30週	4	4	5	2	8	2	4	5	2	2
31週	4	8	7	8	9	7	2	3	4	5
32週	10	10	12	4	5	7	4	8	10	13
33週	11	14	18	15	11	9	9	12	7	11
34週	22	21	24	21	24	25	25	22	23	13
35週	28	28	32	26	39	22	29	30	27	27
36週	23	43	40	24	35	30	37	34	45	33
37週	111	114	125	107	115	122	119	112	107	104
38週	73	101	96	96	159	168	146	136	162	185
39週	116	81	101	90	120	139	114	129	140	119
40週	86	83	69	76	122	152	114	112	145	117
41週	27	32	23	19	48	51	46	37	45	42
42週以上	6	-	-	1	-	-	-	-	-	-
不明	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1,000g以上）を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることを取り決めた結果、出生体重1,000g未満の分娩は年間0～3例で推移しており、本年は0例であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
500-999g	3	2	3	-	1	1	1	-	-	-
1,000-1,499g	14	15	11	15	17	15	12	8	8	8
1,500-1,999g	43	44	58	35	39	37	33	45	35	37
2,000-2,499g	91	110	114	87	120	99	99	102	104	104
2,500g以上	377	374	370	355	522	590	506	487	571	522
不明	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

6 出産時年齢（例）

35歳以上は281例（44.3%）、40歳以上は84例（13.2%）であり、全国統計より35歳以上の妊婦の割合が高く、地域周産期母子医療センターとして高年妊娠を多く受け入れている。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	273	305	303	280	379	428	345	332	387	353
35-39歳	165	163	151	141	209	217	178	192	207	197
40-44歳	52	50	63	47	70	62	88	77	90	77
45歳以上	3	1	4	3	1	5	6	2	5	7

7 合併症妊娠（例）

甲状腺機能低下症や精神科疾患は年々増加している。その他は、悪性疾患10例や子宮腺筋症/内膜症9例、中枢神経4例、血液疾患3例などである。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	33	29	42	32	53	34	34	42	47	43
子宮筋腫（核出術後）	10	14	16	8	18	14	17	14	13	18
卵巣嚢腫（腫瘍）	5	9	5	6	8	12	15	10	13	12
子宮頸癌（含円錐切除後）	8	10	9	4	14	16	15	10	17	11
子宮形態異常	1	6	1	2	6	3	7	5	1	5
甲状腺機能亢進症	9	6	12	8	15	9	8	7	7	11
甲状腺機能低下症	10	9	14	28	23	25	29	30	35	45
糖尿病（含GDM）	27	27	29	32	43	50	35	59	59	54
喘息	-	11	9	10	13	12	13	19	10	14
慢性腎炎	2	4	-	4	3	4	2	3	6	6
本態性高血圧	7	4	5	2	5	7	4	4	8	10
ITP	-	-	-	-	4	2	2	-	2	1
自己免疫疾患	12	2	5	2	7	4	6	2	8	4
循環器疾患	2	7	-	8	4	-	2	10	2	3
精神科疾患（含てんかん）	33	24	20	34	36	41	29	33	39	40
ウイルス性肝炎（※1）	2	7	-	2	-	-	2	1	1	4
消化器疾患（※2）	4	4	8	2	4	3	1	6	7	6
その他	-	-	-	-	-	-	34	35	54	33

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

前期破水は前年と変化なかったが、入院を要した切迫早産が減少した。頸管長短縮のみであれば外来管理をしている例も多く、紹介例では妊娠週数が維持できた場合に紹介元での分娩を積極的に勧めているためと考えられる。本年も前置胎盤が多い傾向にあった。胎児発育不全や先天異常が増加しているのは、2022年6月より小児外科疾患を管理できるようになったためと考えられるが、先天性心疾患などは他院に紹介している。その他は、切迫流産16例、臨床的絨毛羊膜炎7例、重症妊娠悪阻5例、癒着胎盤/胎盤遺残5例などが含まれる。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	147	168	189	140	182	149	130	126	112	82
妊娠高血圧症候群	42	58	57	36	37	50	39	65	54	53
胎児発育不全	14	35	39	28	35	35	33	35	27	44
多胎妊娠	36	34	41	24	44	37	38	42	36	42
前置胎盤	11	7	15	8	12	15	12	6	16	18
産後出血（※3）	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-
子癇	2	1	-	-	1	2	-	4	1	-
弛緩出血（※4）	136	56	62	50	21	188	82	81	83	78
常位胎盤早期剥離	8	8	7	6	5	5	8	7	4	4
HELLP症候群	-	1	2	1	1	2	3	6	4	2
低置胎盤	1	5	4	4	4	2	7	7	16	10
血液型不適合	4	6	8	8	9	10	9	5	4	17
羊水過多	1	-	2	2	3	6	4	5	6	5
羊水過少	3	7	3	2	3	6	10	7	7	7
先天異常	-	-	4	3	1	3	4	2	7	17
その他	-	-	-	-	-	-	25	38	45	33

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／
 ※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

当センターで分娩管理を行った症例に加えて、当センターで分娩管理を行わなかった妊娠中の手術症例や産後の母体搬送症例も含めた数で集計している。

動脈塞栓術は院内2例、母体搬送1例の計3例であり、前年より減少した。院内対応困難で奈良医大へ母体搬送し動脈塞栓術を受けた1例もあった。その他は、産後出血で母体搬送された例に対する腔壁裂傷縫合術1例と経膈分娩後の腹式卵管結紮術1例である。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸管縫縮術	5	6	1	3	2	9	3	6	4	9
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	2	2	2	3	2	1	4	2	7	5
産道血腫除去術	1	-	3	-	2	1	-	-	-	-
子宮動脈塞栓術	4	3	-	-	-	-	7	3	14	3
子宮摘出術	1	-	-	1	-	-	4	3	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	6	4	4	2

10 輸血治療症例（例）

産後の母体搬送症例も含めて集計している。院内の5例、院外の11例に同種血輸血を行った。自己血輸血のみを返血した14例は含めていない。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	20	33	25	24	12	9	17	11	21	16

1 1 NICU 収容症例数 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
NICU収容症例数	227	141	147	110	155	141	170	192	165	140

1 2 多胎妊娠 (例)

本年の多胎妊娠は42例で、近年と概ね変化はなかった。三胎妊娠は当センターでは取り扱わず紹介している。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
双胎	37	34	41	24	44	37	38	42	36	42
うちMD (※1)	16	10	18	9	20	18	17	15	18	16
うちDD (※2)	21	24	23	15	24	19	21	27	18	26

※1 一絨毛膜二羊膜双胎/※2 二絨毛膜二羊膜双胎

1 3 母体搬送収容数 (例)

本年は例年より母体搬送が少なかったが、受け入れられなかった例は12件(内5例は28週未満が理由)であり、例年と変化がないため、搬送依頼自体が少なかったと考えられる。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
母体搬送収容数	141	147	148	151	155	132	115	133	132	115

1 4 母体搬送疾患名 (例、重複あり)

母体搬送の理由は切迫早産や前期破水が大半を占め、全体として例年とほぼ同様の傾向であった。本年は未受診妊婦の飛び込み分娩が過去最多の5例であった。その他は、COVID-19による発熱3例、流産後出血2例、重症悪阻2例などが含まれる。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産 (※1)・前期破水 (※2)	84	97	94	87	101	77	71	77	77	70
妊娠高血圧症候群	10	19	16	11	16	9	9	15	17	7
胎児発育不全	1	1	4	1	-	-	-	-	1	1
産後出血	20	8	11	17	6	14	12	16	15	15
胎児機能不全	2	2	3	9	3	-	2	4	5	-
常位胎盤早期剥離	5	3	3	2	4	5	4	5	2	2
前置胎盤	1	2	2	2	6	5	1	1	1	1
多胎	4	-	-	-	-	-	1	4	1	1
HELLP症候群	2	-	1	2	1	3	1	2	-	1
胎児形態異常	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-
帝王切開合併症	-	-	-	2	-	-	5	6	7	7
未受診	-	-	-	2	-	2	1	1	-	5
その他	12	15	14	15	18	17	17	14	12	13

※1 入院のみ/※2 早産期

15 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断								
手指異常（合指／多指）	-	2	-	-	2	1	-	-	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
心室中隔欠損	-	-	-	-	1	1	2	1	5	4
骨系統性疾患	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
小腸閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
口唇裂・口蓋裂	-	-	2	2	2	-	1	-	3	1
胸腹水	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-
Trichter-Collins症候群	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
片腎欠損	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1
獣皮様母斑	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
水腎症	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1
potter症候群	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ターナー症候群	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Beckwith wiedmann症候群	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
21trisomy	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-
骨系統疾患	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
外耳形成不全	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
肺高血圧症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
総肺静脈還流異常	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
内臓逆位	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-
大静脈裂孔ヘルニア	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
臍帯ヘルニア	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
巨大尿管	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
右臍静脈遺残	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
先天性副腎過形成	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
家族性洞不全症候群	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
右側動脈弓右動脈管	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
脳室拡大	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
ファロー四徴症	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
大血管転位	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
十二指腸閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
先天性嚢胞性腺腫様奇形	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
腹壁破裂	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
大動脈縮窄	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
内臓錯位	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
房室中隔欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
心房中隔欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
巨大リンパ管腫	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
外反足	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Cornelia de Lange	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
16p13.11重複症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
食道裂孔ヘルニア	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
後腹膜嚢胞	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
性分化異常	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
乳び胸水	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
肺動脈狭窄	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
左上大静脈遺残	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

1.6 母体胎児集中治療室（MFICU）入院患者数（例）

MFICU としての機能を備えた病室は周産期センター内に3床備えているが、現在、保険診療上のMFICUとして稼働していない。搬送直後の症例および重症例の他にも、産科病棟が満床の場合の個室として使用する場合や帝王切開術後の回復病床として使用するなど流動的な扱いとなっている。従って、患者数と重症度は必ずしもMFICUの適応に準じているわけではないことに留意されたい。

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
院内症例	244	219	186	191	151
搬送症例	119	105	88	92	72
合計	363	324	274	283	223

1.7 MFICU 入院適応（例）

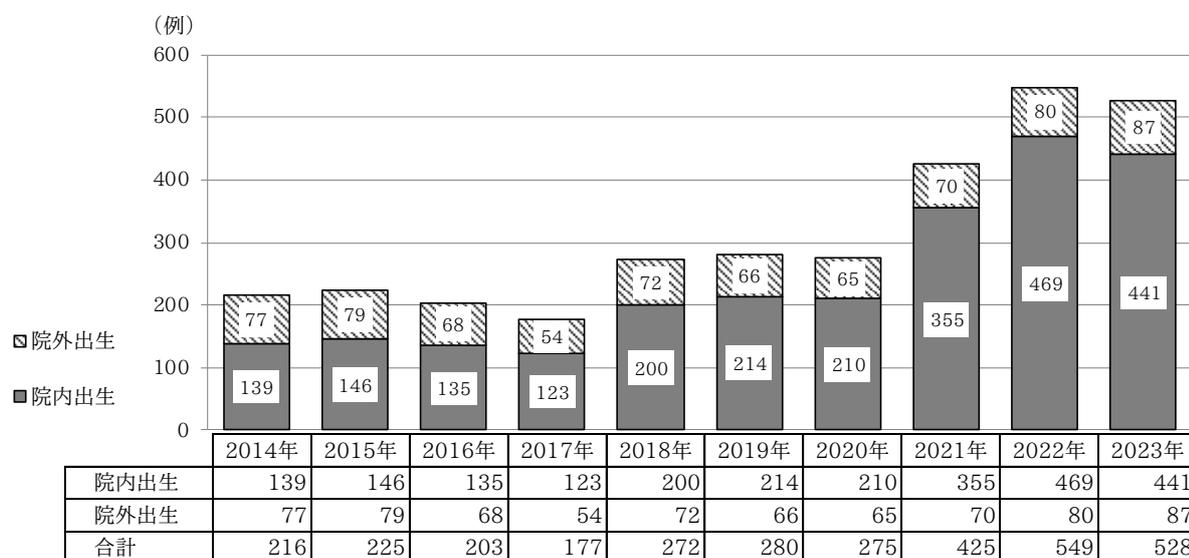
その他は、初期・中期流産や人工妊娠中絶、あるいは帝王切開後の回復病床として使用した例である。

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（入院のみ）	110	57	44	41	33
妊娠高血圧症候群	13	31	33	42	32
産後出血	12	9	9	12	10
常位胎盤早期剥離	3	4	5	2	1
胎児発育不全（胎内診断）	5	3	1	2	2
前置胎盤	10	12	5	6	3
双胎	10	16	9	10	2
HELLP症候群	4	1	1	-	1
先天異常	7	-	-	-	-
肺水腫	-	-	-	2	1
合併症妊娠	7	1	4	2	1
その他	182	190	163	164	137

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数

NICU と GCU の入院総数に対し複数の疾患病名がつく重複ありのため、入院総数よりも合計数が多くなっている。



2 主病名（例）

新生児搬送を積極的に受け入れているため、新生児一過性多呼吸が多くなる傾向がある。小児外科疾患対応可能となり、小児外科疾患も増加した。

複雑心奇形は対応不可な医療機関のため、診断後転院となった症例がほとんどである。

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
感染症	8	3	11	60	24
重症感染症の疑い	-	-	-	-	-
新生児感染症	4	1	3	5	3
新生児TSS様発疹症	-	-	-	1	-
ウイルス性胃腸炎	-	-	-	-	-
サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-
MRSA感染症	-	-	-	-	-
GBS感染症	-	-	1	-	-
子宮内感染症	-	-	-	-	-
リステリア症	-	-	-	-	-
先天梅毒（疑い含む）	1	-	-	-	1
新生児敗血症（疑いも含む）	1	-	1	-	-
新生児敗血症のショック	-	-	-	-	-
伝染性膿痂疹	-	-	-	-	-
新生児膿痂疹・膿痂疹	-	2	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	-	-	1	-
B群溶連菌感染症	-	-	-	-	-
グラム陰性桿菌敗血症	-	-	-	-	-
新生児カンジダ症	1	-	-	-	-
ヒトパレコウイルス感染症	-	-	1	-	-
COVID-19感染妊婦から出生した児	-	-	4	46	-
水痘疑い	-	-	1	-	-
新生児発疹症	-	-	-	2	-
先天性トキソプラズマ感染症疑い	-	-	-	1	-
COVID-19疑似症母体から出生した児	-	-	-	1	15
COVID-19濃厚接触母体から出生した児	-	-	-	1	3
COVID-19疑い	-	-	-	2	-
インフルエンザ桿菌感染症	-	-	-	-	1
エンテロウイルス髄膜炎	-	-	-	-	1
染色体異常 奇形症候群	3	13	7	11	15
18トリソミー	-	-	1	-	-
21トリソミー（疑い含む）	1	7	1	2	7
Prader-Willi症候群	-	1	-	1	-
口唇口蓋裂・口蓋裂	1	3	1	1	4
両側低形成腎	-	1	-	-	-
両側先天性水腎症	-	-	-	-	-
気管支肺異形成症	-	-	1	-	-
トリーチャ・コリンズ症候群	-	-	1	1	-
メンケス病の疑い	-	-	-	-	-
ベックウィズ・ヴィーデマン症候群	-	1	-	-	-
1P36欠失症候群	-	-	-	-	-
ルピンスタイン・タイビー症候群	-	-	-	-	-
頸部嚢胞性リンパ管腫	1	-	-	-	-
フリーマン・シェルドン症候群	-	-	1	-	-
COL4A1遺伝子異常	-	-	1	-	-
CHARGE症候群	-	-	-	1	-
タナトホリック骨異形成症	-	-	-	1	-
軟骨無形成症	-	-	-	1	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	-	1	-
重複腎盂尿管	-	-	-	1	-
多指症、肋骨奇形	-	-	-	1	-
両側性唇顎裂	-	-	-	-	1
Robin sequence	-	-	-	-	1
4q欠失症候群	-	-	-	-	1
喉頭軟化症	-	-	-	-	1
脳・神経疾患	4	5	5	8	21
新生児低酸素性虚血性脳症	2	4	1	-	-
先天性水頭症	-	-	-	-	2
新生児の筋緊張症	-	-	-	-	-
mendosal suture遺残	-	1	-	-	-
新生児痙攣	1	-	3	1	-
てんかんの疑い	1	-	-	-	-
先天性筋ジストロフィー	-	-	1	-	-
新生児仮死	-	-	-	-	5
脊髄性筋萎縮症1型	-	-	-	1	-
重症新生児仮死	-	-	-	-	7
SMARD1	-	-	-	1	-
新生児仮死	-	-	-	-	5
硬膜下血腫	-	-	-	-	2
脳梁欠損	-	-	-	-	1
潜在性脊椎破裂	-	-	-	-	1
出血後水頭症	-	-	-	-	1
仙骨部脂肪腫	-	-	-	-	1
頭蓋変形	-	-	-	-	1
代謝内分泌	1	1	-	18	12
複合性下垂体機能低下症	1	-	-	-	-
先天性甲状腺機能低下症	-	1	-	2	-
新生児低血糖	-	-	-	12	6
高インスリン性低血糖	-	-	-	2	2
先天性副腎皮質過形成	-	-	-	1	1
新生児バセドウ	-	-	-	1	-
副腎皮質機能低下症	-	-	-	-	1
高アンモニア血症	-	-	-	-	1
先天性代謝異常疑い	-	-	-	-	1
心・循環器疾患	5	16	11	7	12
新生児遷延性高血圧症	2	3	3	-	-
両大血管右室起始症	-	-	-	-	-
新生児肺動脈閉鎖症	-	-	-	-	-
動脈管開存症	-	6	1	-	2
動脈管早期閉鎖	-	-	-	-	-
新生児不整脈	-	-	-	-	-
心室中隔欠損症	2	2	1	2	4
心房中隔欠損症	-	2	-	1	2
末梢肺動脈狭窄症	-	1	-	-	-
Fallot四徴症	-	1	1	1	1
肺高血圧症	-	-	1	-	-
総肺動脈還流異常	-	1	-	-	-
大動脈狭窄症の疑い	-	-	1	-	-
先天性巨大動脈瘤	1	-	-	-	-
房室中隔欠損症	-	-	1	-	1
完全大血管転位	-	-	1	-	1
頸部動静脈瘻	-	-	1	-	-
新生児徐脈	-	-	-	3	-
大動脈縮窄	-	-	-	-	1

次ページへ続く

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
消化管疾患		10	9	5	13	22
内 訳	新生児嘔吐	6	2	2	5	4
	哺乳障害	2	3	1	2	-
	新生児メレナ	-	-	-	-	-
	肥厚性幽門狭窄症	-	1	-	-	-
	胎便栓症候群	-	-	-	-	-
	先天性横隔膜ヘルニア	-	1	-	-	2
	新生児血便	1	-	-	-	-
	ミルク消化管アレルギー	-	1	-	1	5
	胃軸捻症	-	-	-	2	-
	体重増加不良	1	-	1	-	-
	急性胃粘膜病変	-	1	-	-	-
	脾臓出血	-	-	1	-	-
	先天性食道閉鎖症	-	-	-	1	-
	新生児胃破裂	-	-	-	1	-
	腸回転異常疑い	-	-	-	1	-
	先天性食道裂肛ヘルニア	-	-	-	-	1
	先天性小腸閉鎖	-	-	-	-	1
	腸回転異常症	-	-	-	-	1
	腹壁破裂	-	-	-	-	1
	ヒルシユスブルグ病類縁疾患	-	-	-	-	1
	鎖肛	-	-	-	-	1
	先天性十二指腸閉鎖	-	-	-	-	1
	先天性胆道閉鎖症疑い	-	-	-	-	1
汎発性腹膜炎	-	-	-	-	1	
哺乳不良	-	-	-	-	1	
血便	-	-	-	-	1	
呼吸器疾患		91	183	181	130	161
内 訳	新生児呼吸障害	-	-	-	3	-
	新生児一過性多呼吸	63	124	125	87	94
	重症新生児無呼吸発作	6	-	-	-	-
	新生児無呼吸発作	1	11	14	-	-
	新生児呼吸窮迫症候群	11	26	22	18	21
	胎便吸引症候群	6	7	5	5	5
	喉頭軟化症(疑い含む)	1	1	1	1	-
	新生児気胸、新生児緊張性気胸	-	8	6	2	-
	新生児慢性肺疾患	3	1	1	-	-
	新生児肺出血	-	3	5	5	1
	誤嚥性肺炎	-	1	-	-	-
	新生児肺炎	-	1	-	-	-
	縦隔気腫	-	-	1	2	2
	先天性嚢胞性疾患	-	-	1	-	-
	新生児無呼吸	-	-	-	6	20
	新生児遷延性無呼吸	-	-	-	1	-
	新生児遷延性肺高血圧	-	-	-	-	9
	気胸	-	-	-	-	4
	慢性肺疾患	-	-	-	-	3
	先天性肺気道奇形	-	-	-	-	1
	先天性乳び胸	-	-	-	-	1

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
その他		157	107	207	320	330
内 訳	低出生体重児	32	5	9	10	16
	極低出生体重児	11	8	1	3	5
	超低出生体重児	1	3	-	-	-
	早産児	-	5	2	38	5
	重症新生児仮死	26	6	5	1	-
	新生児仮死	6	1	8	-	-
	潜在性胎児仮死	1	-	-	-	-
	新生児重症黄疸	-	1	1	-	-
	新生児黄疸	48	35	60	58	-
	高ビリルビン血症	4	-	-	-	51
	新生児低血糖	4	1	7	-	-
	新生児一過性低血糖症	-	-	-	-	-
	高インスリン性低血糖症	-	4	2	-	-
	新生児高インスリン血症	1	-	-	-	-
	新生児低体温症	1	-	1	2	-
	新生児鎖骨骨折	-	-	-	-	-
	多血症	-	2	2	1	2
	新生児ABO不適合溶血性疾患	-	-	-	1	-
	双胎間輸血症候群	-	1	4	-	2
	胎盤輸血症候群	-	-	-	-	-
	母児間輸血症候群	-	1	-	-	1
	帝切児症候群	22	29	103	202	241
	一過性骨髄増殖症	-	1	-	-	-
	新生児血小板減少症	-	-	-	-	-
	新生児脱水症	-	-	-	-	-
	後鼻孔閉鎖症	-	-	-	-	-
	新生児膵炎	-	-	-	-	-
	甲状腺腫	-	-	-	-	-
	左側多嚢胞性異形成腎	-	1	-	-	-
	先天性ネフローゼ症候群	-	1	-	-	-
	急性胃腸膜病変	-	-	-	-	-
	甲状腺機能低下症	-	-	1	-	-
	未熟児網膜症	-	1	-	-	-
	胎盤からの胎児出血	-	-	-	-	-
	副腎皮質過剰形成症の疑い	-	-	-	-	-
	新生児溶血性貧血	-	1	-	-	-
	新生児便秘症	-	-	-	-	-
	新生児薬物離脱症候群	1	-	-	-	-
	貧血	-	-	1	-	-
	乳び胸、新生児胸水	-	-	-	2	-
	新生児播種性血管内凝固	-	-	-	1	1
両側陰嚢水腫、精索捻転疑	-	-	-	1	-	
溶血性黄疸	-	-	-	-	2	
先天性水腎症	-	-	-	-	1	
低体温	-	-	-	-	1	
リンパ管腫	-	-	-	-	1	
後腹膜腫瘍	-	-	-	-	1	

3 出生週数（例）

28週以上、1,000g以上を対象としているため在胎32週以上症例が多い。未受診妊婦からの出生児は週数不明としている。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
23週	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-
25週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	1	2	-	-	-	2	-	-	-
28週	3	6	2	3	1	2	1	3	4	1
29週	2	1	1	-	3	5	3	-	-	-
30週	3	5	3	2	9	2	5	5	2	3
31週	4	10	9	9	9	7	1	3	4	4
32週	10	14	13	4	7	7	5	8	10	12
33週	13	17	12	15	11	9	9	12	8	11
34週	23	22	22	21	24	27	26	25	24	15
35週	33	36	32	28	41	24	32	24	30	30
36週	17	16	14	9	20	31	22	30	55	40
37週以上	104	97	89	86	146	161	169	314	409	409
不明	-	-	-	-	-	1	-	1	3	3

4 出生体重（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
500g未満	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-
750-999g	4	2	7	-	1	-	3	1	-	1
1,000-1,249g	6	10	6	6	9	6	10	2	3	2
1,250-1,499g	10	10	7	9	10	9	5	6	8	6
1,500-1,749g	16	23	19	11	16	15	9	14	12	12
1,750-1,999g	31	35	27	27	25	24	24	35	26	31
2,000-2,249g	31	25	29	27	35	30	35	37	32	41
2,250-2,499g	25	27	27	23	40	37	25	52	76	69
2,500g以上	93	93	80	74	134	155	164	278	392	366

5 人工呼吸器管理（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
入院数（例）	216	225	203	177	272	280	275	425	549	528
人工呼吸器管理症例数（例）	66	84	67	63	60	54	61	82	73	78
人工呼吸器管理症例率（%）	30.6	37.3	33.0	35.6	22.1	19.3	22.2	19.3	13.3	14.8

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

小児外科症例は、増加している。また、小児脳外科疾患も対応可能となり3名に手術を施行している。

出生体重	出生週数	疾患名	術式
1,250-1,499g	31週	腸回転異常症	腸回転異常修復術、癒着剥離術、残存腸管吻合術、ストマ造設術、サイロ造設術、腹壁閉鎖術
	31週	腸回転異常症	長期留置型CVカテーテル留置術、リザーバー留置術、脳室胸腔内シャント留置術
2,000-2,249g	37週	腹壁破裂	腹壁閉鎖サイロ形成術、腹壁閉鎖術
2,250-2,499g	37週	先天性食道裂孔ヘルニア、喉頭軟化症	腹腔鏡下噴門形成術、喉頭披裂部粘膜レーザー焼却術
2,500-2,749g	35週	潜在性脊椎破裂	脊髄硬膜内髄外腫瘍摘出術
	39週	ヒルシュスブルング類縁疾患	消化管全層生検、人工肛門造設術、空腸ストマ造設術、長期留置型CVカテーテル挿入術
	39週	ヒルシュスブルング類縁疾患	小腸切除術、右半結腸切除術、回腸ストマ閉鎖術
3,000-3,249g	40週	先天性小腸閉鎖、消化管穿孔、腹膜炎	腹腔内ドレナージ、小腸ストマ造設術
	40週	鎖肛	鎖合陰式肛門形成術
	40週	喉頭軟化症	喉頭披裂部レーザー焼却術（2回）
3,250-3,499g	41週	先天性横隔膜ヘルニア	腹腔鏡下横隔膜ヘルニア修復術
3,750-3,999g	35週	前胸部リンパ管腫	リンパ管腫穿刺吸引、薬物硬化療法
	37週	先天性水頭症	脳室腹腔内シャント術

7 血液浄化症例

出生体重	出生週数	適応疾患	治療法
1,250-1,499g	31週	新生児高ビリルビン血症	交換輸血
2,000-2,249g	37週	急性腎障害	持続血液透析
2,750-2,999g	39週	新生児高ビリルビン血症	交換輸血

8 出生週数別の日齢28日以後の生存率(%)

	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)	2021年 (内訳)	2022年 (内訳)	2023年 (内訳)
22週未満	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
22週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
23週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
24週	100.0 (4 / 4)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
25週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
26週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
27週	- (- / -)	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
28週	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (3 / 3)	100.0 (4 / 4)	100.0 (1 / 1)
29週	100.0 (5 / 5)	100.0 (3 / 3)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
30週	100.0 (2 / 2)	100.0 (5 / 5)	100.0 (5 / 5)	100.0 (2 / 2)	100.0 (3 / 3)
31週	100.0 (7 / 7)	100.0 (1 / 1)	100.0 (3 / 3)	100.0 (4 / 4)	100.0 (4 / 4)
32週	100.0 (7 / 7)	100.0 (5 / 5)	100.0 (8 / 8)	100.0 (10 / 10)	100.0 (12 / 12)
33週	100.0 (9 / 9)	100.0 (9 / 9)	100.0 (12 / 12)	100.0 (8 / 8)	90.9 (10 / 11)
34週	100.0 (27 / 27)	100.0 (26 / 26)	100.0 (25 / 25)	100.0 (24 / 24)	100.0 (15 / 15)
35週	100.0 (24 / 24)	100.0 (32 / 32)	100.0 (24 / 24)	100.0 (30 / 30)	96.7 (29 / 30)
36週	100.0 (31 / 31)	100.0 (22 / 22)	100.0 (30 / 30)	100.0 (55 / 55)	100.0 (40 / 40)
37週以上	98.8 (160 / 162)	99.4 (168 / 169)	100.0 (314 / 314)	100.0 (409 / 409)	99.8 (408 / 409)
不明	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (3 / 3)	100.0 (3 / 3)

内訳：各週数毎の生存数(例)／各週数毎の出生数(例)

9 出生体重別の日齢28日以後の生存率(%)

	2019年 (内訳)	2020年 (内訳)	2021年 (内訳)	2022年 (内訳)	2023年 (内訳)
500g未満	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
500-749g	100.0 (4 / 4)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
750-999g	- (- / -)	100.0 (3 / 3)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)
1,000-1,249g	100.0 (6 / 6)	100.0 (10 / 10)	100.0 (2 / 2)	100.0 (3 / 3)	100.0 (2 / 2)
1,250-1,499g	100.0 (9 / 9)	100.0 (5 / 5)	100.0 (6 / 6)	100.0 (8 / 8)	100.0 (6 / 6)
1,500-1,749g	100.0 (15 / 15)	100.0 (9 / 9)	100.0 (14 / 14)	100.0 (12 / 12)	91.7 (11 / 12)
1,750-1,999g	100.0 (24 / 24)	100.0 (24 / 24)	100.0 (35 / 35)	100.0 (26 / 26)	100.0 (31 / 31)
2,000-2,249g	100.0 (30 / 30)	100.0 (35 / 35)	100.0 (37 / 37)	100.0 (32 / 32)	97.6 (40 / 41)
2,250-2,499g	97.3 (36 / 37)	100.0 (25 / 25)	100.0 (52 / 52)	100.0 (76 / 76)	100.0 (69 / 69)
2,500g以上	99.4 (154 / 155)	99.4 (163 / 164)	100.0 (278 / 278)	100.0 (392 / 392)	99.7 (365 / 366)

内訳：各体重毎の生存数(例)／各体重毎の出生数(例)

10 新生児死亡数(例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	2	-	1	-	2	1	-	-	1
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
乳児死亡数(日齢28日以降の死亡)	1	-	1	1	-	1	-	-	-	1

11 新生児搬送収容数(例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
新生児搬送収容数	79	78	68	56	69	66	60	68	80	82

1 2 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

正期産児の搬送が多く、呼吸障害では一過性多呼吸が最多であった。

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
呼吸器疾患	41	53	40	45	48
呼吸障害	1	1	-	2	-
新生児低酸素血症	-	1	-	-	-
新生児一過性多呼吸	32	36	26	32	32
新生児無呼吸発作	2	2	3	-	-
新生児呼吸窮迫症候群	2	2	-	2	2
新生児気胸、新生児緊張性気胸	-	6	4	1	-
新生児肺出血	-	2	1	-	-
気管支肺異形成症	-	-	-	-	-
胎便吸引症候群	4	2	3	3	4
新生児肺炎	-	1	-	-	-
咽頭軟化症	-	-	1	-	-
左声帯不完全麻痺	-	-	1	-	-
先天性嚢胞性肺疾患	-	-	1	-	-
肺出血	-	-	-	4	-
新生児無呼吸	-	-	-	1	2
新生児遷延性肺高血圧	-	-	-	-	3
気胸	-	-	-	-	3
縦郭気腫	-	-	-	-	2
心・循環器疾患	3	5	7	3	5
完全大血管転位症	-	-	1	-	-
新生児遷延性肺高血圧症	1	1	1	-	-
両大血管右室起始症	-	-	-	-	-
総肺静脈還流異常	-	1	-	-	-
大動脈狭窄症の疑い	-	-	1	-	-
先天性巨大動脈瘤	1	-	-	-	-
Fallot四徴症	-	1	1	-	-
房室中隔欠損症	-	1	1	-	-
動脈管開存症	1	1	1	-	1
頸部動静脈瘻	-	-	1	-	-
心室中隔欠損症	1	1	-	1	3
心房中隔欠損症	-	-	-	1	1
新生児徐脈	-	-	-	1	-
脳・神経疾患	1	-	4	5	9
新生児痙攣	1	-	4	1	-
脊髄性筋萎縮症1型	-	-	-	1	-
新生児仮死	-	-	-	2	2
重症新生児仮死	-	-	-	1	4
仙骨部脂肪腫	-	-	-	-	1
頭蓋変形	-	-	-	-	1
硬膜下血腫	-	-	-	-	1
染色体異常 奇形症候群	2	7	6	5	8
染色体異常	-	-	1	-	-
口唇口蓋裂	-	1	1	-	-
ダウン症(疑い含む)	1	5	1	2	6
頸部嚢胞性リンパ管腫	1	-	-	-	-
ベックウィズ・ウィーデマン症候群	-	1	-	-	-
18トリソミー (疑い含む)	-	-	1	-	-
COL4A1遺伝子異常	-	-	1	-	-
多小脳回	-	-	1	-	-
CHARGE症候群	-	-	-	1	-
Prader-Willi症候群	-	-	-	1	-
軟口蓋裂	-	-	-	1	-
口蓋裂	-	-	-	-	1
両側性唇顎裂	-	-	-	-	1

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
消化管疾患	7	5	2	8	12
新生児嘔吐症	4	1	1	3	4
先天性横隔膜ヘルニア	-	1	-	-	2
新生児メレナ	-	-	-	1	-
哺乳障害	2	3	-	2	-
体重増加不良	1	-	-	-	-
脾臓出血	-	-	1	-	-
先天性食道閉鎖	-	-	-	1	-
腸回転異常疑い	-	-	-	1	-
ミルク消化管アレルギー	-	-	-	-	3
先天性小腸閉鎖	-	-	-	-	1
ヒルシュスプルング病類縁疾患	-	-	-	-	1
汎発性腹膜炎	-	-	-	-	1
感染症	4	5	3	11	5
感染症	2	3	3	5	3
新生児細菌性髄膜炎	1	-	-	-	-
新生児膿瘍	-	2	-	-	-
新生児カンジダ症	1	-	-	-	-
COVID-19母体から出生した児	-	-	-	2	1
COVID-19感染疑い	-	-	-	2	-
新生児TSS様発疹症	-	-	-	1	-
新生児発疹症	-	-	-	1	-
インフルエンザ桿菌感染症	-	-	-	-	1
その他	9	28	16	8	9
低出生体重児	1	-	1	2	-
極低出生体重児	-	1	-	-	-
超低出生体重児	-	2	-	-	-
早産児	2	4	-	2	-
新生児仮死	1	1	2	-	-
重症新生児仮死	3	5	3	-	-
黄疸	-	3	3	1	-
新生児高ビリルビン血症	1	-	-	-	2
低血糖	-	-	1	1	1
新生児ABO不適合溶血性疾患	-	-	1	-	-
新生児脱水症	-	1	1	-	-
C BW	-	1	1	-	-
新生児低酸素性虚血性脳症	1	1	-	-	-
G B S敗血症	-	1	-	-	-
新生児鎖骨骨折	-	1	-	-	-
鼠径ヘルニア	-	1	-	-	-
胎盤からの胎児出血	-	1	-	-	-
未熟児網膜症	-	1	-	-	-
母児間輸血症候群	-	1	-	-	1
先天性ネフローゼ症候群	-	1	-	-	-
新生児高インスリン血症	-	2	1	-	-
重症黄疸	-	-	1	-	-
新生児低体温症	-	-	1	1	-
精索捻転疑い、陰嚢水腫	-	-	-	1	-
高アンモニア血症	-	-	-	-	1
溶血性黄疸	-	-	-	-	1
副腎皮質機能低下症	-	-	-	-	1
低体温	-	-	-	-	1
先天性代謝異常疑い	-	-	-	-	1

1 3 三角搬送（例）

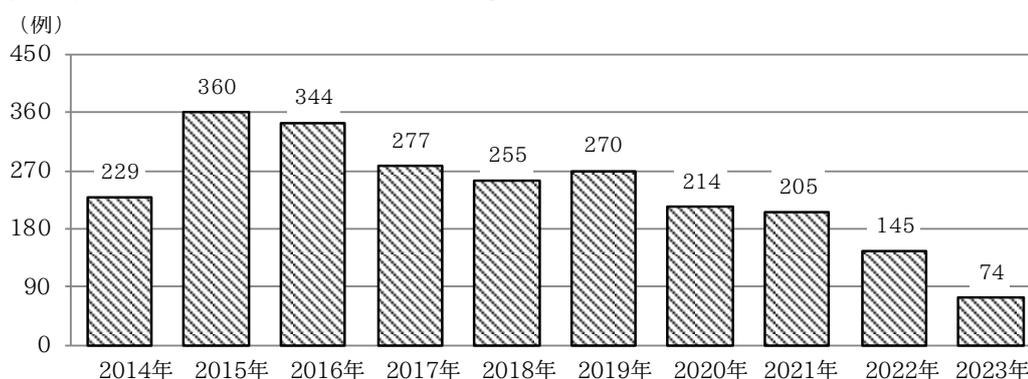
出生体重	出生週数	日齢	主訴	収容先	三角搬送理由
2,500-2,749g	40週	0-7日	左右手指、左膝及び左膝窩部皮膚欠損	奈良医大附属病院	先天性表皮水疱症疑いのため
	39週	0-7日	新生児仮死	奈良医大附属病院	満床のため
2,750-2,999g	39週	0-7日	ファロー四徴症疑い	奈良医大附属病院	心疾患のため
3,000-3,249g	38週	0-7日	ファロー四徴症疑い	奈良医大附属病院	心疾患のため
3,250-3,499g	41週	0-7日	呼吸障害	奈良医大附属病院	満床のため

第4節 近畿大学奈良病院

第1項 産科部門診療実績

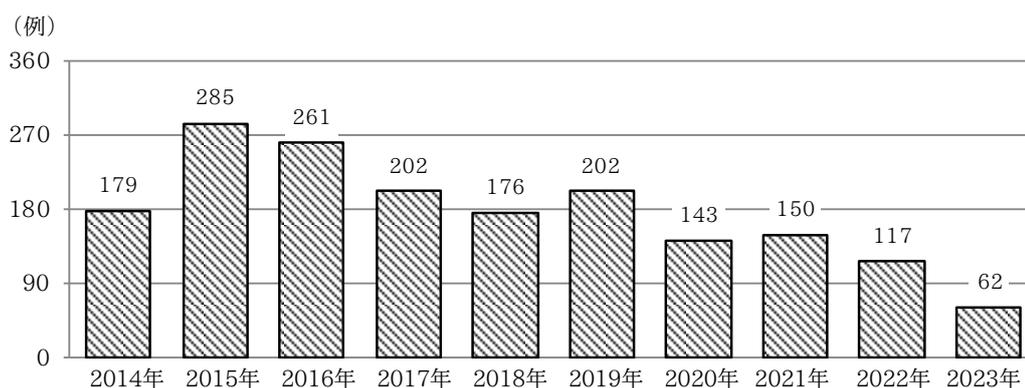
1 入院数

入院数は分娩数と同様に減少傾向となっている。



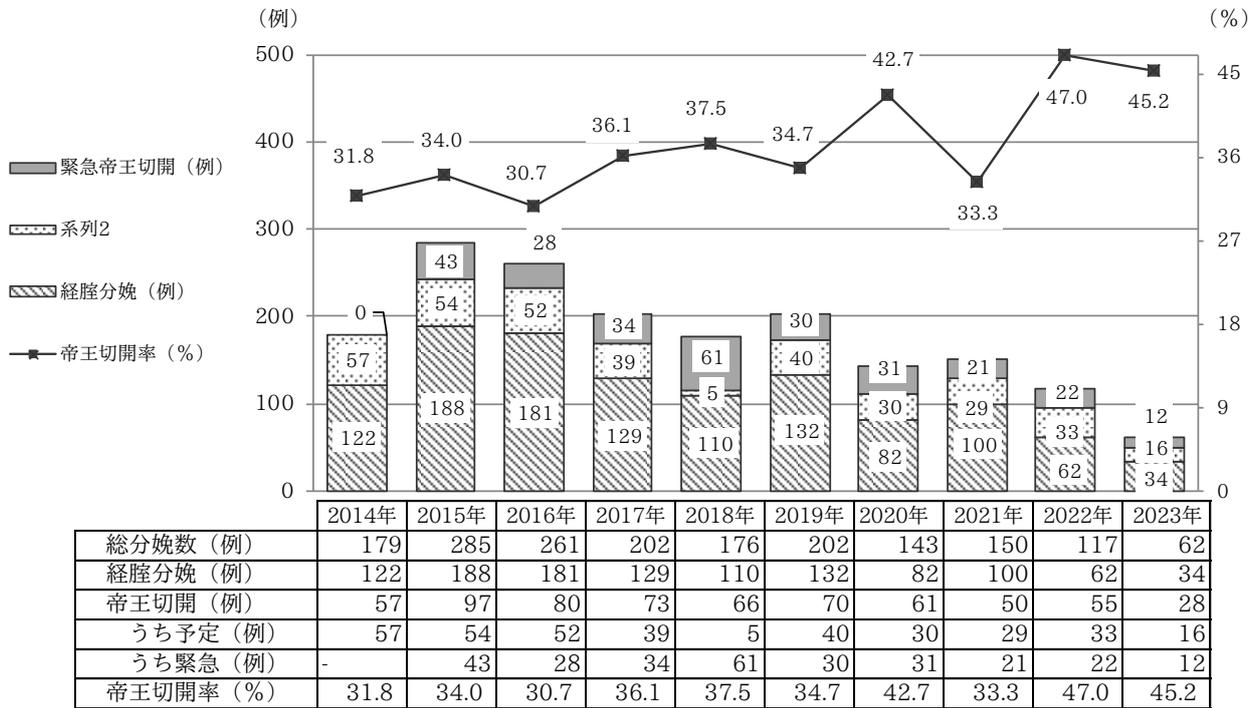
2 分娩数

分娩数は、2019年は202件であったが、その後は減少傾向となった。2024年3月末に分娩機能を休止することとなり、2023年は62件となった。



3 分娩様式

本年の帝王切開率は45.2%であり、他施設と比較すると高い。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

2022年7月のNICU部門の閉鎖に伴い、2023年も分娩週数は妊娠35週以降となっている。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
23週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30週	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
32週	1	3	-	3	-	-	2	-	-	-
33週	2	1	3	1	6	2	2	2	-	-
34週	1	4	8	5	5	3	2	3	-	-
35週	-	10	4	5	6	4	2	8	4	-
36週	1	15	11	5	9	5	7	3	2	2
37週	28	34	31	24	29	16	27	16	10	3
38週	48	78	70	57	43	69	34	34	36	19
39週	32	65	56	46	36	37	34	36	27	14
40週	45	58	54	41	35	50	28	38	22	16
41週	19	17	21	15	11	15	8	11	16	8
42週以上	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-

5 出生体重（例、死産児は除く）

本年は出生週数 35 週以降となっており、出生体重は 2,000 g 以上であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
500g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
500-999g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,499g	1	2	-	-	2	-	1	1	-	-
1,500-1,999g	3	6	6	6	7	5	6	3	2	-
2,000-2,499g	7	31	38	25	24	14	19	20	11	4
2,500g以上	168	246	220	172	149	183	120	128	104	58

6 出産時年齢（例）

35 歳以上の割合は 61.3%であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	88	154	152	111	96	117	79	84	60	24
35-39歳	67	98	78	74	68	62	39	43	37	27
40-44歳	24	30	29	16	11	22	22	23	18	11
45歳以上	-	-	2	1	1	1	3	-	2	-

7 合併症妊娠（例）

本年は甲状腺機能低下症が 6 例、糖尿病（含 DGDM）が 8 例で、その他の疾患が散見される。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	-	14	16	11	12	10	14	8	8	3
子宮筋腫（核出術後）	6	-	-	-	-	1	-	1	2	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	13	17	21	14	3	6	3	1	-
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	-	-	6	-	2	-	3	-	2
子宮形態異常	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	1	1	1	4	2	4	1	1	6	-
甲状腺機能低下症	1	6	8	13	6	16	8	12	2	6
糖尿病（含GDM）	5	12	37	21	27	21	17	16	7	8
喘息	1	11	12	12	3	11	7	2	1	-
慢性腎炎	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
本態性高血圧	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
I TP	-	2	3	2	2	2	-	1	-	-
自己免疫疾患	1	2	-	-	1	1	-	1	-	1
循環器疾患	-	4	5	6	2	1	1	1	-	1
精神科疾患（含てんかん）	-	-	3	-	2	6	3	5	2	-
ウイルス性肝炎（※1）	1	3	3	-	1	1	1	-	-	1
消化器疾患（※2）	1	11	11	15	1	2	-	1	-	-
その他	-	-	-	-	-	10	8	7	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

産科合併症として弛緩出血が6例、妊娠高血圧症候群が2例、胎児発育不全が2例、低置胎盤が2例、その他1例があった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	16	18	35	90	25	23	19	21	2	1
妊娠高血圧症候群	6	15	11	9	10	12	9	4	10	2
胎児発育不全	9	9	15	13	10	2	3	4	1	2
多胎妊娠	1	6	5	3	7	-	3	2	2	-
前置胎盤	1	4	-	-	4	-	4	1	-	-
産後出血（※3）	-	3	19	26	3	-	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	2	1	3	3	15	23	16	6
常位胎盤早期剥離	-	2	2	4	1	3	1	-	1	-
HELLP症候群	-	1	1	-	-	1	1	1	-	-
低置胎盤	-	1	3	1	1	1	1	-	3	2
血液型不適合	-	1	11	9	5	5	3	2	-	-
羊水過多	1	-	5	4	1	1	2	2	-	-
羊水過少	-	-	11	10	-	3	2	3	2	-
先天異常	11	2	8	6	4	4	4	6	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／
 ※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸管縫縮術	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
産道血腫除去術	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

産科合併症の弛緩出血のうち、3症例で輸血療法が実施された。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	-	-	9	5	-	4	3	2	-	3

11 NICU 収容症例数（例）

2022年7月にNICU部門閉鎖のため、本年は、NICU収容症例はない。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
NICU収容症例数	51	34	42	34	21	-

（※2018年より新規集計、2018年はうち未熟児が31例）

12 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
双胎	7	-	3	2	2	-
うちMD（※1）	-	-	-	-	-	-
うちDD（※2）	7	-	3	2	2	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
 （※2018年より新規集計）

13 母体搬送収容数（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
母体搬送収容数	8	4	4	1	2	-

（※2018年より新規集計）

1 4 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	5	4	3	-	-	-
妊娠高血圧症候群	2	-	-	1	2	-
前置胎盤	1	-	-	-	-	-
胎児形態異常	1	-	-	-	-	-
その他	-	-	1	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期（※2018年より新規集計）

1 5 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断								
21トリソミー	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
先天性横隔膜ヘルニア	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
心室中隔欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小腸閉鎖	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
不整脈	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
水腎症	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
鎖肛	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-
卵巣嚢腫	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
腹壁破裂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
食道閉鎖	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
脳出血	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
横隔膜ヘルニア	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
先天性側弯	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
脳室拡大	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
骨系統性疾患	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
尿管遺残	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
胆道拡張症	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
臍帯ヘルニア	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

（※2018年より新規集計）

第2項 新生児部門診療実績

2022年6月に小児外科の診療体制の変更に伴い、2022年7月末でNICU部門は閉鎖した。このため2022年7月以降の診療実績はない。

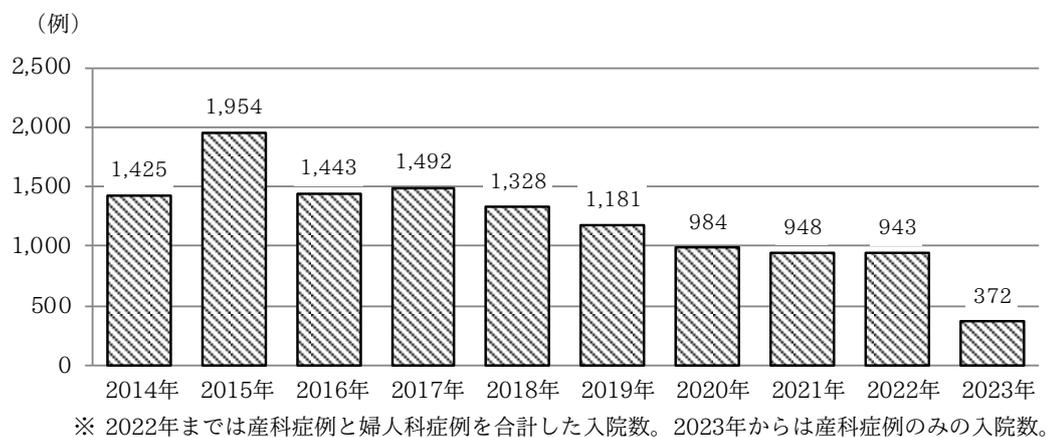
なお、2022年7月以降に出生した新生児は産科管理となっているため、本院の産科診療実績にて集計している。

第5節 天理よろづ相談所病院

第1項 産科部門診療実績

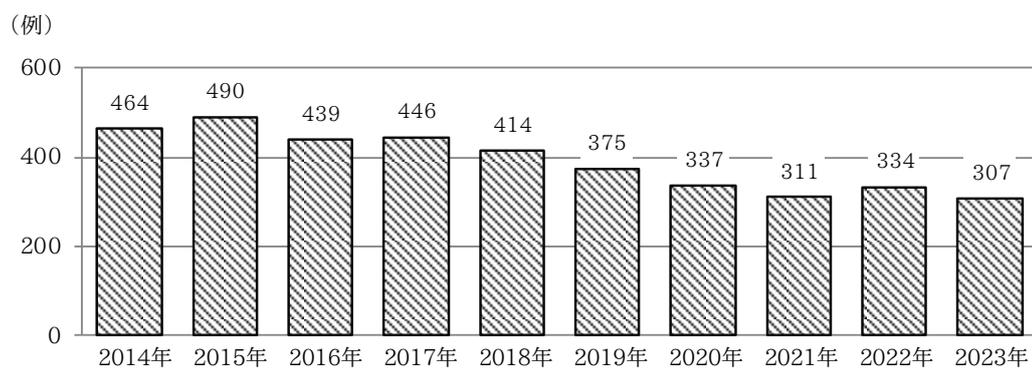
1 入院数

2022年までは婦人科症例も含めた入院数しか算出できなかったが、2023年からは産科症例のみで算出できるようになった。婦人科症例が除外されたことにより、例年に比べて少なくなった。



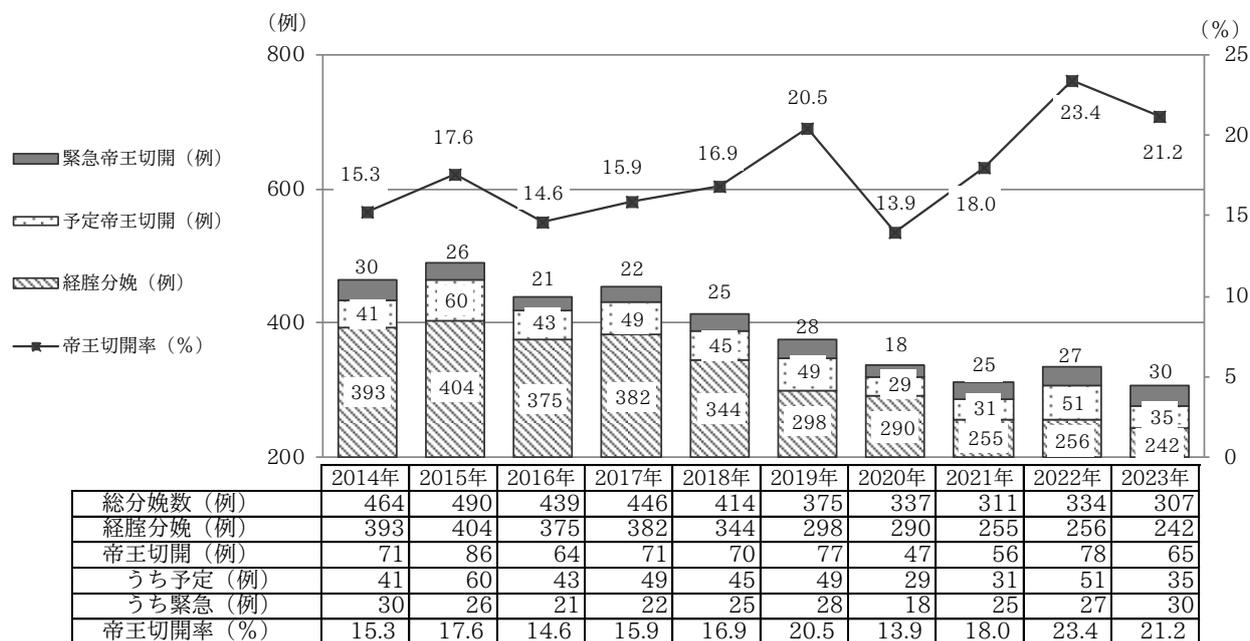
2 分娩数

総分娩数は前年に比べて減少した。



3 分娩様式

帝王切開率は前年に比べて少し減少した。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

ほぼ例年と同様であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
34週	-	1	3	-	1	-	-	-	-	-
35週	10	7	4	3	3	3	-	3	3	5
36週	15	15	15	14	10	9	6	11	9	6
37週	56	39	29	50	57	44	29	29	33	26
38週	121	138	107	112	107	77	74	75	75	81
39週	137	151	98	140	132	105	103	84	101	84
40週	99	101	135	97	89	113	97	92	81	79
41週	21	28	30	29	15	21	29	19	34	27
42週以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1,000-1,499g	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
1,500-1,999g	4	2	6	2	1	1	2	1	2	2
2,000-2,499g	41	46	27	33	31	22	24	22	23	23
2,500g以上	414	433	403	411	384	349	313	289	311	284

6 出産時年齢（例）

35歳未満が前年に比べて減少した。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	343	345	306	304	295	254	244	204	237	196
35-39歳	96	118	109	114	92	93	83	84	70	90
40-44歳	25	27	17	26	27	25	10	22	27	20
45歳以上	-	-	1	1	-	3	-	1	-	1

7 合併症妊娠（例）

甲状腺疾患や糖尿病（含GDM）や精神科疾患（含てんかん）などが前年に比べて増加した。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	18	14	15	10	5	12	16	24	15	11
子宮筋腫（核出術後）	3	6	2	2	-	2	4	6	7	6
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	10	11	5	7	4	2	6	4
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
子宮形態異常	1	-	-	4	-	2	1	2	-	1
甲状腺機能亢進症	13	16	11	4	4	2	3	4	2	6
甲状腺機能低下症	6	-	4	4	1	8	7	7	4	10
糖尿病（含GDM）	27	6	33	30	17	32	29	18	26	38
喘息	13	15	8	4	2	20	27	13	21	8
慢性腎炎	-	-	-	1	-	1	2	1	-	1
本態性高血圧	1	-	-	1	-	2	1	-	2	1
ITP	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-
自己免疫疾患	6	6	6	7	1	3	2	4	1	2
循環器疾患	6	2	3	6	3	7	3	4	4	4
精神科疾患（含てんかん）	10	3	7	7	3	8	8	6	3	7
ウイルス性肝炎（※1）	-	-	2	-	-	2	2	-	-	1
消化器疾患（※2）	1	-	-	-	-	2	2	1	-	1
その他	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

妊娠高血圧症候群は前年に比べて増加した。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	142	152	113	93	41	25	17	19	14	7
妊娠高血圧症候群	18	16	14	7	4	8	11	8	12	15
胎児発育不全	7	10	3	4	6	5	5	3	6	1
多胎妊娠	3	5	3	3	2	1	2	2	3	2
前置胎盤	-	2	1	4	-	-	1	1	-	1
産後出血（※3）	96	-	-	-	-	-	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	44	21	94	61	60	72	72
常位胎盤早期剥離	4	4	1	4	-	-	2	2	2	1
HELLP症候群	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-
低置胎盤	2	1	2	-	2	2	-	-	2	3
血液型不適合	-	-	-	-	-	2	4	3	1	1
羊水過多	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
羊水過少	4	4	-	1	1	1	4	2	5	1
先天異常	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
その他	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

産後弛緩出血に対して子宮動脈塞栓術を1例施行した。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸管縫縮術	6	12	10	2	3	2	3	-	1	-
卵巢嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-
産道血腫除去術	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2
子宮動脈塞栓術	1	1	-	-	-	-	-	1	1	1
子宮摘出術	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

輸血治療症例は前年に比べて増加した。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	3	1	2	5	1	1	2	1	3	5

11 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
双胎	2	1	2	2	3	2
うちMD（※1）	-	-	-	1	1	1
うちDD（※2）	2	1	2	1	2	1

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

12 母体搬送収容数（例）

母体搬送収容数は例年と同様であった。

	2020年	2021年	2022年	2023年
母体搬送収容数	4	-	4	4

13 母体搬送疾患名（例）

	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	1	-	1	-
妊娠高血圧症候群	2	-	2	-
胎児機能不全	-	-	1	-
産後出血	-	-	-	2
その他	1	-	-	2

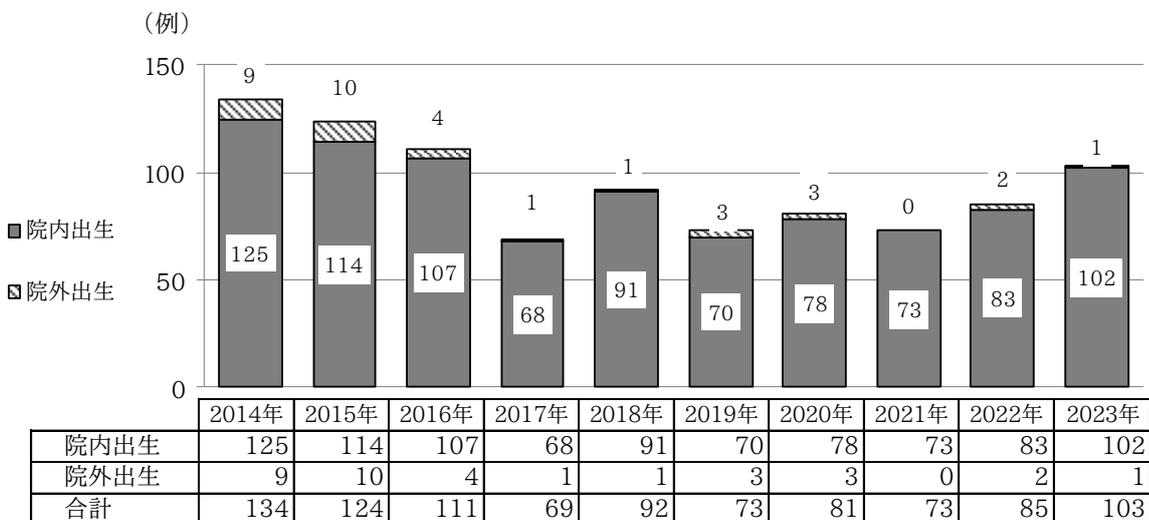
※1 入院のみ／※2 早産期

14 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	-	-	1	-	-	-
水腎症	1	1	-	-	-	-
大血管転位	1	-	-	-	-	-
心内膜床欠損	-	-	1	1	-	-

第2項 新生児部門診療実績

1 入院数



2 主病名 (例)

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
呼吸器疾患		15	25	27	33	34
内 訳	一過性多呼吸	10	10	15	25	16
	呼吸障害	5	14	10	7	15
	気胸(軽症)	5	1	2	-	3
	無呼吸発作	-	-	-	1	-
心・循環器疾患		-	-	1	1	-
内 訳	先天性心疾患	-	-	1	-	-
	房室中隔欠損	-	-	-	1	-
消化管疾患		1	1	-	2	4
内 訳	ミルクアレルギー	-	-	-	-	1
	腸回転異常	1	1	-	-	-
	小腸閉鎖疑い	-	-	-	1	-
	嘔吐症	-	-	-	1	-
	新生児嘔吐	-	-	-	-	3
脳・神経疾患		-	-	-	-	-
染色体異常 形態異常症候群		-	-	-	-	1
内 訳	ダウン症候群	-	-	-	1	-
	18トリソミー	-	-	-	-	1
感染症		12	15	12	13	20
内 訳	MAS(軽症)	5	5	3	4	9
	不明感染症	7	10	8	9	8
	GBS感染	-	-	1	-	3
		-	-	-	-	-
代謝内分泌		10	16	7	31	13
内 訳	低血糖症	10	16	7	19	13
	黄疸	-	-	-	12	-
その他		35	58	53	13	25
内 訳	特発性黄疸	12	11	17	-	-
	仮死	5	10	8	-	10
	低体重	5	18	15	4	-
	多発小形態異常	1	-	-	-	-
	頻脈	1	-	-	-	-
	哺乳不良	5	7	-	-	-
	無呼吸発作	2	8	-	-	-
	血小板減少	1	-	-	-	-
	早期産	3	4	12	3	-
	先天性水腎症	-	-	1	-	-
	口唇口蓋裂	-	-	-	1	-
	硬膜下血腫	-	-	-	1	-
	徐脈	-	-	-	1	-
	先天性表皮水疱症	-	-	-	1	-
	母体COVID陽性	-	-	-	1	-
	母体COVID濃厚接触	-	-	-	1	-
溶血性黄疸	-	-	-	-	4	
顔面奇形腫	-	-	-	-	1	

※2014～2015年は疾患内訳未集計

3 出生週数 (例)

正期産児の入院が増加した。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
33週	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	1	4	-	1	1	-	-	-	-
35週	11	6	3	4	3	3	-	3	3	5
36週	9	7	11	12	4	10	4	9	5	5
37週以上	114	110	91	52	84	59	77	61	77	93

4 出生時体重（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
500g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
750-999g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
1,500-1,749g	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-
1,750-1,999g	4	3	4	2	1	1	3	1	2	2
2,000-2,249g	5	10	7	4	6	6	5	9	2	2
2,250-2,499g	18	16	11	8	13	5	10	4	15	9
2,500g以上	107	95	85	54	72	60	63	58	64	90
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-

5 人工呼吸器管理（例）

人工呼吸のほとんどは経鼻的持続陽圧換気（n-DPAP）であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
入院数（例）	134	124	111	68	92	73	81	73	85	103
人工呼吸器管理症例数（例）	-	-	4	2	-	6	7	11	12	24
人工呼吸器管理症例率（％）	-	-	3.6	2.9	-	8.2	8.2	15.1	14.1	23.3

6 外科手術（心臓、眼科、脳外科など含む）

該当なし

7 血液浄化症例

該当なし

8 出生週数別の日齢28日以後生存率（％）

	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）
34週	100.0（ 1 / 1 ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）
35週	100.0（ 3 / 3 ）	-（ - / - ）	100.0（ 3 / 3 ）	100.0（ 3 / 3 ）	100.0（ 5 / 5 ）
36週	100.0（ 10 / 10 ）	100.0（ 4 / 4 ）	88.9（ 8 / 9 ）	100.0（ 5 / 5 ）	100.0（ 5 / 5 ）
37週以上	100.0（ 59 / 59 ）	100.0（ 77 / 77 ）	100.0（ 61 / 61 ）	100.0（ 77 / 77 ）	100.0（ 93 / 93 ）

内訳：各週数毎の生存数（例）／各週数毎の出生数（例）

9 出生体重別の日齢28日以後の生存率（％）

	2019年（内訳）	2020年（内訳）	2021年（内訳）	2022年（内訳）	2023年（内訳）
1,250-1,499g	-（ - / - ）	-（ - / - ）	100.0（ 1 / 1 ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）
1,500-1,749g	100.0（ 1 / 1 ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）	-（ - / - ）
1,750-1,999g	100.0（ 1 / 1 ）	100.0（ 3 / 3 ）	100.0（ 1 / 1 ）	100.0（ 2 / 2 ）	100.0（ 2 / 2 ）
2,000-2,249g	100.0（ 6 / 6 ）	100.0（ 5 / 5 ）	100.0（ 9 / 9 ）	100.0（ 2 / 2 ）	100.0（ 2 / 2 ）
2,250-2,499g	100.0（ 5 / 5 ）	100.0（ 10 / 10 ）	100.0（ 4 / 4 ）	100.0（ 15 / 15 ）	100.0（ 9 / 9 ）
2,500g以上	100.0（ 60 / 60 ）	100.0（ 63 / 63 ）	98.3（ 57 / 58 ）	100.0（ 64 / 64 ）	100.0（ 90 / 90 ）

内訳：各体重毎の生存数（例）／各体重毎の出生数（例）

10 新生児死亡数（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
早期新生児死亡数（日齢7日未満の死亡）	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
後期新生児死亡数（日齢7日以上、日齢28日未満の死亡）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
乳児死亡数（日齢28日以降の死亡）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1 1 新生児搬送収容数（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
新生児搬送収容数	9	10	4	1	1	3	3	-	-	-

1 2 新生児搬送疾患名（例、重複あり）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
呼吸器疾患	1	-	-	3	-
呼吸障害	1	-	-	3	-
消化管疾患	-	-	-	1	-
小腸閉鎖疑い	-	-	-	1	-
心・循環器疾患	1	-	-	-	-
不整脈	1	-	-	-	-
染色体異常 奇形症候群	-	-	-	-	1
18トリソミー	-	-	-	-	1

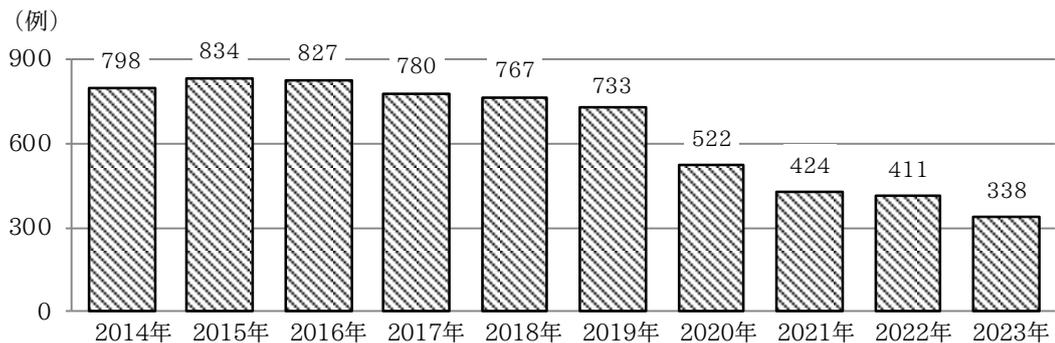
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
その他	-	3	-	1	2
低体重、双子	-	1	-	-	-
口唇口蓋裂	-	1	-	-	-
自宅出産	-	1	-	-	-
先天性表皮水疱症	-	-	-	1	-
重症新生児仮死	-	-	-	-	1
顔面奇形腫	-	-	-	-	1

第6節 県内分娩取扱病院

第1項 市立奈良病院

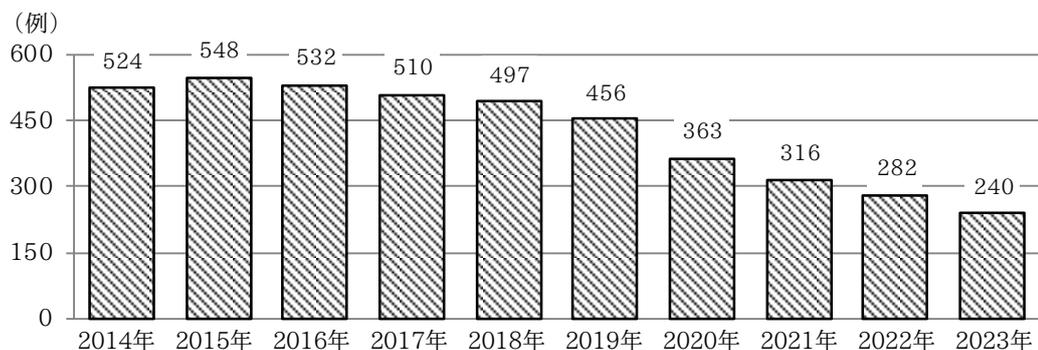
1 入院数

本年も分娩数が減少したため、入院数も減少した。



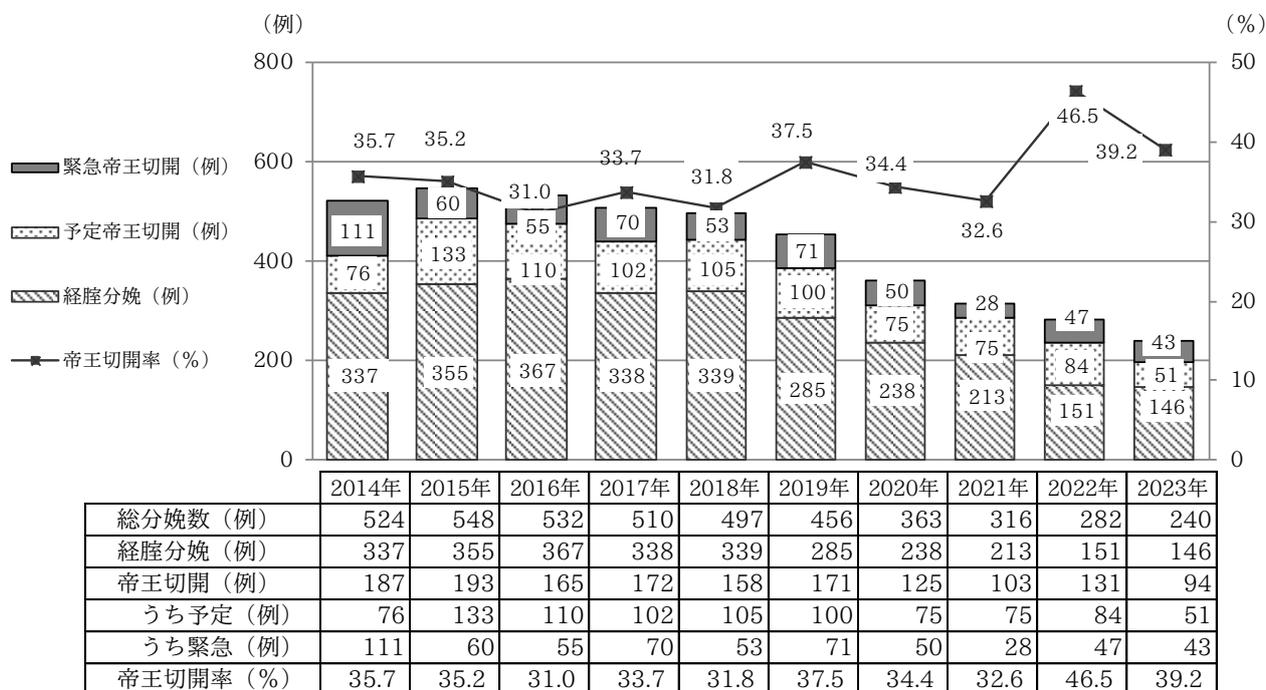
2 分娩数

COVID-19 感染拡大防止目的で、引き続き立ち会い分娩は3月まで禁止、4月以降もワクチン接種歴（2回以上の接種が必要）や罹患歴が確認できた近親者でフェイスシールドと自費で購入したN95マスクを装着した1名のみとしたため、分娩施設としては引き続き妊婦から忌避され、分娩数が激減した。



3 分娩様式

分娩数は減少し続けているが、40歳以上の分娩は前年よりも増加していた。高齢あるいは様々な合併症があり、自身がハイリスクであると自覚している妊婦が当院を受診しており（7 合併症妊娠参照）、その影響で帝王切開率は高い値で推移していると考えている。



4 分娩週数 (例、死産児除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35週	3	-	-	3	-	-	1	-	-	-
36週	25	17	24	18	21	18	14	11	13	13
37週	52	70	65	63	62	52	30	49	60	48
38週	132	157	145	146	129	150	114	101	84	70
39週	142	137	158	124	137	115	106	76	64	41
40週	113	136	115	125	99	100	70	67	52	58
41週	39	30	24	28	42	23	30	12	14	12
42週以上	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

5 出生体重 (例、死産児除く)

1,500-1,999g は、いずれも妊娠週数は36週で、妊娠高血圧腎症の2例（うち1例はDD 双胎の1児）および出生前から診断していた原因不明の胎児発育不全の1例であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1,500-1,999g	1	2	1	1	1	2	-	-	1	3
2,000-2,499g	26	34	32	35	33	31	28	22	22	15
2,500g以上	485	511	497	472	456	425	337	294	264	224

6 出産時年齢（例）

分娩数は減少しているが、40歳以上の高齢妊婦の受診が多いと考える。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	383	394	395	373	368	321	263	212	181	158
35-39歳	108	121	112	107	100	116	76	79	80	59
40-44歳	23	33	25	28	27	19	22	24	20	23
45歳以上	1	-	-	2	2	-	2	1	1	-

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	25	20	23	26	14	25	14	9	17	11
子宮筋腫（核出術後）	5	2	-	-	-	1	1	5	8	3
卵巣嚢腫（腫瘍）	9	11	11	6	11	8	8	3	7	2
子宮頸癌（含円錐切除後）	1	8	-	2	3	10	10	8	13	7
子宮形態異常	-	2	4	1	5	3	-	1	-	1
甲状腺機能亢進症	6	5	4	3	5	5	5	5	-	1
甲状腺機能低下症	8	7	9	10	8	13	8	3	6	3
糖尿病（含GDM）	10	19	16	30	17	17	13	15	13	8
喘息	12	11	23	9	15	14	18	13	5	2
慢性腎炎	-	1	6	-	2	1	1	2	-	-
本態性高血圧	2	3	1	3	1	1	-	1	2	2
自己免疫疾患	-	2	3	1	2	1	1	1	2	-
循環器疾患	1	2	3	2	2	6	1	3	4	1
精神科疾患（含てんかん）	7	6	2	11	8	6	5	6	7	4
ウイルス性肝炎（※1）	3	1	3	-	1	1	1	3	1	1
消化器疾患（※2）	1	3	4	-	5	7	2	3	1	2
その他	-	-	4	-	-	40	18	7	20	10

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	63	61	205	201	272	231	109	44	44	34
妊娠高血圧症候群	28	16	9	9	18	27	12	13	9	14
胎児発育不全	18	19	24	35	28	27	11	2	17	2
多胎妊娠	-	1	3	2	2	2	2	1	7	2
前置胎盤	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-
産後出血（※3）	14	12	-	16	34	17	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
弛緩出血（※4）	-	-	10	10	33	14	13	49	38	39
常位胎盤早期剥離	2	1	-	2	1	5	2	2	1	1
HELLP症候群	4	-	-	1	-	3	-	1	-	-
低置胎盤	1	3	1	-	-	1	2	2	1	2
血液型不適合	7	6	11	4	3	3	1	2	1	1
羊水過多	-	1	2	-	1	-	1	-	-	-
羊水過少	5	6	6	1	3	8	4	4	2	2
先天異常	1	1	6	3	1	-	-	-	-	-
その他	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術の1例は当院のかかりつけでなく、妊娠28週の初診時に茎捻転のため緊急手術を行った。子宮動脈塞栓術については、すべてRPOCの症例で、1例は妊娠9週の流産手術1か月後、もう1例は満期経陰分娩の産褥9日目で輸血も行った。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸管縫縮術	8	6	14	5	5	4	8	3	7	6
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	1	-	-	2	2	2	1	2	2
産道血腫除去術	1	2	-	3	-	-	2	1	-	1
子宮動脈塞栓術	2	1	-	1	2	5	1	1	2	2
子宮摘出術	-	1	-	-	-	1	2	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	2	3	1	3	2	4	2	1	-	1

11 多胎妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
双胎	-	1	3	2	2	2	2	1	7	2
うちMD（※1）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うちDD（※2）	-	1	3	2	2	2	2	1	7	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎/※2 二絨毛膜二羊膜双胎

12 母体搬送収容数（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
母体搬送収容数	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

13 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
妊娠高血圧症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

14 先天異常（例、重複あり）

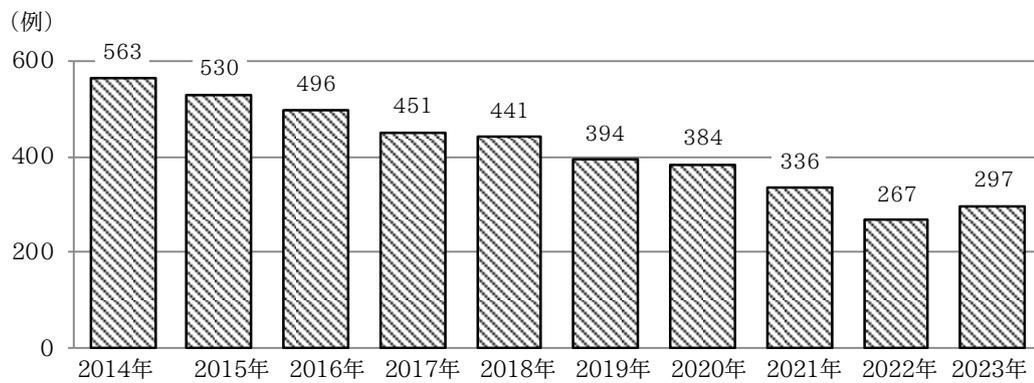
ファロー四徴症および21トリソミーは新生児搬送を行っており、当院では確定診断にいたっていない。また、胃軸捻転および下部消化管閉鎖を疑ったため新生児搬送を行った症例が1例ずつある。

疾患名	2020年		2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
21トリソミー	-	-	-	-	-	-	1	-
手指異常（合指/多指）	1	-	-	-	2	-	1	-
心室中隔欠損	2	-	-	-	-	-	-	-
無頭蓋症	-	-	-	-	1	1	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	-	-	-	-	1	-
ファロー四徴症	-	-	-	-	1	-	1	-
先天性嚢胞性腺腫様奇形	-	-	-	-	1	-	-	-
Ebstein奇形	-	-	-	-	1	-	-	-
CHARGE症候群	-	-	-	-	1	-	-	-
二分脊椎、キアリ奇形	-	-	-	-	1	1	-	-

第2項 大和郡山病院

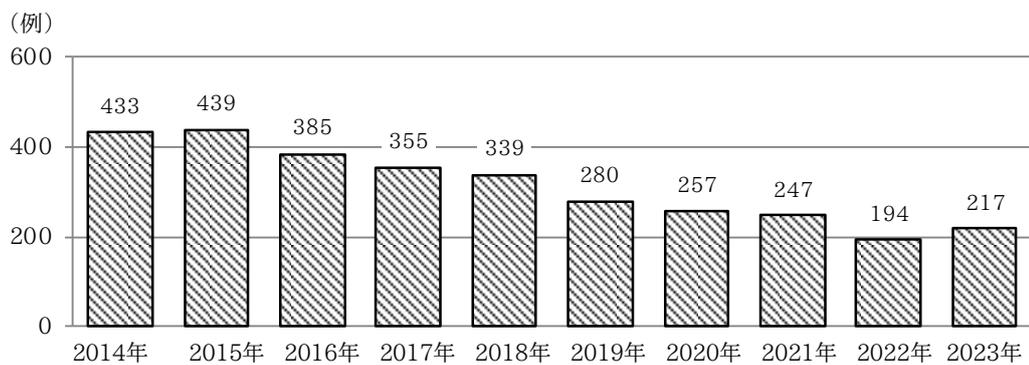
1 入院数

前年より増加した。



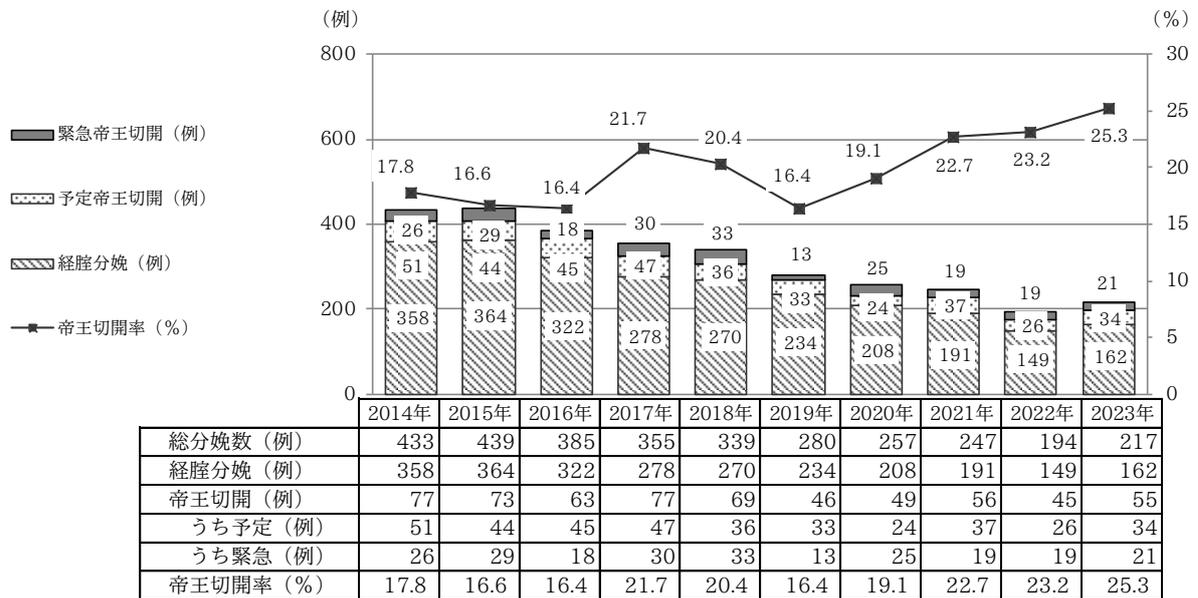
2 分娩数

前年より増加した。



3 分娩様式

帝王切開率は、ほぼ横ばいであった。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

ほぼ例年と同様であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35週	1	3	2	3	3	1	1	2	-	-
36週	7	3	6	9	5	4	6	5	5	7
37週	45	44	42	33	38	25	28	20	20	17
38週	102	88	81	90	73	65	56	62	39	47
39週	120	131	125	102	113	82	71	63	61	50
40週	131	117	97	99	79	83	78	79	54	73
41週	29	39	28	16	27	17	17	15	14	21
42週以上	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1,500-1,999g	2	1	1	1	1	-	1	1	-	1
2,000-2,499g	26	22	27	21	20	8	14	11	16	13
2,500g以上	407	402	356	330	317	269	242	234	177	201

6 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	326	308	292	241	249	202	189	174	138	142
35-39歳	96	98	74	94	79	64	53	59	48	59
40-44歳	18	23	19	17	10	14	14	14	8	16
45歳以上	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	3	2	2	4	12	2	2	2	1	2
子宮筋腫（核出術後）	2	6	-	1	3	-	2	1	1	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	2	-	-	-	-	2	-	-	3	2
子宮形態異常	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	2	-	1	-	3	2	-	-
甲状腺機能低下症	2	1	1	3	1	3	2	3	3	5
糖尿病（含GDM）	3	1	2	2	3	4	7	9	9	4
喘息	4	2	3	2	5	1	2	1	1	-
本態性高血圧	1	1	-	-	-	-	-	1	1	-
自己免疫疾患	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
循環器疾患	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	2	2	1	-	1	1	-	2
ウイルス性肝炎（※1）	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-
消化器疾患（※2）	1	3	4	4	10	1	3	2	-	1

※1 HA,HB,HCなど/※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

切迫早産がやや増加した。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	104	99	107	93	76	38	23	21	11	30
妊娠高血圧症候群	7	11	15	18	15	17	8	11	9	2
胎児発育不全	5	3	4	6	3	3	2	3	-	1
多胎妊娠	2	2	2	2	1	1	1	-	-	-
前置胎盤	-	1	-	-	-	1	-	2	-	1
産後出血（※3）	3	-	2	-	6	1	-	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	70	56	45	10	23	12	11	9
常位胎盤早期剥離	1	-	1	1	-	-	1	-	1	-
HELLP症候群	-	1	-	5	1	1	6	-	-	-
低置胎盤	-	1	1	-	1	1	-	2	4	1
血液型不適合	5	1	2	1	1	-	-	-	-	-
羊水過少	-	-	-	-	-	4	1	4	-	-
先天異常	-	5	5	2	2	-	-	1	-	-

※1 入院のみ/※2 早産期/※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合/

※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸管縫縮術	7	3	5	3	1	-	2	1	1	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	2	-	-	1	4	2	1	-	3	1
産道血腫除去術	2	1	-	-	1	-	-	-	2	-

10 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	1	-	2	-	3	2	2	1	2	-

11 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
双胎	2	1	-	-	-	-
うちMD（※1）	1	-	-	-	-	-
うちDD（※2）	1	1	-	-	-	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎/※2 二絨毛膜二羊膜双胎（※2018年より新規集計）

1 2 先天異常（例、重複あり）

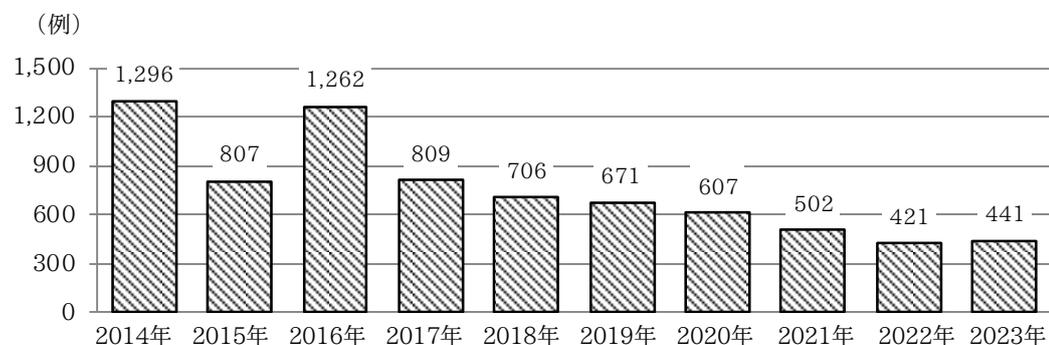
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断										
21トリソミー	2	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
心室中隔欠損	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-	-
水腎症	-	-	-	-	1	-	1	1	1	1	-	-
心房中隔欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-
福耳	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
動脈開存症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
多のう胞性異形成腎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

（※2018年より新規集計）

第3項 大和高田市立病院

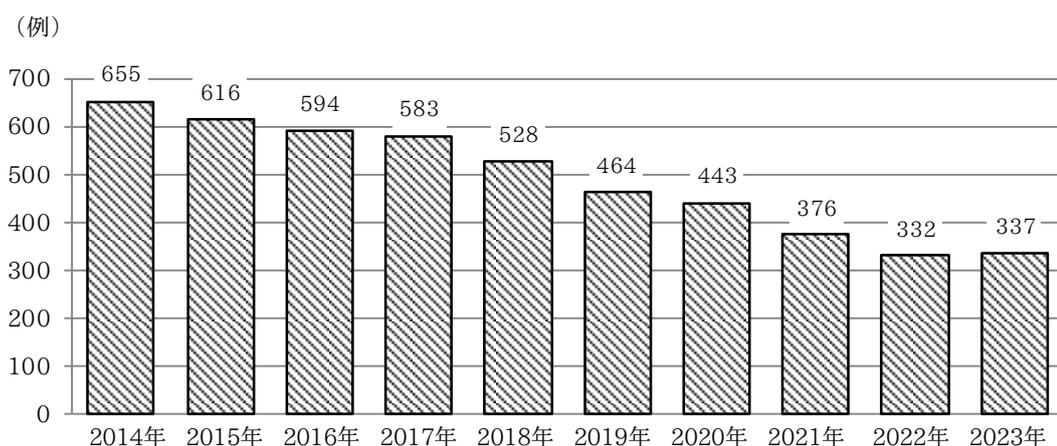
1 入院数

2016年以降減少傾向にあるが、本年は7年ぶりに増加に転じた。

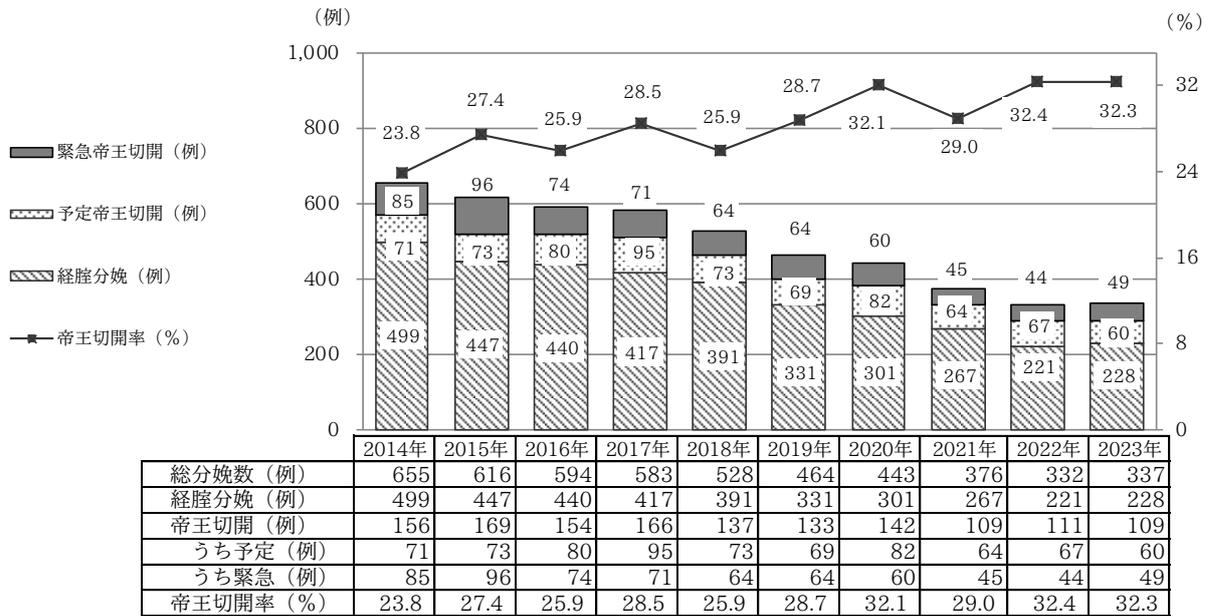


2 分娩数

2014年以降減少傾向にあるが、本年は9年ぶりに増加に転じた。



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
28週	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
30週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
35週	3	2	5	3	-	2	3	2	7	5
36週	23	14	17	15	21	22	12	9	15	13
37週	63	61	56	70	53	45	59	57	48	49
38週	166	138	134	136	115	115	100	84	79	83
39週	205	172	180	174	156	135	120	102	84	82
40週	172	193	167	155	143	115	126	108	83	93
41週	22	30	35	30	40	29	21	13	16	13
42週以上	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
500-999g	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
1,000-1,499g	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
1,500-1,999g	1	-	1	-	1	1	2	4	4	2
2,000-2,499g	65	51	34	40	35	33	26	26	26	20
2,500g以上	588	563	559	545	492	430	413	346	302	316

6 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	507	475	471	430	400	362	344	267	249	249
35-39歳	120	116	99	120	103	84	78	87	67	68
40-44歳	27	24	22	33	25	18	20	21	14	19
45歳以上	-	1	2	-	-	-	1	1	2	1

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	5	4	8	7	-	1	1	2	-	5
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	-	1	3	2	-	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	8	3	5	6	36	3	3	5	4
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	-	4	2	-	-	-	-	-	-
甲状腺機能亢進症	2	-	5	1	2	1	2	1	1	1
甲状腺機能低下症	4	-	4	5	-	-	1	1	-	3
糖尿病（含GDM）	18	9	10	7	10	14	9	7	5	11
喘息	4	2	3	3	-	-	1	2	-	8
慢性腎炎	2	-	-	2	-	1	-	2	2	-
本態性高血圧	-	-	-	-	-	17	2	-	2	2
ITP	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
自己免疫疾患	-	-	2	3	1	3	6	-	-	3
循環器疾患	-	2	2	2	5	-	7	2	-	7
精神科疾患（含てんかん）	1	-	2	1	1	2	-	-	1	1
ウイルス性肝炎（※1）	4	2	2	-	-	-	-	-	1	-
消化器疾患（※2）	3	1	4	5	4	40	3	5	7	4

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	41	65	76	103	98	12	6	7	46	7
妊娠高血圧症候群	12	21	7	22	19	21	22	31	16	21
胎児発育不全	10	8	1	1	3	8	5	1	-	2
多胎妊娠	4	4	2	2	1	-	-	1	5	2
前置胎盤	2	1	1	2	-	1	-	-	-	-
産後出血（※3）	40	29	8	10	10	-	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	3	2	4	7	1	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	3	1	111	97	57	37
常位胎盤早期剥離	5	3	2	1	4	1	2	1	1	1
HELLP症候群	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
低置胎盤	2	2	-	-	-	1	-	2	1	-
血液型不適合	4	-	4	3	1	-	-	-	-	2
羊水過多	-	-	-	1	1	8	-	-	-	-
羊水過少	4	1	-	-	-	1	3	1	5	7
先天異常	1	1	2	-	1	1	2	1	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	2	2	1	55	1	3	-	7
産道血腫除去術	-	2	-	2	-	-	1	1	4	-
子宮摘出術	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	2	4	1	5	2	6	1	1	4	3

1 1 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
双胎	1	-	-	1	5	2
うちMD（※1）	-	-	-	-	1	-
うちDD（※2）	1	-	-	1	4	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎

（※2018年より新規集計）

1 2 母体搬送収容数（例）

当院にて出産退院後、産後10日で大量出血した症例である。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
母体搬送収容数	-	1	1	-	-	1

（※2018年より新規集計）

1 3 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	-	1	1	-	-	-
産後出血	-	-	-	-	-	1
その他	-	-	-	-	-	-

1 4 先天異常（例、重複あり）

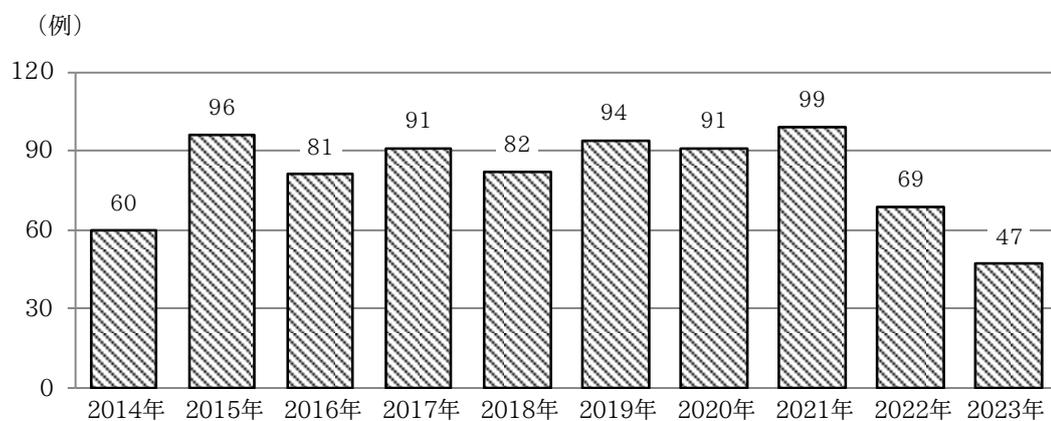
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断										
脳室拡大	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
心室中隔欠損	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	1	2	1	2	1	-	-	-	-
水腎症	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
血管腫	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
脳出血	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

（※2018年より新規集計）

第4項 高井病院

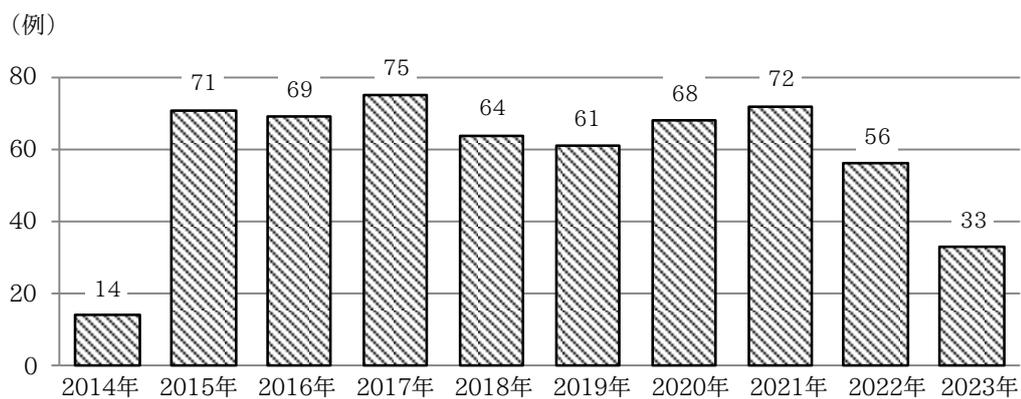
1 入院数

2023年10月から12月までは分娩を休止したため、減少した。



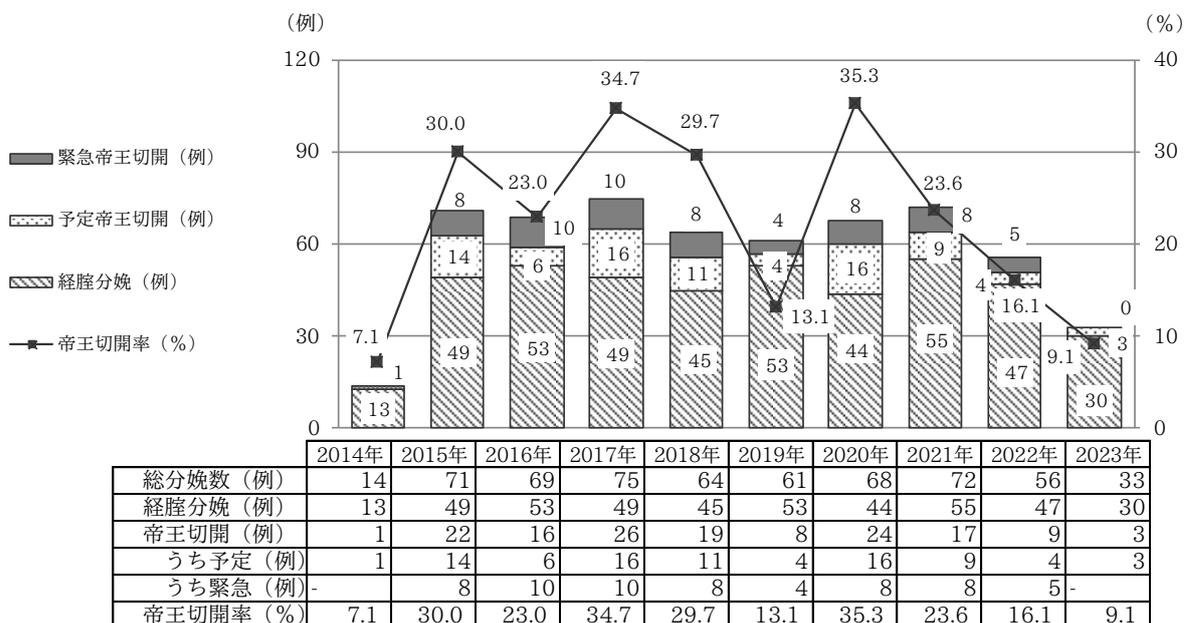
2 分娩数

2023年10月から12月までは分娩を休止したため、減少した。



3 分娩様式

帝王切開率は前年に比較して、減少した。



4 分娩週数(例、死産児は除く)

全例正期産分娩であった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
31週	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
35週	-	1	-	2	2	-	-	-	-	-
36週	-	2	2	1	-	2	-	2	2	-
37週	1	12	5	11	12	4	6	12	6	4
38週	7	13	12	14	22	15	23	17	8	4
39週	1	16	19	24	9	15	19	16	22	14
40週	3	21	20	18	14	18	13	20	11	8
41週	2	5	11	4	5	7	7	5	7	3

5 出生体重(例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
2,000-2,499g	-	7	4	7	5	3	-	7	1	1
2,500g以上	14	63	65	67	59	58	67	65	55	32

6 出産時年齢(例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	10	59	55	59	50	52	52	54	42	27
35-39歳	3	11	12	14	12	8	13	18	13	5
40-44歳	1	1	2	2	2	1	3	-	1	1

7 合併症妊娠（例）

合併症妊娠は1例もなかった。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	-	-	-	3	-	2	1	-	1	-
子宮筋腫（核出術後）	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
子宮形態異常	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-
甲状腺機能低下症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
糖尿病（含GDM）	-	-	-	-	-	2	2	2	2	-
ウイルス性肝炎（※1）	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	-	7	10	9	5	11	4	6	6	-
妊娠高血圧症候群	-	1	3	4	2	-	-	1	-	-
胎児発育不全	-	1	1	2	-	-	1	2	-	-
多胎妊娠	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
産後出血（※3）	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	-	-	11	10	8	7	3
常位胎盤早期剥離	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
低置胎盤	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
血液型不適合	-	-	-	2	1	1	1	-	-	-
先天異常	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
子宮摘出術	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

11 多胎妊娠（例）

該当なし

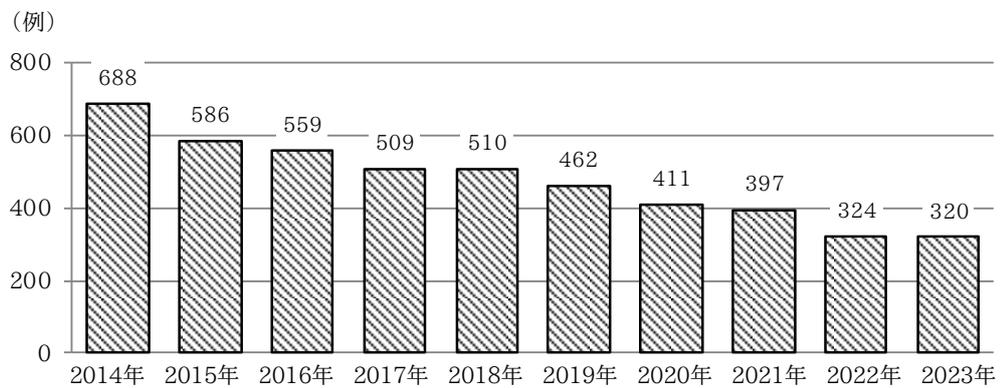
12 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断										
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-

（※2018年より新規集計）

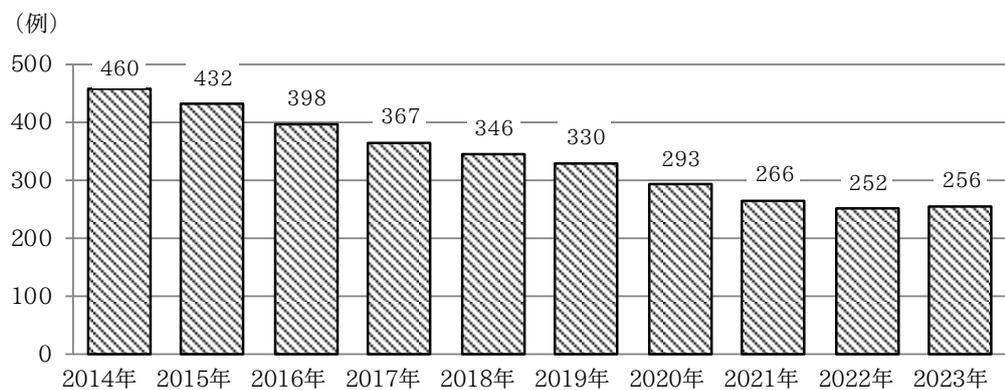
第5項 桜井病院

1 入院数

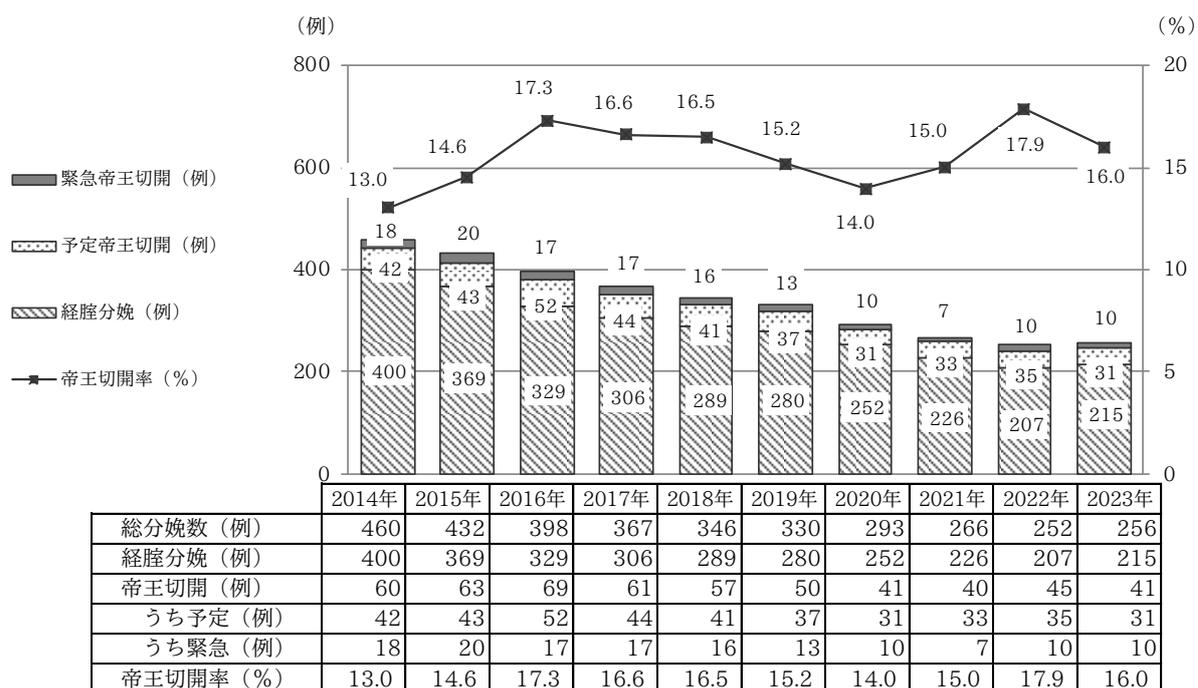


2 分娩数

分娩数は例年とほぼ同様である。



3 分娩様式



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

正期産での分娩が多数を占める。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
34週	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
35週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36週	7	5	4	5	3	4	2	2	6	6
37週	68	62	80	63	54	60	50	37	36	24
38週	70	74	65	66	46	65	40	51	51	44
39週	123	145	129	113	116	83	77	67	79	76
40週	144	102	88	89	95	87	91	74	65	79
41週	48	42	30	31	31	31	33	34	15	27
42週以上	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1,500-1,999g	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
2,000-2,499g	17	17	23	13	19	28	17	21	20	18
2,500g以上	443	415	373	354	327	301	276	245	232	238

6 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	360	344	304	278	266	256	240	210	183	204
35-39歳	87	78	83	78	66	61	49	47	51	47
40-44歳	13	10	9	11	14	13	4	9	18	5
45歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

7 合併症妊娠（例）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	9	10	4	5	6	9	9	11	16	4
子宮筋腫（核出術後）	-	1	-	2	2	2	-	-	2	1
卵巣嚢腫（腫瘍）	3	6	10	1	8	4	5	4	5	6
子宮頸癌（含円錐切除後）	1	2	1	-	1	1	-	-	4	1
子宮形態異常	-	-	-	-	-	1	1	-	2	-
甲状腺機能亢進症	4	4	-	3	2	5	4	1	2	3
甲状腺機能低下症	5	7	10	12	16	6	10	9	7	9
糖尿病（含GDM）	3	3	4	5	4	5	8	4	2	-
喘息	2	-	1	2	3	8	4	4	6	5
本態性高血圧	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
自己免疫疾患	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
循環器疾患	-	-	-	-	3	1	5	2	2	1
精神科疾患（含てんかん）	1	-	4	2	1	-	3	1	4	2
ウイルス性肝炎（※1）	2	-	-	1	-	1	-	-	1	-
消化器疾患（※2）	1	-	2	1	1	1	-	1	1	1
その他	12	-	4	5	-	10	9	4	5	6

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	7	3	5	4	1	67	57	63	30	29
妊娠高血圧症候群	5	3	1	5	8	3	4	1	3	1
胎児発育不全	6	-	-	-	-	1	2	-	1	-
産後出血（※3）	8	11	4	4	1	-	-	-	-	-
子癇	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	4	4	6	-	4	6	8	7
常位胎盤早期剥離	5	5	1	2	1	-	1	-	-	1
低置胎盤	1	4	1	2	1	-	2	7	1	4
血液型不適合	-	6	3	2	3	3	5	2	3	1
先天異常	5	8	7	2	8	4	7	1	4	1
その他	-	-	-	1	6	3	4	-	-	1

※1 入院のみ、2014年～2018年は未集計／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／
 ※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

その他は、卵巣結紮術1例、子宮筋腫（核出）1例、バクリバルーン挿入1例である。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸管縫縮術	-	1	-	-	2	1	-	-	2	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	10	-	-	2	-	-	-	1	-
その他	-	-	-	-	2	1	-	-	1	3

10 輸血治療症例（例）

該当なし

11 多胎妊娠（例）

該当なし

1 2 先天異常（例、重複あり）

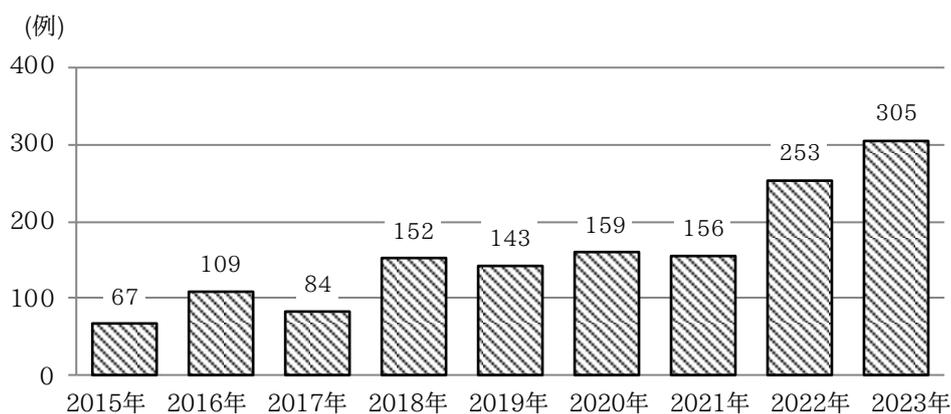
疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断										
手指異常（合指／多指）	1	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-
心室中隔欠損	-	-	2	2	1	1	-	-	-	-	1	-
ファロー四徴症	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水腎症	8	8	2	2	1	2	1	1	-	2	-	
内臓錯位	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
肺動狭窄	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
肛門ポリープ	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
心筋肥大	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
21トリソミー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
両先天性膝蓋亜脱臼	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

（※2018年より新規集計）

第6項 生駒市立病院

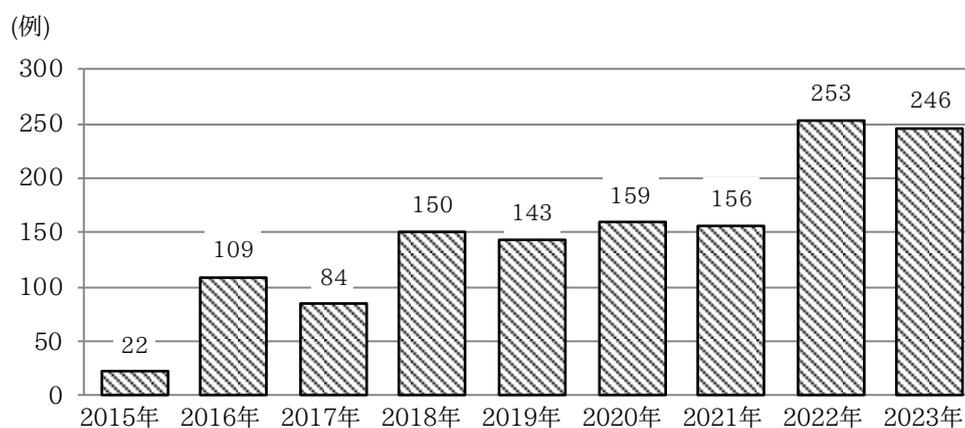
1 入院数

合併症を持つ妊娠が増えたため件数が増加している。



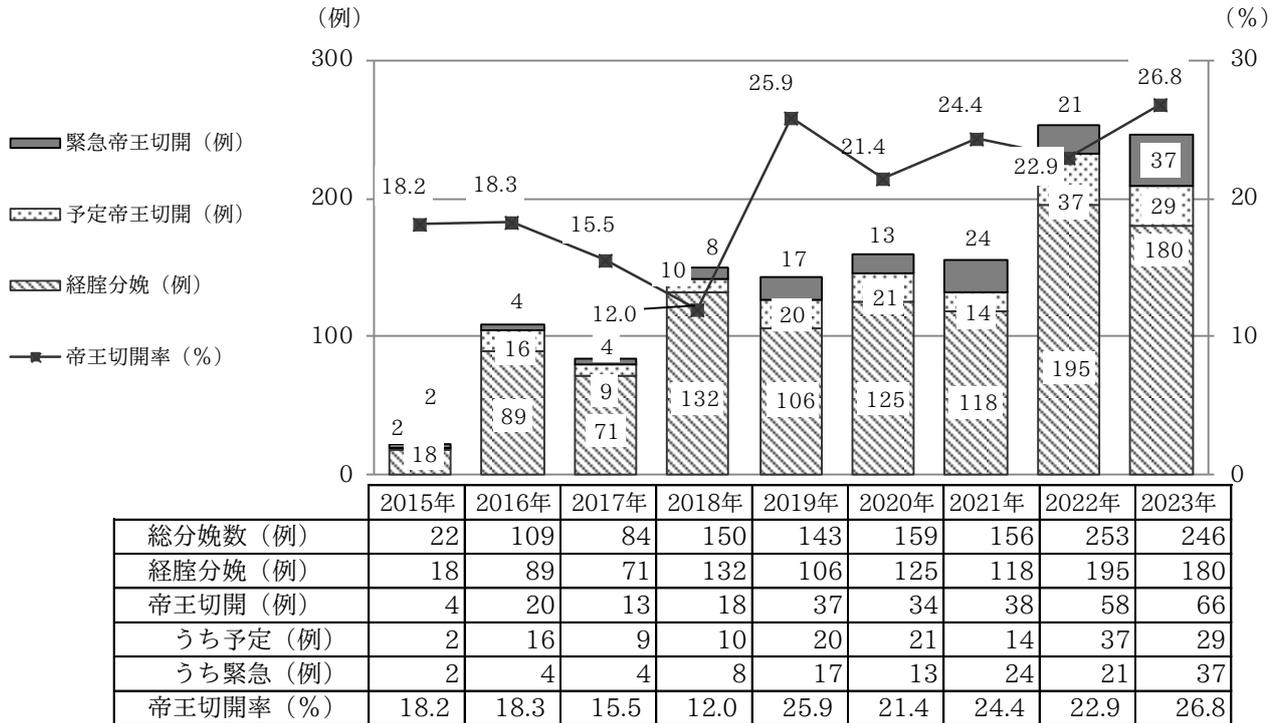
2 分娩数

分娩数は横ばいである。



3 分娩様式

体外受精妊娠の増加に伴い、難産が増えたと考えられる。



4 分娩週数 (例、死産児は除く)

36週の早産が増加した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
34週	-	-	-	-	-	-	-	-	1
35週	-	-	-	1	-	-	1	1	-
36週	-	1	-	11	1	1	-	4	8
37週	-	6	8	8	14	12	7	13	14
38週	9	31	14	30	28	32	39	69	53
39週	8	28	30	42	35	52	40	75	84
40週	4	33	26	47	55	52	53	74	67
41週	1	10	6	11	9	11	15	15	19
42週以上	-	-	-	-	1	-	1	1	-

5 出生体重 (例、死産児は除く)

早産が増加した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1,500-1,999g	-	-	1	1	-	-	1	-	1
2,000-2,499g	1	3	2	13	12	8	6	8	14
2,500g以上	21	106	81	136	131	152	149	244	231

6 出産時年齢（例）

高齢出産が増えつつある。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	15	67	50	101	131	113	103	182	159
35-39歳	4	35	23	39	10	35	39	52	69
40-44歳	3	7	10	10	2	11	13	19	17
45歳以上	-	-	1	-	-	-	1	-	1

7 合併症妊娠（例）

例年と著変なかった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	-	1	-	7	2	4	1	2	3
子宮筋腫（核出術後）	-	2	2	2	4	1	3	1	3
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	1	-	-	3	3	1	-
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	1	-	9	2	-	-
子宮形態異常	-	-	-	-	-	-	1	-	-
甲状腺機能亢進症	-	-	1	1	-	-	-	1	2
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	1	5	3	-	-
糖尿病（含GDM）	-	1	3	4	7	12	6	14	16
喘息	-	-	3	2	2	3	5	2	2
本態性高血圧	-	-	-	1	-	-	-	1	-
自己免疫疾患	-	-	-	1	-	-	1	-	-
循環器疾患	-	-	-	-	-	-	2	-	-
精神科疾患（含てんかん）	-	-	1	-	-	2	1	2	2
ウイルス性肝炎（※1）	-	-	-	-	1	-	-	-	-
消化器疾患（※2）	-	-	2	-	-	1	-	-	-
その他	-	-	2	1	1	1	-	-	-

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

例年と著変なかった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	1	3	2	2	-	-	1	-	-
妊娠高血圧症候群	1	2	3	4	4	19	7	3	2
胎児発育不全	-	-	1	-	-	1	-	-	1
多胎妊娠	-	-	-	-	1	1	-	-	-
前置胎盤	1	1	1	-	2	2	1	-	-
産後出血（※3）	-	1	-	-	-	-	-	-	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	1	7	5	5	5	-
常位胎盤早期剥離	-	-	-	-	-	-	-	-	1
HELLP症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	1
低置胎盤	-	-	-	1	-	-	-	1	-
血液型不適合	-	-	-	1	-	2	-	-	-
羊水過多	-	7	-	-	-	-	-	-	-
羊水過少	-	8	-	-	-	-	-	-	-
先天異常	-	1	-	-	1	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	1	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸管縫縮術	-	-	-	-	1	1	1	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	6	10	11	-	-	-	-	-
子宮摘出術	7	3	11	6	-	-	-	-	-
その他	-	-	31	32	2	-	1	-	-

10 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	-	-	2	-	3	1	2	-	-

11 多胎妊娠（例）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
双胎	-	1	1	-	-	-
うちMD（※1）	-	-	-	-	-	-
うちDD（※2）	-	1	1	-	-	-
うち不明	-	-	-	-	-	-

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

12 母体搬送収容数（例）

	2020年	2021年	2022年	2023年
母体搬送収容数	1	-	-	-

13 母体搬送疾患名（例、重複あり）

	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（入院のみ）・ 前期破水（早産期）	1	-	-	-

14 先天異常（例、重複あり）

疾患名	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断										
口唇裂・口蓋裂	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

（※2018年より新規集計）

第7節 県内分娩取扱診療所

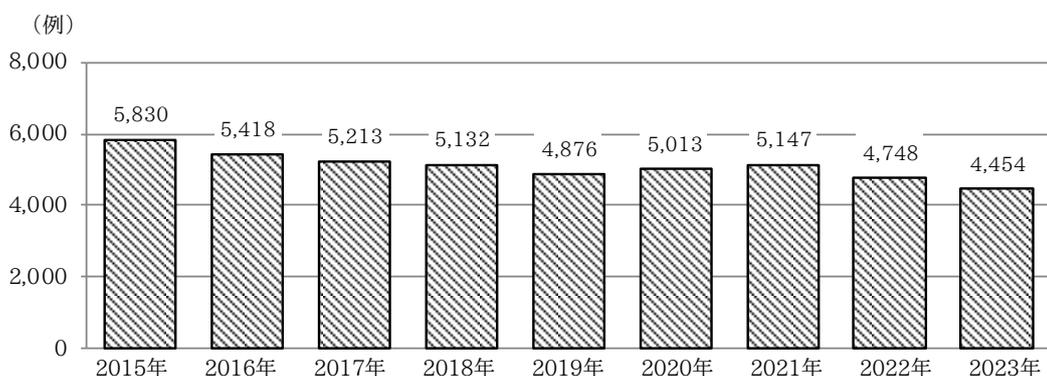
1 入院数

本年、診療所で取り扱われた入院症例数は著明に減少した。



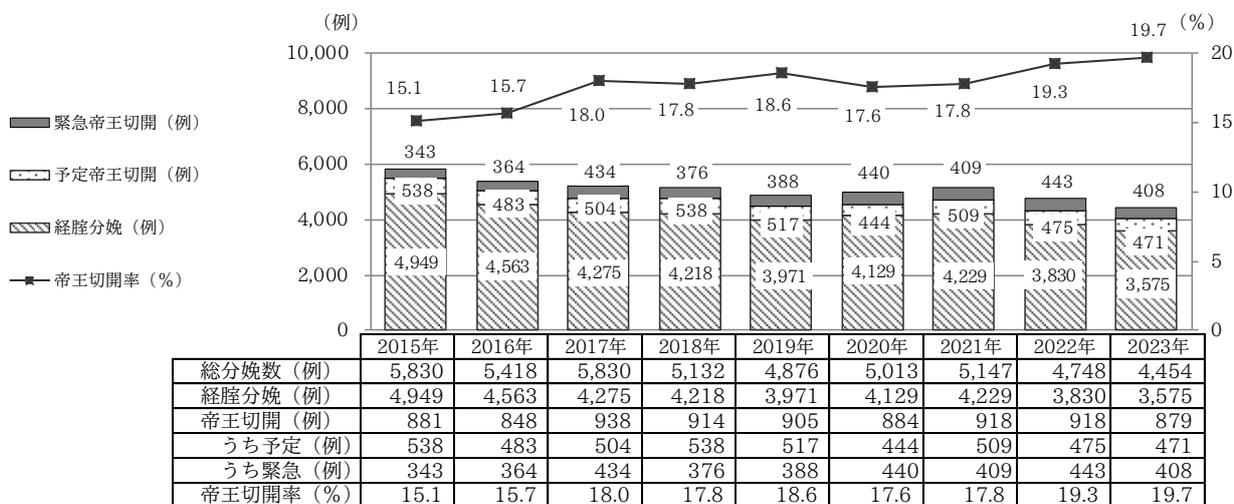
2 分娩数

本年も診療所で取り扱われた分娩数は引き続き減少した。



3 分娩様式

診療所における帝王切開率は年々増えており、妊婦の高齢化などが一因であると考える。



4 分娩週数（例、死産児は除く）

本年、診療所における早産児出生は72例で、いずれも後期早産児であった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
27週	-	-	-	-	1	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	1	-	-	-
30週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
31週	-	-	-	1	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-	1	1	-	-
33週	-	-	-	-	-	-	-	2	1
34週	-	-	-	3	1	1	-	1	1
35週未満	3	3	-	-	-	-	-	-	-
35週	15	14	12	11	9	16	26	12	6
36週	98	89	94	91	94	77	124	86	64
37週	458	438	414	401	323	412	407	395	361
38週	1,172	1,133	1,203	1,016	1,101	1,127	1,146	1,050	1,082
39週	1,800	1,714	1,610	1,591	1,508	1,620	1,634	1,475	1,387
40週	1,660	1,513	1,384	1,467	1,398	1,348	1,350	1,313	1,223
41週	536	489	447	513	405	404	426	401	317
42週以上	31	12	26	24	15	8	14	6	3

（※2017年までは、35週未満はまとめて集計）

5 出生体重（例、死産児は除く）

診療所における低出生体重児出生率は、4-5%程度で変わらず推移した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1,000-1,499g	-	-	-	-	1	-	-	-	-
1,500-1,999g	10	2	6	8	5	5	7	5	4
2,000-2,499g	280	244	247	250	198	225	226	187	203
2,500g以上	5,163	5,162	4,942	4,860	4,645	4,785	4,896	4,549	4,238

6 出産時年齢（例）

全国的水準と同様、妊婦の高齢化により診療所でも高年妊娠症例数の割合は高くなっている。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	4,118	4,043	3,877	3,832	3,633	3,853	3,839	3,637	3,336
35-39歳	1,158	1,171	1,099	1,089	1,016	1,003	1,118	918	918
40-44歳	180	207	226	210	223	159	189	189	192
45歳以上	2	-	6	1	4	4	1	4	8

（※2020年は死産6例を含む）

7 合併症妊娠（例）

合併症妊娠症例数は概ね例年通りであるが、喘息合併妊娠は増加した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	58	103	47	73	92	38	90	70	91
子宮筋腫（核出術後）	18	18	12	10	17	6	6	14	8
卵巣嚢腫（腫瘍）	26	20	19	21	18	15	14	23	21
子宮頸癌（含円錐切除後）	13	14	10	10	9	12	8	11	10
子宮形態異常	3	7	1	3	3	2	-	9	3
甲状腺機能亢進症	13	12	13	10	15	17	16	13	8
甲状腺機能低下症	21	22	28	34	29	41	31	61	42
糖尿病（含GDM）	9	20	40	18	18	22	15	32	47
喘息	27	28	46	56	41	52	48	82	134
慢性腎炎	-	-	1	-	-	-	-	-	-
本態性高血圧	3	-	-	-	6	-	-	-	-
ITP	-	2	1	-	-	-	-	-	-
自己免疫疾患	1	-	4	3	2	1	-	1	1
循環器疾患	3	-	1	4	2	-	-	3	1
精神科疾患（含てんかん）	16	13	5	10	12	7	13	17	12
ウイルス性肝炎（※1）	13	9	5	4	2	4	1	2	1
消化器疾患（※2）	8	2	6	1	3	11	4	8	7
その他	1	1	7	45	16	9	5	3	5

※1 A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎など／※2 虫垂炎、潰瘍性大腸炎など

8 産科合併症（例、重複あり）

産科合併症については概ね例年通りであるが、弛緩出血については明らかに増加した。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産（※1）・前期破水（※2）	268	455	146	242	229	243	188	190	138
妊娠高血圧症候群	84	77	55	119	111	100	69	83	75
胎児発育不全	41	38	82	30	58	34	12	19	18
多胎妊娠	2	4	1	3	3	2	4	1	5
前置胎盤	3	2	-	1	-	3	2	1	-
産後出血（※3）	168	165	75	117	55	-	-	-	-
子癇	-	-	-	1	-	-	-	1	-
弛緩出血（※4）	-	-	-	150	107	159	148	203	351
常位胎盤早期剥離	8	12	9	20	10	8	6	9	4
HELLP症候群	3	1	1	1	3	2	1	3	-
低置胎盤	5	17	15	3	8	8	4	4	1
血液型不適合	18	14	13	9	8	8	7	11	7
羊水過多	11	33	24	15	16	11	17	9	10
羊水過少	26	47	38	53	51	34	37	37	42
先天異常	24	6	7	36	17	13	15	-	2
その他	8	13	2	1	2	4	3	-	-

※1 入院のみ／※2 早産期／※3 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※4 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

9 産科手術 他（例）

子宮頸管縫縮術については、高次医療機関への紹介が年々増え、診療所での実施は減少に転じていると考えられる。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸管縫縮術	23	4	10	20	28	11	11	6	5
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	7	2	1	-	-	1	3	11	1
産道血腫除去術	11	6	6	5	7	11	5	4	2
子宮動脈塞栓術	-	-	2	-	-	-	-	-	-
その他	5	1	-	-	12	-	-	18	16

10 輸血治療症例（例）

例年と著変なかった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
輸血治療症例数	14	8	8	7	10	2	3	3	3

11 多胎妊娠（例）

例年と著変なかった。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
双胎	3	3	2	4	1	5
うちMD（※1）	2	-	1	2	1	3
うちDD（※2）	1	3	1	2	-	2

※1 一絨毛膜二羊膜双胎／※2 二絨毛膜二羊膜双胎
（※2018年より新規集計）

12 先天異常（例、重複あり）

本年は例年に比べ、胎内診断がなされていた症例の割合が低かった。

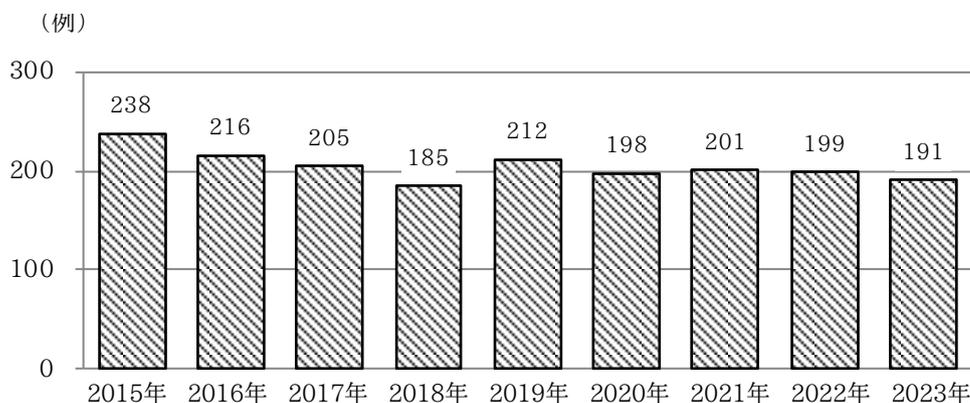
疾患名	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	症例数	胎内診断								
cystic hygroma	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
21トリソミー	1	1	-	-	2	-	-	-	1	-
手指異常（合指／多指）	-	-	6	-	1	-	1	-	5	-
先天性横隔膜ヘルニア	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
心室中隔欠損	5	-	15	5	3	-	8	4	1	-
胎児水腫	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
小腸閉鎖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無頭蓋症	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-
尿道下裂	-	-	4	-	-	-	1	-	1	-
口唇裂・口蓋裂	4	1	2	-	4	3	3	1	1	-
不整脈	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
胸腹水	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-
無脳症	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ファロー四徴症	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
水腎症	-	-	7	7	10	10	10	10	2	2
大血管転位	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鎖肛	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
気管軟化症	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
尿道閉鎖	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大動脈離断症	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
血管腫	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-
肺動脈狭窄症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
腸回転異常	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

（※2018年より新規集計）

第8節 県内分娩取扱助産所

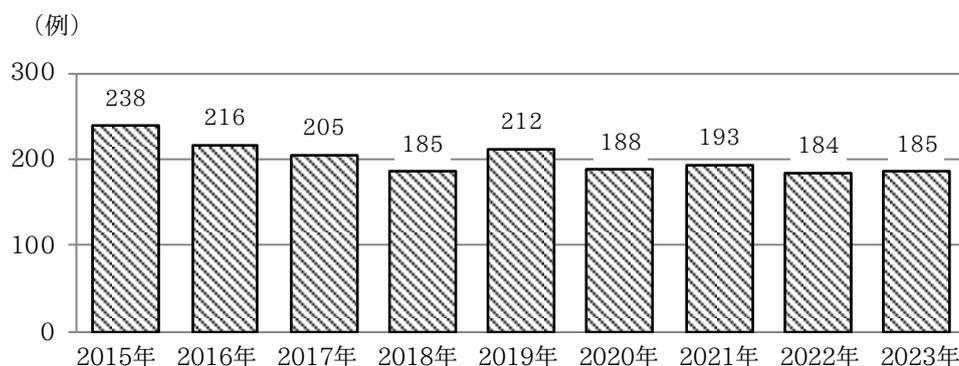
1 入院数

本年の県内分娩取扱助産所は前年と同様に7か所となっている。202例の周産期管理を7か所の助産所で開始している。妊娠中に嘱託医等に転院になった症例が11例あった。その理由は予定日超過が4例と最も多かった。他には妊娠糖尿病、妊娠貧血、血小板減少症、骨盤位、胎児発育不全、巨大児疑い、胎児奇形疑いが各1例であった。最終的に助産所で入院となったのは191例であった。



2 分娩数

県内の全分娩のうち、助産所で分娩した症例の割合は2022年が2.3%、本年は2.4%であった。



3 分娩週数（例、死産児は除く）

分娩週数は妊娠39週が38%、40週が36%であり、39週から40週の分娩が全体の74%であった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
36週	-	-	-	-	-	-	-	-	3
37週	14	-	12	9	18	7	8	4	6
38週	35	10	44	36	37	39	30	30	29
39週	94	43	68	66	73	74	74	76	71
40週	87	69	62	68	62	60	73	61	67
41週	7	84	19	6	22	8	8	13	9
42週以上	1	10	-	-	-	-	-	-	-

4 出生体重（例、死産児は除く）

2,000g-2,499gの内訳は2,300g台が2例、2,400g台が4例であった。血糖管理を含め嘱託医との指示書の下で適切に管理されていた。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
2,000-2,499g	1	3	2	1	7	-	5	6	6
2,500g以上	237	213	203	184	205	188	188	178	179

5 出産時年齢（例）

妊婦は高齢化しているが、35歳以上の出産は、2022年は34.7%、本年は33.5%であった。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35歳未満	183	141	146	133	126	133	114	120	123
35-39歳	48	67	50	44	73	51	64	58	54
40-44歳	7	9	9	8	12	4	15	6	7
45歳以上	-	-	-	-	1	-	-	-	1

6 合併症妊娠（例）

卵巣嚢腫2例は妊娠前に診断され、妊娠分娩経過に影響が無いことを確認し助産所管理となっている。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮筋腫	3	1	5	-	1	4	2	2	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	3	-	-	-	-	-	2
甲状腺機能亢進症	1	-	-	-	-	-	-	-	-
精神科疾患（含てんかん）	1	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	1	-	-	-	-

7 産科合併症（例、重複あり）

弛緩出血3例については嘱託医の指示書に従い助産所にて管理を行った。嘱託医に速やかに報告し、その後の管理についての指示を受け、実施している。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
切迫早産・前期破水	8	8	12	6	4	-	-	-	-
胎内胎児発育制限	2	-	-	1	-	-	-	-	-
産後出血（※1）	-	-	1	3	12	-	-	-	-
弛緩出血（※2）	-	-	-	-	-	2	4	1	3
常位胎盤早期剥離	-	-	-	-	-	1	-	-	-
先天異常	-	-	-	2	1	-	-	-	1
その他	-	1	-	1	1	1	-	1	-

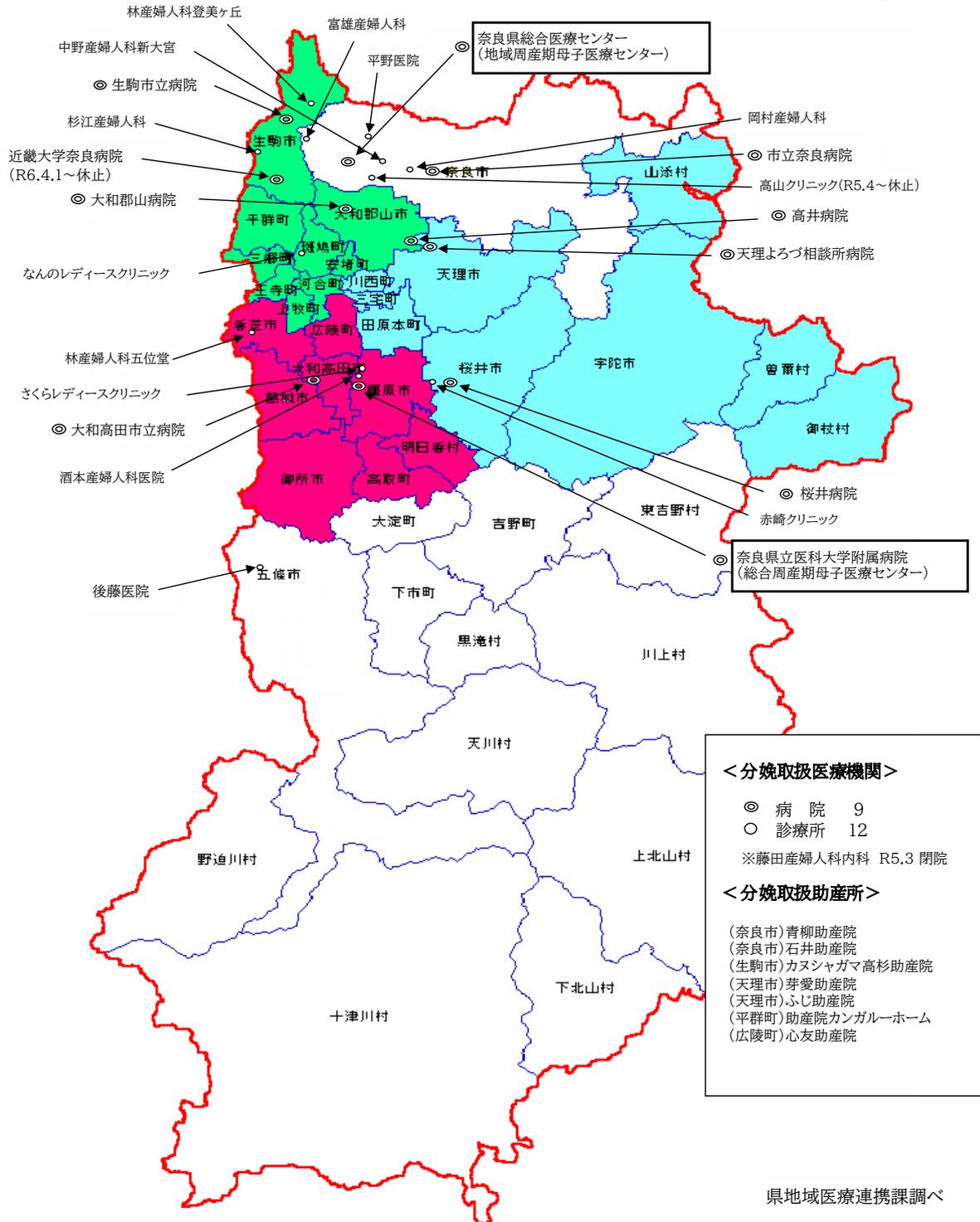
※1 産後出血の集計は2019年まで、2020年より弛緩出血に統合／

※2 羊水を含む出血量800ml以上（帝王切開1500ml以上）の例、2015年以前は未集計

参考資料

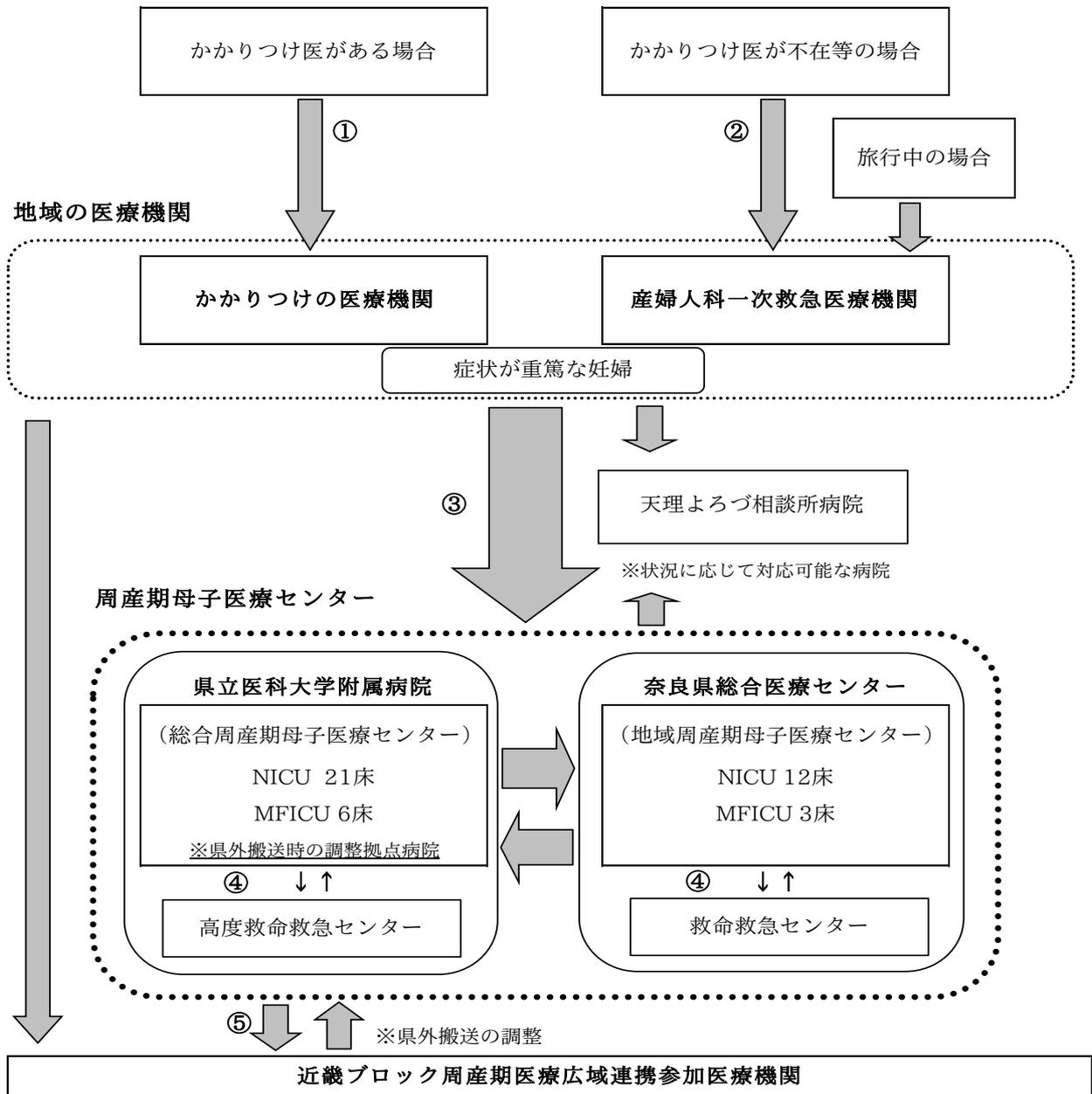
1. 奈良県産婦人科(周産期)医療体制図

令和6年10月現在



2. 母体搬送連携イメージ

令和6年10月現在



- ① かかりつけ医がまず対応
- ② かかりつけ医がいないもしくは対応できない場合は、産婦人科一次救急医療機関が対応
- ③ かかりつけ医、産婦人科一次救急医療機関等地域の医療機関で対応ができない症状の場合は、周産期母子医療センターが対応（状況に応じて天理よろづ相談所病院が対応）
- ④ 周産期母子医療センターにおいて産科合併症以外の合併症等の重篤な症状の場合は、必要に応じて併設する救命救急センターと連携し、対応
- ⑤ 万一母体の県外搬送が必要になった場合は、近隣府県の広域搬送調整拠点病院を通じて、早急に県外搬送先を選定し、搬送

3. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

(地域別、五十音順)
(令和6年10月現在)

地域	医療機関名	住所及び電話番号
北和	岡村産婦人科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	きよ女性クリニック	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市立奈良病院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉江産婦人科	生駒市元町1-11-3 0743-75-0123
	富雄産婦人科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中野産婦人科	奈良市四条大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
	大和郡山病院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
中南和	赤崎クリニック	桜井市谷111 0744-43-2468
	酒本産婦人科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜井病院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	内藤医院	桜井市桜井996 0744-42-2138
	林産婦人科五位堂	香芝市真美ヶ丘1丁目13-27 0745-71-5201

4. 産婦人科救急対応マニュアル(抜粋)

1. 一次救急編

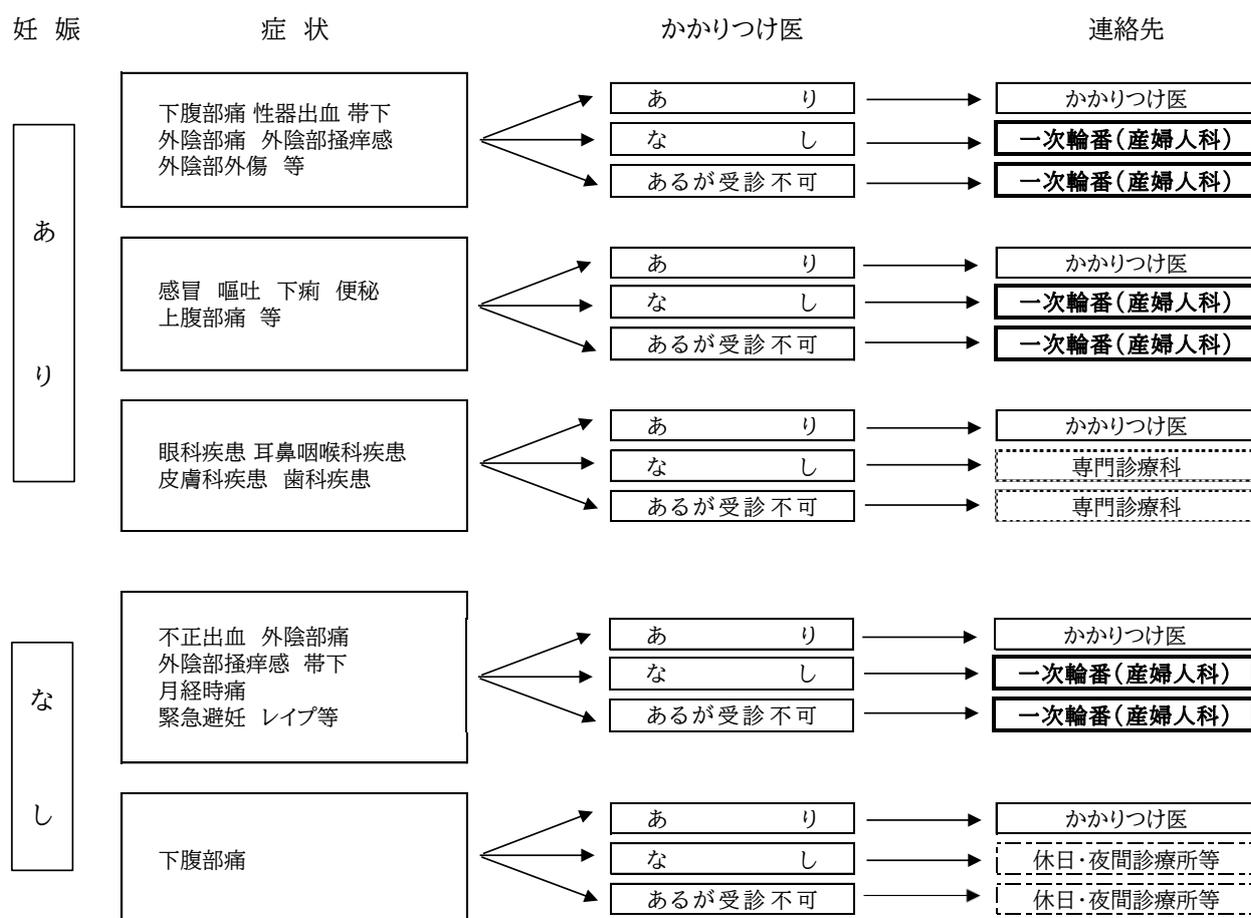
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいうまでもないため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対処いただきますようお願いいたします。



5. 県内分娩取扱医療機関一覧

令和6年10月現在

医療圏	医療機関名		住所	
奈良	1	奈良県総合医療センター	630-8581	奈良市七条西町2丁目897番5号
	2	市立奈良病院	630-8305	奈良市東紀寺町1-50-1
東和	3	高井病院	632-0006	天理市蔵之庄町470-8
	4	天理よろづ相談所病院	632-0015	天理市三島町200番地
	5	桜井病院	633-0091	桜井市桜井973
西和	6	大和郡山病院	639-1013	大和郡山市朝日町1-62
	7	生駒市立病院	630-0213	生駒市東生駒1-6-2
中和	8	奈良県立医科大学附属病院	634-0813	橿原市四条町840
	9	大和高田市立病院	635-0094	大和高田市磯野北町1番1号
病院 計		9		
奈良	10	富雄産婦人科	631-0074	奈良市三松4丁目878番1
	11	平野医院	631-0821	奈良市西大寺東町2-1-52
	12	岡村産婦人科	630-8325	奈良市西木辻町30番地
	13	中野産婦人科	630-8014	奈良市四条大路1丁目3-57
東和	14	赤崎クリニック	633-0053	桜井市大字谷111
西和	15	杉江産婦人科	630-0257	生駒市元町1丁目11-3
	16	林産婦人科登美ヶ丘	630-0115	生駒市鹿畑町55番1
	17	なんのレディースクリニック	636-0123	生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
中和	18	酒本産婦人科	634-0804	橿原市内膳町4-4-26
	19	さくらレディースクリニック	634-0803	橿原市上品寺町528
	20	林産婦人科五位堂	639-0223	香芝市真美ヶ丘1-13-27
南和	21	後藤医院	637-0041	五條市本町1-7-23
診療所 計		12		
奈良	22	青柳助産院	630-8036	奈良市五条畑1丁目17番10-1号
	23	石井助産院	630-8107	奈良市奈保町5番21号
東和	24	芽愛助産院	632-0094	天理市前裁町274-1
	25	ふじ助産院	632-0063	天理市西長柄町388-2
西和	26	カヌシャガマ高杉助産院	630-0136	生駒市白庭台3丁目15番10
	27	助産院カンガルーホーム	636-0904	生駒郡平群町三里139-9
中和	28	心友助産院	635-0823	北葛城郡広陵町三吉赤部260-3
助産所 計		7		

(県地域医療連携課調べ)

6. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

令和6年4月1日現在

区 分	役 職	氏 名
総合周産期 母子医療センター	公立大学法人奈良県立医科大学 産婦人科学教室教授	木村 文則
	公立大学法人奈良県立医科大学 総合周産期母子医療センター病院教授	内田 優美子
関係団体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 産婦人科部長	佐道 俊幸
	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 新生児集中治療室部長	扇谷 綾子
	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 小児外科部長	米倉 竹夫
病 院	市立奈良病院 副院長・産婦人科部長	原田 直哉
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	住友 理浩
助産師会	奈良県助産師会	西川 佐稲子
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良市消防局救急課長)	山中 英人
奈 良 県	福祉医療部医療政策局長	通山 雅司

7. 令和5年奈良県周産期医療年報編集会議委員名簿

所 属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	産婦人科学講座講師	前川 亮
	産婦人科学講座助教	牧野 佑子
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門講師	釜本 智之
奈良県総合医療センター	産婦人科参事	喜多 恒和
	周産期母子医療センター長 産婦人科部長	佐道 俊幸
	新生児集中治療部副部長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科診療講師	西岡 和弘
	小児科助教	永谷 奈央
天理よろづ相談所病院	産婦人科副部長	富田 裕之
市立奈良病院	副院長・産婦人科部長	原田 直哉
大和郡山病院	産婦人科医長	水田 裕久
大和高田市立病院	産婦人科部長	堀江 清繁
高井病院	産婦人科部長	古川 直人
桜井病院	産婦人科副師長	森岡 由紀
生駒市立病院	総長	今村 正敏
診療所代表	奈良県産婦人科医会長 赤崎クリニック院長	赤崎 正佳
助産所代表	奈良県助産師会 心友助産院長	西川 佐稲子

8. 令和5年奈良県周産期医療年報編集ワーキンググループ委員名簿

所属		氏名
奈良県立医科大学附属病院	産婦人科学講座助教	牧野 佑子
	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門講師	釜本 智之
奈良県総合医療センター	周産期母子医療センター長 産婦人科部長	佐道 俊幸
	産婦人科副部長	吉元 千陽
	新生児集中治療部医長	恵美須 礼子
近畿大学奈良病院	産婦人科診療講師	西岡 和弘

9. 奈良県周産期医療協議会設置要綱

(目的)

第1条 奈良県における周産期医療の現状と課題を踏まえ、県民が安心して子どもを産み育てることのできる周産期医療の推進に向け、具体的な対応策を協議・検討するため、奈良県周産期医療協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1)周産期医療体制に係る調査分析に関する事項
- (2)周産期医療体制整備計画に関する事項
- (3)母体及び新生児の搬送の受入れ(県域を越えた搬送及び受入れを含む。)に関する事項
- (4)総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターに関する事項
- (5)周産期医療情報センター(周産期救急情報システムを含む。)に関する事項
- (6)搬送の調整に関する事項
- (7)地域周産期医療関連施設等の周産期医療関係者に対する研修に関する事項
- (8)その他周産期医療体制の整備に関し必要な事項

(組織)

第3条 協議会の委員は、次に掲げる者の管理者その他関係者により組織する。

- (1)学識経験者
- (2)周産期医療機関
- (3)周産期医療関係団体
- (4)周産期医療関係行政機関
- (5)その他適当と認められる者

(会長)

第4条 協議会に、会長1人を置く。

- 2 会長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。
- 3 委員から特に申し出のあった場合は、代理出席を妨げない。
- 4 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 協議会の事務局は、奈良県福祉医療部医療政策局地域医療連携課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年 7月26日から施行する。

この要綱は、平成26年 4月 1日から施行する。

この要綱は、平成30年 4月 1日から施行する。

令和5年（2023年）
奈良県周産期医療年報
令和6年（2024年）12月

発行 奈良県周産期医療協議会